

# ハード編

**FMV-BIBLO**  
NR/33X

パソコンの各部は  
こうなっている

基本的な機能を使おう

電源と節電機能を賢く使おう

オプション機器を活用しよう!

BIOSセットアップ

技術情報

索引



# こんなことがやりたい

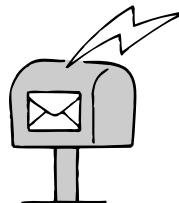
## コードレスにしたい!



喫茶店や会議室などコンセントが使えない場所では、ACアダプタを取り外して、バッテリーでパソコンが使えます。

👉 P.52

## 携帯電話でインターネットにアクセスしたい!



携帯電話でメールを送ったり、インターネットのホームページを見るときは、携帯電話を接続します。

👉 P.92

## 使い慣れたマウスで快適作業!



フラットポイントに慣れないときは、別売のマウスを接続して作業しましょう。

👉 P.84

## 印刷したい!



企画書、年賀状、家計簿...パソコンで作ったものを印刷したいときは、プリンタを接続します。

👉 P.73

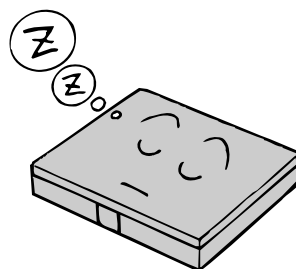
## もっと快適に作業したい!



たくさんのアプリケーションを開いたり、ゲームをしているとき「パソコンの処理が遅いなあ」と感じたことはありませんか?メモリを増設すると、より快適に作業ができます。

👉 P.77

## 休憩するときは、一時停止で節電!



液晶ディスプレイを閉じるか、SUS/RESスイッチを押すだけで、パソコンの作業を一時停止して、節電できます。

👉 P.73

## 電卓をたたくのは得意なの！ 家計簿もすばやく入力したい！



キーボードでは数字の位置がなかなか覚えられなくて...というときは、別売のテンキーボードを使って数字を入力できます。

👉P.84

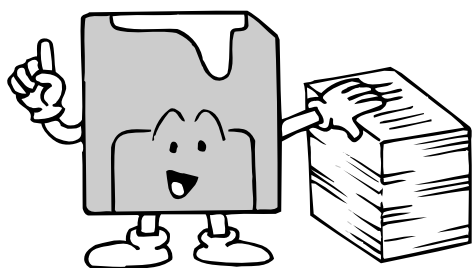
## 大画面でプレゼンテーション！！



CRT ディスプレイや液晶プロジェクタに BIBLO の画面を映すことができます。

👉P.101

## たくさんの容量のデータを保存したい！



スーパーディスクやMO（光磁気ディスク）を使って、大容量のデータをコピーしたり、バックアップとして保存できます。

👉P.111、P.114

## BIBLO で映画も見たい！



別売のDVD-ROM ドライブを取り付けると、BIBLO で映画も楽しめます。

👉P.109

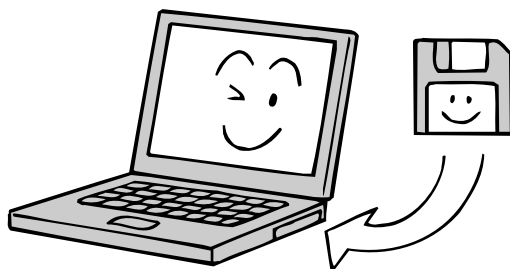
## 持ち運ぶときは、 軽いBIBLOでらくらく！



携帯するときは、CD-ROMドライブを取り外して、マルチベイ用カバーを取り付けると、重量を軽くすることができます。

👉P.22

## フロッピーディスクドライブを内蔵したい！



CD-ROMドライブを取り外して、フロッピーディスクドライブを取り付けることができます。



👉P.22

## 本書の表記について




### 安全にお使いいただくための絵記号について

本パソコンおよびその他のオプション機器を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。










本書では、いろいろな絵表示をしています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、本文をお読みください。

 <b>警告</b>	 <b>注意</b>
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。


また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次のような記号を使っています。

記号の例とその意味	
	で示した記号は、警告・注意をうながす内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な警告内容(左図の場合は感電注意)が示されています。
	⓪で示した記号は、してはいけない行為(禁止行為)であることを告げるものです。記号の中には、具体的な禁止内容(左図の場合は一般的な禁止事項)が示されています。
	で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な指示内容(左図の場合は一般的な強制事項)が示されています。


## その他の記号について

 <b>重要</b>	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 <b>アドバイス</b>	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
 <b>コラム</b>	知っていると便利なことを記述しています。必要に応じてお読みください。
	手順が分かれる場合などに、次に進む箇所を示しています。
	参照先を記述しています。
	ご覧になっていただきたいマニュアルを記述しています。
	CD-ROM を表しています。
	フロッピーディスクを表しています。
 <b>用語</b>	覚えていただきたい用語を解説しています。パソコンを初めてお使いになる方はぜひお読みください。

## 画面例および入力例について

- ・表記されている画面は一例です。お使いの機種やモデルによって、画面が若干異なる場合があります。
- ・画面およびイラストは開発中のものです。実際とは異なる場合があります。
- ・お客様に入力していただく文字列(コマンドライン)などは、入力例の文字上に  をかけて表しています。
- ・特に指定がない場合、英数字、記号は半角で入力します。また、大文字と小文字の区別はありません。
- ・入力時に空白を入れる必要がある場合は、以下のように表しています。

dir c:

この場合は、「dir」と入力したあと、 を1回押し、続けて「c:」と入力してください。

## 製品の呼びかたについて

製品名称を、次のように略して表記します。

製品名称	本書での表記
Microsoft® Windows®98 operating system	Windows98
Microsoft® WindowsNT® Workstation operating system Version4.0	WindowsNT4.0
Microsoft® Internet Explorer	Internet Explorer
Intellisync® for Notebooks	Intellisync
VirusScan for Windows 95/98	VirusScan

## 機種名の表記について

次のように略して表記します。

機種名	本書の表記
FMV-BIBLO NR/33X	本パソコン

# Contents

## 目次

こんなことがやりたい  
本書の表記について

**FMV**  
BIBLO  
Contents

### 第1章 パソコンの各部はこうなっている

1. 各部の名称と働き .....	2
本体前面 .....	2
本体左側面 .....	6
本体右側面 .....	8
本体背面 .....	9
本体下面 .....	10
状態表示 LCD .....	11
キーボード .....	14
FDD ユニット .....	17
2. 本パソコンの取り扱い上の注意 .....	18
取り扱い上の注意 .....	18
廃棄について .....	19

### 第2章 基本的な機能を使おう

1. ユニットを交換する .....	22
気をつけてください~ユニットを使うとき .....	22
マルチベイに取り付けられるユニット .....	23
マルチベイのユニットを交換する .....	24
2. フロッピーディスクを使う .....	26
FDD ユニットを取り付ける .....	26
使えるフロッピーディスクは? .....	29
気をつけてください~フロッピーディスクを使うとき .....	30
フロッピーディスクをセットする / 取り出す .....	31
フロッピーディスクのデータを守るには .....	32
3. CD-ROM を使う .....	33
使える CD は? .....	33
気をつけてください~ CD-ROM を使うとき .....	34
CD-ROM をセットする / 取り出す .....	35
4. 音量を調節する .....	39
音量ボリュームで調節する .....	39
音量つまみで調節する .....	39
5. 画面の解像度や発色数を変える .....	41
液晶ディスプレイで表示できる解像度と発色数 .....	41
液晶ディスプレイの解像度と発色数を変更する .....	41
6. お手入れのしかた .....	43
パソコン本体 / ディスプレイ / キーボードのお手入れ .....	43
フロッピーディスクドライブのお手入れ .....	43

## 第3章 電源と節電機能を賢く使おう

1. 電源を入れる / 電源を切る .....	46
電源を入れてパソコンを使おう .....	46
今日はおしまい。電源を切るには? .....	47
2. ACアダプタで使う .....	50
ACアダプタを取り付ける .....	50
ACアダプタを取り外す .....	51
3. バッテリーで使う .....	52
充電する .....	52
充電時間 .....	53
稼働時間 .....	54
残量を確認する .....	54
気をつけてください~バッテリーを使うとき .....	57
内蔵バッテリーパックを交換する .....	57
4. 節電する .....	60
サスペンド機能と Save To Disk 機能 .....	60
サスペンド機能を使う .....	61
Save To Disk 機能を使う .....	64
<b>コラム</b> 節電の設定 .....	65
5. 節電の設定を変更する .....	66
ご購入時の節電の設定 .....	66
「電源の管理」で設定を変更する .....	66
「PMSet98」で設定を変更する .....	67

## 第4章 オプション機器を活用しよう!

1. オプション機器について .....	70
オプション機器の紹介 .....	70
オプション機器の接続にあたって .....	71
2. プリンタを接続する .....	73
必要なものを用意する .....	73
プリンタを接続する .....	74
3. メモリを増やす .....	77
必要なものを用意する .....	77
メモリを取り付ける / 取り外す .....	78
4. 内蔵バッテリーユニットを増設する .....	83
必要なものを用意する .....	83
増設用内蔵バッテリーユニットを取り付ける .....	83
5. マウス / テンキーボードを接続する .....	84



6. PC カードをセットする .....	85
<b>コラム</b> PC カードの種類 .....	85
気をつけてください~ PC カードを使うとき .....	86
必要なものを用意する .....	87
PC カードをセットする .....	88
PC カードを取り出す .....	90
7. 携帯電話や PHS を接続する .....	92
PDC コネクタに接続する .....	92
PC カードを使って接続する .....	94
PDC コネクタに携帯電話を接続して通信する .....	96
8. CRT ディスプレイを接続する .....	101
必要なものを用意する .....	101
CRT ディスプレイを接続する .....	102
ディスプレイの表示を切り替える .....	103
CRT ディスプレイの解像度と発色数について .....	106
9. 内蔵 DVD-ROM ドライブユニットを取り付ける .....	109
必要なものを用意する .....	109
内蔵 DVD-ROM ドライブユニットを取り付ける .....	110
10. 内蔵スーパーディスクドライブユニットを取り付ける .....	111
必要なものを用意する .....	111
内蔵スーパーディスクドライブユニットを取り付ける .....	112
11. その他のオプション機器を使う .....	113
ハードディスクを使う .....	113
MO (光磁気ディスク) ドライブを使う .....	114

## 第 5 章 BIOS セットアップ

1. BIOS セットアップとは .....	116
2. BIOS セットアップの操作のしかた .....	117
BIOS セットアップを起動する .....	117
設定を変更する .....	118
変更内容を取り消す .....	120
BIOS セットアップを終了する .....	121
3. ご購入時の設定に戻す .....	122
4. BIOS セットアップのメニュー詳細 .....	123
メインメニュー .....	123
詳細メニュー .....	125
セキュリティメニュー .....	127
省電力メニュー .....	128
起動メニュー .....	130
情報メニュー .....	131
終了メニュー .....	131

5. BIOS のパスワード機能を使う .....	132
パスワード機能について .....	132
パスワード機能を設定する .....	133
パスワードを入力する .....	135
パスワードを変更 / 削除する .....	135
6. BIOS が表示するメッセージ一覧 .....	137
メッセージ一覧 .....	137
メッセージが表示されたときは .....	142

## 第 6 章 技術情報

1. 仕様一覧 .....	144
本体 .....	144
モデム .....	146
リソース一覧 .....	147
コネクタのピン配列と信号名 .....	148
CRT ディスプレイの走査周波数 .....	150
2. Save To Disk 領域 .....	151
Save To Disk 領域について .....	151
Save To Disk 領域の容量 .....	151
Save To Disk 領域を変更する .....	152
3. 赤外線通信ポートをお使いになるうえでの注意 .....	154
制限事項 .....	154
赤外線通信をするときの注意 .....	154
転送速度について .....	155
Windows98 の赤外線機能を使用しているとき .....	155
Intellisync の設定を確認する .....	156
4. モデムについて .....	157
内蔵モデムに電話回線を接続するときの注意 .....	157
電話回線の接続口の形状 .....	158
電話回線に電話機を取り付けているとき .....	159
認証番号の表示 .....	159
5. ドライバのインストール .....	160
インストールのときに気をつけること .....	160
ディスプレイドライバをインストールする .....	161
サウンドドライバをインストールする .....	167
Logitech MouseWare をインストールする .....	169
索引 .....	171

# 第 1 章

## パソコンの各部はこうなっている

本章では、パソコン本体の各部の名称と働きや、取り扱い上の注意について説明しています。

- 1. 各部の名称と働き ..... 2
- 2. 本パソコンの取り扱い上の注意 ..... 18



## 1

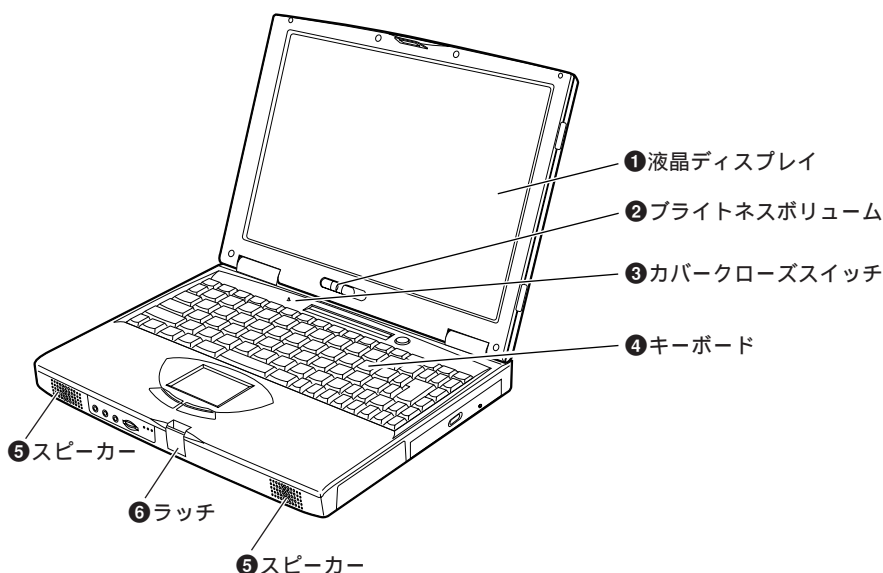
## 各部の名称と働き

パソコン本体各部の名称と働きを、以下の部分ごとに説明します。

- ・ 本体前面 ←P.2
- ・ 本体左側面 ←P.6
- ・ 本体右側面 ←P.8
- ・ 本体背面 ←P.9
- ・ 本体下面 ←P.10
- ・ 状態表示 LCD ←P.11
- ・ キーボード ←P.14
- ・ FDD ユニット ←P.17

## 本体前面

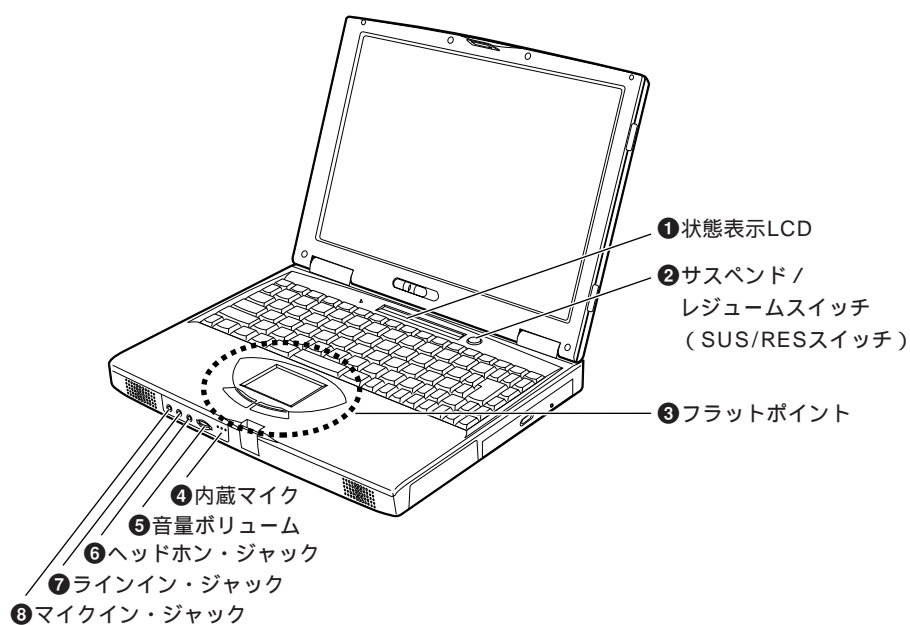
## 前面 1



- ① 液晶ディスプレイ**  
 パソコンの画面を表示します。
- ② ブライトネスボリューム**  
 液晶ディスプレイのバックライト（蛍光管）の明るさを調整します。  
 左にスライドさせると暗くなり、右にスライドさせると明るくなります。
- ③ カバークローズスイッチ**  
 液晶ディスプレイを閉じたときにサスペンド（一時停止）し、開けたときにレジュームする（サスペンドする前の状態に戻る）ためのスイッチです。  
 「液晶ディスプレイを閉じる」（←P.62）

- ④ キーボード  
文字を入力したり、パソコンに命令を与えます。  
「キーボード」(⇨P.14)
- ⑤ スピーカー  
音声を出力します(ステレオ)。
- ⑥ ラッチ  
液晶ディスプレイが不用意に開かないようにロックします。  
液晶ディスプレイを開くときは、ラッチを押してロックを外します。

## 前面 2



### ① 状態表示<sup>エルシーディー</sup>LCD

パソコンの状態を表示します。  
「状態表示 LCD」(←P.11)

### ② サスペンド / レジュームスイッチ (SUS/RES スイッチ)

パソコンの電源を入れるためのスイッチです。  
また、サスペンド(一時停止)したり、レジュームする(サスペンドする前の状態に戻す)ときにも使います。  
4秒以上押しと、強制的に電源が切れます。通常は、4秒以上押ししないでください。

本書ではSUS/RESスイッチと表記します。  
「電源を入れてパソコンを使おう」(←P.46)  
「節電する」(←P.60)

## アドバイス

マウスの設定を変えるには

「コントロールパネル」の「マウス」で変更できます。マウスポインタの速度を変えたり、左右ボタンの役割を入れ替えることができます。

詳しくは、デスクトップにある『パソコン便利帳』の「Q & A」の「マウス」をご覧ください。

パソコン便利帳については、□『FMV総合案内』をご覧ください。

### ③ フラットポイント

操作面を上下左右になぞり、マウスポインタを操作します。

手前のボタンは、マウスの左ボタン、右ボタンに相当します。また、操作面を1本の指でたたくと左ボタン、3本の指でたたくと右ボタンを押したときと同じ機能になります。

### ④ 内蔵マイク

音声を録音するときなどに使います。

### ⑤ 音量ボリューム

音量を調節します。

左に回すと小さく、右に回すと大きくなります。

「音量を調節する」(▶P.39)

### ⑥ ヘッドホン・ジャック

市販のヘッドホンを接続するための端子です。

ここに取り付けられるものは、外径3.5mmのミニプラグを持つヘッドホンやアンプ内蔵外部スピーカーです。ただし、形状によっては取り付けられないものがあります。ご購入前に確認してください。



注意



**聴力障害** ヘッドホンをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。



**聴力障害** ヘッドホンをしたまま電源を入れたり切ったりしないでください。刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。ヘッドホンの破損防止のため、パソコン本体の音量を最小にしておいてから、ヘッドホンを接続してください。

### ⑦ ラインイン・ジャック

AV機器の出力端子と接続するための端子です。

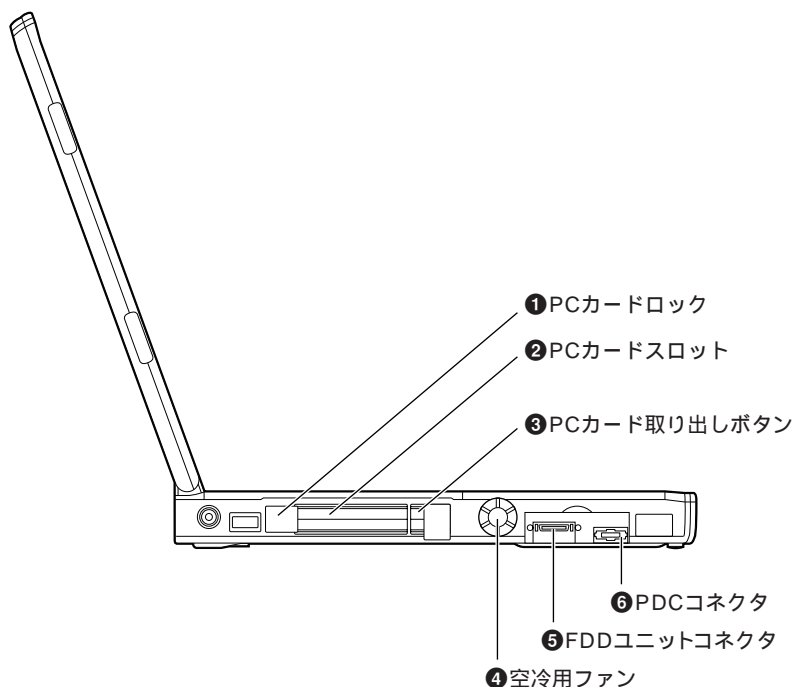
### ⑧ マイクイン・ジャック

市販のマイクを接続するための端子です。

ここに取り付けられるものは、外径3.5mmのミニプラグをもつマイクです。ただし、市販されているマイクの一部の機種(ダイナミックマイクなど)では、使用できないものがあります。ご購入前に確認してください。

## 本体左側面

### 左側面 1



- ① ピーシー PCカードロック  
PCカードが抜けないように、ロックします。
- ② ピーシー PCカードスロット  
別売のPCカードをセットするためのスロットです。  
下段が「スロット1」、上段が「スロット2」です。スロット1はZVポートズイヴィに対応しています。  
「PCカードをセットする」(☞P.85)
- ③ ピーシー PCカード取り出しボタン  
PCカードを取り出すときに押します。  
下段がスロット1、上段がスロット2の取り出しボタンです。  
「PCカードをセットする」(☞P.85)

## 用語

### ズイヴィ ZVポート

動画や音声などのデータを高速に処理するためのPCカードの規格です。





## アドバイス

### 空冷用ファンについて

本パソコンの内部温度が一定以上になると回転しませんが、本パソコンを起動したときは、約1秒間回転して停止します。本パソコンの内部温度が高いときは、回転し続けます。

#### ④ 空冷用ファン

パソコン内部の熱を外部に逃がすためのファンです。ふさがないようにください。

#### ⑤ FDD ユニットコネクタ

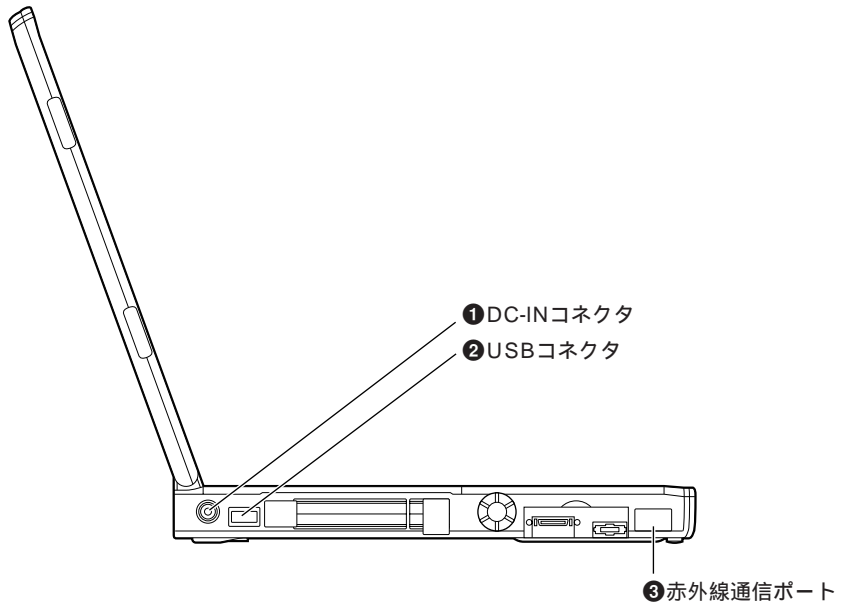
FDD ユニットを添付の FDD ケーブルで接続するためのコネクタです。「FDD ユニットを外付けで接続する」(←P.26)

ピーディーシー

#### ⑥ PDC コネクタ

携帯電話と接続するためのコネクタです。「PDC コネクタに接続する」(←P.92)

## 左側面 2



#### ① DC-IN コネクタ

ディーシーイン

添付されている AC アダプタでコンセントに接続するためのコネクタです。「AC アダプタを取り付ける」(←P.50)

#### ② USB コネクタ

ユーエスビー

USB 規格対応の機器を接続するためのコネクタです。

#### ③ 赤外線通信ポート

赤外線通信の送受光部です。

赤外線通信ポートは、添付のアプリケーション「Intellisync」でお使いになれます。

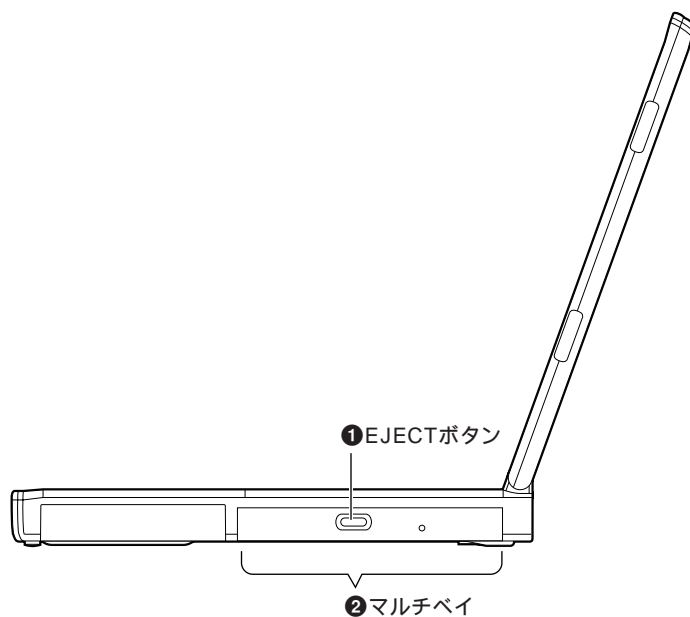
「赤外線通信ポートをお使いになるうえでの注意」(←P.154)



## 用語

機器の接続に関する規格です。USB 規格に対応した機器には、マウス、キーボード、プリンタ、モデム、スピーカーなどがあります。

## 本体右側面



### ① イジェクト EJECT ボタン

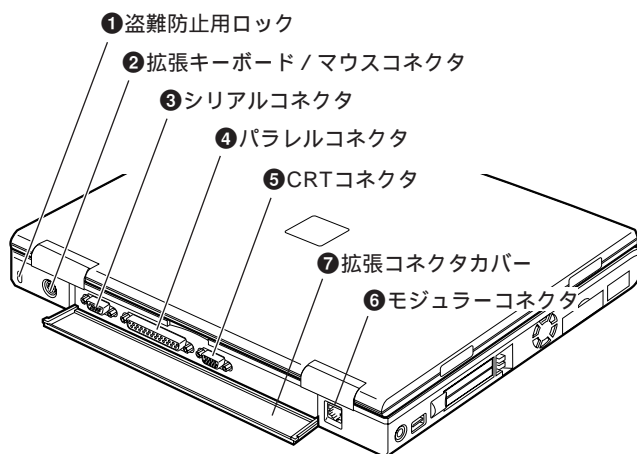
CD-ROM をセットしたり、取り出したりするときに押します。  
パソコンの電源が入っているときに使えます。  
「CD-ROM をセットする / 取り出す」( ←P.35 )

### ② マルチベイ

ご購入時は、CD-ROM ドライブユニットが取り付けられています。FDD ユニットなどのユニットを交換して取り付けることができます。  
「マルチベイに取り付けられるユニット」( ←P.23 )

## 本体背面

1



### ① 盗難防止用ロック

盗難防止用ケーブルを接続することができます。

Kensington社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。

商品名 : マイクロセーバー (セキュリティワイヤー)

商品番号 : 0522010

(富士通コワーコ株式会社取り扱い品 お問い合わせ: 03-3342-5375)

### ② 拡張キーボード / マウスコネクタ

別売のテンキーボードやマウスを接続するためのコネクタです。

「マウス / テンキーボードを接続する」(←P.84)

### ③ シリアルコネクタ

RS-232C 規格対応の機器を接続するためのコネクタです。

### ④ パラレルコネクタ

別売のプリンタなどを接続するためのコネクタです。

「プリンタを接続する」(←P.73)

### ⑤ CRT コネクタ

別売のCRTディスプレイを接続するためのコネクタです。

「CRTディスプレイを接続する」(←P.101)

### ⑥ モジュラーコネクタ

インターネットやパソコン通信をするとき、添付のモジュラーケーブルを使って電話回線と接続するためのコネクタです。

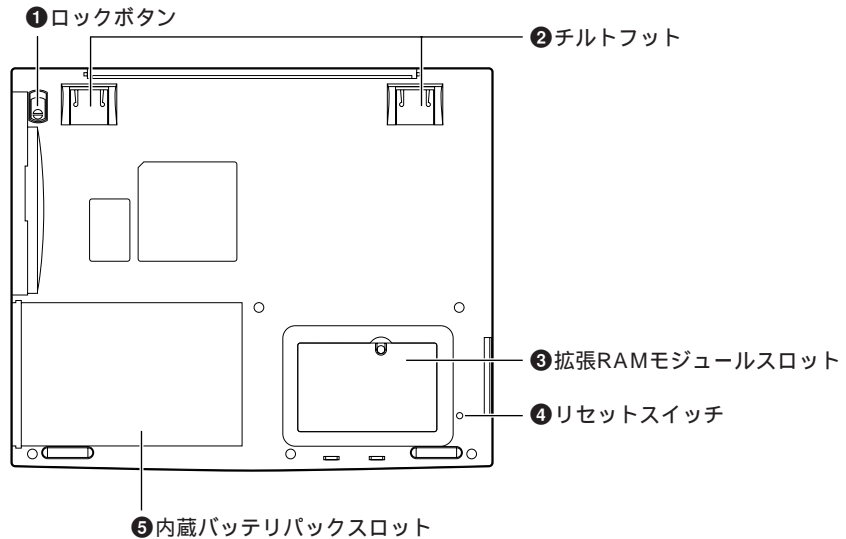
### ⑦ 拡張コネクタカバー

コネクタを保護しています。

パソコンの各部はこうなっている(各部の名称と働き)

9

## 本体下面



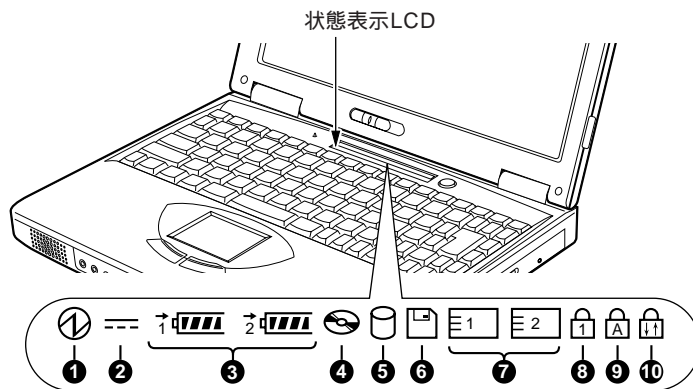
- ① ロックボタン**  
マルチベイに取り付けられているユニットを取り外すときにスライドさせます。  
「マルチベイのユニットを交換する」(←P.24)
- ② チルトフット**  
パソコン本体の角度を調節できます。
- ③ 拡張RAMモジュールスロット**  
別売のメモリ(拡張RAMモジュール)を取り付けるためのスロットです。  
「メモリを増やす」(←P.77)
- ④ リセットスイッチ**  
本パソコンを強制的に再起動するためのスイッチです。  
アドバイス「今日はおしまい。電源を切るには？」の手順で電源が切れないとき」(←P.49)
- ⑤ 内蔵バッテリーパックスロット**  
内蔵バッテリーパックが装着されているスロットです。  
「バッテリーで使う」(←P.52)

## 状態表示 LCD

エルシーディー

電源を入れると状態表示 LCD にマークが表示されます。

これらのマークは、バッテリーの残量など、本パソコンのさまざまな状態を表しています。



### ① SUS/RES 表示 (⓪)

サスレス

本パソコンで作業ができる状態のときに表示されます。サスペンド(一時停止)状態のときは点滅します。

「サスペンド機能を使う」(←P.61)

### ② AC アダプタ表示 (≡)

エーシー

AC アダプタから電力が供給されているときに表示されます。

### ③ ・ バッテリーパック装着表示 (1□、2□)

- 1□ は、本パソコンにあらかじめ内蔵されている、内蔵バッテリーパックを示しています。電源を入れる则表示されます。
- 2□ は、マルチベイに増設用内蔵バッテリーユニット(別売)が取り付けられているときに1□とあわせて表示されます。

### ・ バッテリー充電表示 (→)

バッテリーの充電中に表示されます。

バッテリーが熱くなっていたり、冷えていたりするときは、バッテリーの保護機能が働き、適温になるまでバッテリーの充電を開始しないことがあります。この場合は→が点滅します。

### ・ バッテリー残量表示 (■)

バッテリーの残量が表示されます。

「残量を確認する」(←P.54)

## アドバイス

電源を切っているとき


状態表示 LCD の全表示が消えます。ただし、充電中は ≡ と → が表示され、充電が完了すると消えます。



#### ④ CD-ROM ドライブアクセス表示 ( )

CD-ROM や DVD-ROM ( 別売の内蔵 DVD-ROM ドライブユニット取り付け時 ) にアクセスしているときに表示されます。

#### アドバイス

##### ( CD-ROM ドライブアクセス表示 ) の点滅を止めるには

CD-ROM をセットしていないときでも、状態表示 LCD に  が表示されることがあります。これは CD-ROM ドライブに CD-ROM が入っているかどうかを Windows 98 が定期的に調べているためです。次の操作を行うと点滅を止めることができます。ただし自動で起動する CD-ROM をセットしても、自動起動の機能は働かなくなります。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。  
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2  ( システム ) をクリックします。  
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。  
デバイスの一覧が表示されます。
- 4 「CD-ROM」の左の  をクリックします。  
「TEAC CD-224E」が表示されます。
- 5 「TEAC CD-224E」をクリックし、「プロパティ」をクリックします。  
「TEAC CD-224E のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 6 「設定」タブをクリックし、「挿入の自動通知」をクリックし、 を  にします。
- 7 「OK」をクリックします。
- 8 「システムのプロパティ」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。
- 9 表示されるメッセージに従って、再起動します。

自動起動の機能を使うときは、手順 6 で「挿入の自動通知」を  にしてください。

#### ⑤ ハードディスクアクセス表示 ( )



内蔵のハードディスクにアクセスしているときに表示されます。













#### ⑥ フロッピーディスクアクセス表示 ( )

フロッピーディスクやスーパーディスク ( 別売の内蔵スーパーディスクドライブユニット取り付け時 ) にアクセスしているときに表示されます。

#### 重要

##### や が表示されているときの注意

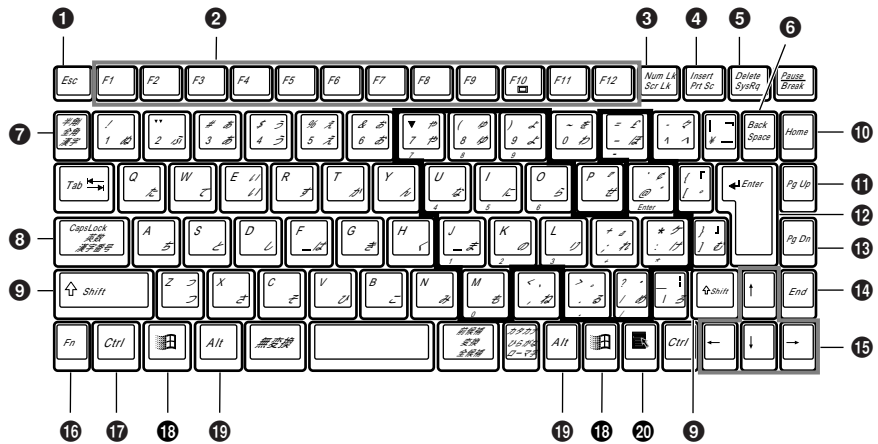
状態表示 LCD に  や  が表示されているときは、サスペンドしないでください。ハードディスク、フロッピーディスクまたはスーパーディスクのデータが壊れるおそれがあります。

- ⑦ PC カードアクセス表示 (   )  
PC カードにアクセスしているときに表示されます。  
 は、PC カードスロット 1 (下段) の PC カードにアクセスしているときに表示されます。  
 は、PC カードスロット 2 (上段) の PC カードにアクセスしているときに表示されます。
- ニューメリカルロック  
⑧ Num Lock 表示 (  )  
テンキーモードになっているときに表示されます。 を押して、テンキーモードの設定と解除を切り替えます。  
「テンキーモードについて」( ←P.16 )
- キャップスロック  
⑨ Caps Lock 表示 (  )  
英大文字固定モード(英字を大文字で入力する状態)になっているときに表示されます。 を押しながら  を押し、英大文字固定モードの設定と解除を切り替えます。
- スクロールロック  
⑩ Scroll Lock 表示 (  )  
 を押しながら  を押して、画面がスクロールしないように設定すると表示されます。もう一度押すと表示が消え、画面がスクロールするようになります。アプリケーションにより、機能が異なることがあります。

## キーボード

キーボードは、パソコンに対しての指示やデータを入力するために使います。各キーの機能は、使用するアプリケーションによって異なる場合があります。ここでは一般的なキーの機能を説明します。

### 主なキーの名称とはたらき



- エスケープ
- 1 Esc キー**  
現在の作業を取り消して、1つ前に行った作業に戻るときなどに使います。
  - 2 ファンクションキー**  
アプリケーションごとにいろいろな機能が割り当てられています。
  - 3 Num Lk (Num Lock) キー**  
ニューメリカルロック  
[Num Lk] を押し、テンキーモードになります。もう一度押しと解除されます。  
「テンキーモードについて」(P.16)
  - 4 Insert キー**  
インサート  
文字を入力するときに、既存の文字列に上書きするか、挿入するかを切り替えるときに使います。
  - 4 Prt Sc (Print Screen) キー**  
プリントスクリーン  
画面表示をビットマップファイルとして保存するときに [Prt Sc] を押しながらか押しします。  
[Alt] と [Fn] を押しながらか押しすると、アクティブウィンドウだけをビットマップファイルにできます。  
キーを押したあとにペイントソフト(ペイントなど)を起動し、「編集」メニューの「貼り付け」等を選ぶことで編集、保存、印刷ができます。



- ⑤ デリート Delete キー  
カーソルの右側にある1文字を削除するときに使います。また、選択されているファイルやアイコンを削除します。  
**[Ctrl]**と**[Alt]**を押しながら**[Delete]**を押すと、応答のなくなったアプリケーションを終了したり、本パソコンを強制的に再起動したりできます。
- ⑥ バック スペース Back Space キー  
カーソルの左側にある1文字を削除するときに使います。
- ⑦ 半角/全角キー  
文字を入力するときに、半角と全角を切り替えます。
- ⑧ キャップスロック Caps Lock 英数キー  
**[Shift]**を押しながら**[Caps Lock]**を押すと、英大文字固定モードになります。もう1度押すと解除されます。
- ⑨ シフト Shift キー  
他のキーと組み合わせて使います。**[Shift]**を押しながら文字キーを押すと、キーの上段に刻印されている文字や記号が入力できます。
- ⑩ ホーム Home キー  
カーソルを行の最初に移動します。  
**[Ctrl]**を押しながら**[Home]**を押すと、カーソルが文書の最初に移動します。
- ⑪ ページアップ Pg Up (Page Up) キー  
前のページに切り替えるときに使います。
- ⑫ エンター Enter キー  
入力した文字を確定するときに使います。  
ワープロソフトでこのキーを使うと改行が入力されるため、リターン(改行)キーともいいます。
- ⑬ ペ・ジダウン Pg Dn (Page Down) キー  
次のページに切り替えるときに使います。
- ⑭ エンド End キー  
カーソルを行の最後に移動します。  
**[Ctrl]**を押しながら**[End]**を押すと、カーソルが文書の最後に移動します。
- ⑮ カーソルキー  
カーソルを上下左右に移動するときに使います。

エフエヌ  
⑩ Fn キー

本パソコン独自の機能で、他のキーと組み合わせて使います。たとえば次のような使いかたがあります。

- ・ **[Fn]** を押しながら **[F3]** を押すと、スピーカーのONとOFFが切り替わります。
- ・ 800 × 600 ドット以下の解像度のときに **[Fn]** を押しながら **[F8]** を押すと、全画面表示と通常表示が切り替わります。  
全画面表示に切り替えると、画面が乱れることがあります。
- ・ CRTディスプレイを接続したときに **[Fn]** を押しながら **[F10]** を押すと、液晶ディスプレイとCRTディスプレイで表示先を切り替えます。

コントロール  
⑪ Ctrl キー

他のキーと組み合わせて使います。

ウィンドウス  
⑫ Windows キー

「スタート」メニューを表示するときに使います。


オルト  
⑬ Alt キー

他のキーと組み合わせて使います。

アプリケーション  
⑭ Application キー

選択した項目のポップアップメニューを表示するときに使います。  
右クリックの代わりになります。

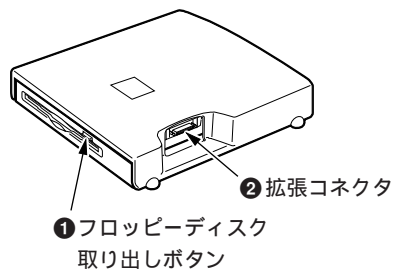
## テンキーモードについて

文字キーの一部をテンキー（数字の入力を容易にするキー配列）として使えるように切り替えた状態を「テンキーモード」といいます。**[Num Lk]** を押すと、テンキーモードになります。テンキーモードのときは、状態表示 LCD に  が表示されます。テンキーモードで入力できる文字は、各キーの前面に刻印されています。

ただし、別売のテンキーボードを接続しているときは、パソコン本体のテンキーの部分は無効となります。

## FDD ユニット

1



- ① フロッピーディスク取り出しボタン  
フロッピーディスクを取り出すときに押します。  
「フロッピーディスクをセットする / 取り出す」( ←P.31 )
- ② 拡張コネクタ  
FDD ケーブルを接続します。

パソコンの各部は「こうなっている」(各部の名称と働き)



# 2

## 本パソコンの取り扱い上の注意

ここでは以下のことを説明します。

- ・ 取り扱い上の注意 ←P.18
- ・ 廃棄について ←P.19

### 取り扱い上の注意

#### 本パソコンの取り扱いについて

- ・ 衝撃や振動を与えないでください。
- ・ 分解しないでください。
- ・ 電源を入れるときは、マルチベイにユニットを取り付けておいてください。
- ・ チルトフットを立ててお使いのときは、パソコン本体に荷重をかけないでください。

#### 次の場所での使用および保管は避けてください

- ・ 極端に温度変化が激しい場所
- ・ 直射日光のあたる場所や発熱器具に近い場所
- ・ 衝撃や振動の加わる場所
- ・ 湿気やほこりの多い場所
- ・ 磁石や強い磁界を発生する装置に近い場所

#### 持ち運ぶとき

- ・ 電源を入れたままの状態を持ち運ばないでください。
- ・ 本パソコン背面の拡張コネクタカバー（←P.9）を開けたままの状態を持ち運ばないでください。

#### フラットポイントについて

フラットポイント（←P.4）は表面の結露、湿気等により誤動作することがあります。また、濡れた手や汗をかいた手でお使いになった場合、あるいはフラットポイントの表面が汚れている場合は、マウスポインタが正常に動作しないことがあります。電源を切ってから、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。

### 内蔵マイクをお使いのとき

- ・カラオケソフトなど一部のソフトウェアをお使いのとき、ハウリング(キーンと音がなること)が起きる場合があります。このようなときは、市販のヘッドホンやスピーカーをお使いください。
- ・スピーカーとマイクを同時にお使いのときは、音量によってはハウリングが起きる場合があります。音量を調節してください。

「音量を調節する」(P.39)

ただし、音量を小さくすると、添付のアプリケーション「電話機能」のスピーカーホン機能を使用したとき、内蔵のスピーカーとマイクでは十分な通話ができないことがあります。このような場合には、市販のヘッドホンとマイクをお使いください。

### 液晶ディスプレイの特性について

次の状態は故障ではありません。あらかじめご了承ください。

- ・TFT液晶ディスプレイは高度な技術を駆使し、一画面上に235万個以上(解像度1024×768の場合)、または144万個以上(解像度800×600の場合)の画素(ドット)より作られております。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合がありますが、これらは故障ではありませんので、予めご了承ください。
- ・液晶ディスプレイはその特性上、温度変化で明るさや色合いに多少むらが発生することがあります。

### 廃棄について

- ・液晶ディスプレイ内のバックライト(蛍光管)の中には、水銀が含まれています。本パソコンの廃棄については、地方自治体の条例、または規則に従ってください。
- ・バッテリーを廃棄するときは、バッテリーがショートしないよう、バッテリー端子をテープ等で絶縁してください。また、廃棄については地方自治体の条例、または規則に従ってください。

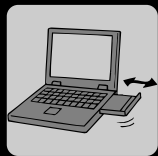


## 第 2 章

# 基本的な機能を使おう

本章では、本パソコンに添付の機器の基本的な操作方法について説明しています。

1. ユニットを交換する .....	22
2. フロッピーディスクを使う .....	26
3. CD-ROM を使う .....	33
4. 音量を調節する .....	39
5. 画面の解像度や発色数を変える .....	41
6. お手入れのしかた .....	43



## 1

## ユニットを交換する

本パソコンご購入時に、CD-ROMドライブユニットが取り付けられているところをマルチベイといいます。マルチベイには、FDDユニットや別売のオプション機器のユニットを取り付けられます。

ここでは以下のことを説明します。

- ・気をつけてください～ユニットを使うとき ←P.22
- ・マルチベイに取り付けられるユニット ←P.23
- ・マルチベイのユニットを交換する ←P.24

## 気をつけてください～ユニットを使うとき

- ・CD-ROMドライブユニット、内蔵DVD-ROMドライブユニット（別売）、内蔵スーパーディスクドライブユニット（別売）は、ディスクが高速に回転する非常にデリケートな装置です。ディスクにアクセスしている状態で、パソコン本体を持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。ユニットが破損したりデータが壊れるおそれがあります。
- ・FDDユニット、内蔵スーパーディスクドライブユニット（別売）の取り扱いによっては、ディスク内のデータが壊れるおそれがあります。重要なデータは必ずバックアップをとってください。
  - ←『トラブル解決Q&A』
- ・次のような場所でのご使用、保管は避けてください。
  - 極端に温度変化が激しい場所
  - 衝撃や振動の加わる場所
  - 湿気やほこりの多い場所
  - 磁石や強い磁界を発生する装置の近く
- ・ユニット内部に液体や金属など異物が入った状態で使用しないでください。何か異物が入ったときは、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
- ・汚れは、柔らかい布でから拭きするか、柔らかい布に水または中性洗剤を含ませて軽く拭いてください。ベンジンやシンナーなどの揮発性のもののご使用は避けてください。
- ・分解しないでください。



## マルチベイに取り付けられるユニット

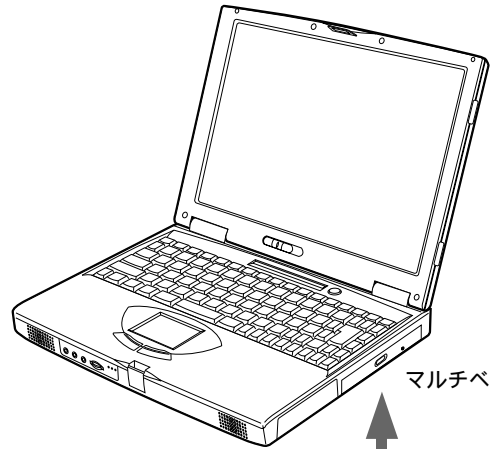
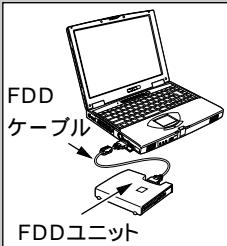
本パソコンご購入時は、CD-ROMドライブユニットが取り付けられています。



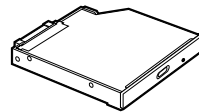
### アドバイス

#### FDDユニットを使うとき

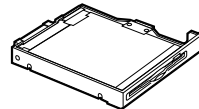
- ・FDDユニットは、FDDケーブルを使ってパソコン本体に接続できるので、他のユニットと同時に使えます。
- 「FDDユニットを取り付ける」(P.26)
- ・FDDユニットは、本パソコンで1台のみ使えます。



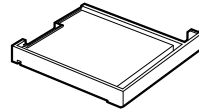
CD-ROMドライブ  
ユニット  
P.33



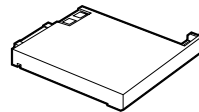
FDDユニット  
P.26



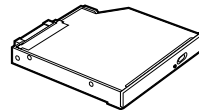
マルチベイ用カバー



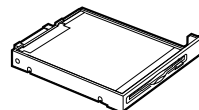
増設用内蔵バッテリー  
ユニット (別売)  
P.83



内蔵DVD-ROM  
ドライブユニット  
(別売)  
P.109



内蔵スーパーディスク  
ドライブユニット  
(別売)  
P.111



2

基本的な機能を使う(ユニットを交換する)

## マルチベイのユニットを交換する

ここでは、マルチベイに内蔵されているユニットを取り外し、別のユニットを取り付ける方法を説明します。

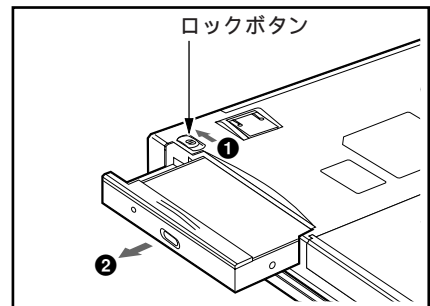


- ・ユニットの交換を行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。感電や故障の原因となります。
- ・バッテリーは、大変デリケートな製品です。交換などで取り付けや取り外しを行う場合は、誤って落下させるなど、強い衝撃を与えないでください。また、安全を考慮し、強い衝撃を与えたバッテリーは使用しないでください。感電や破裂の原因となります。

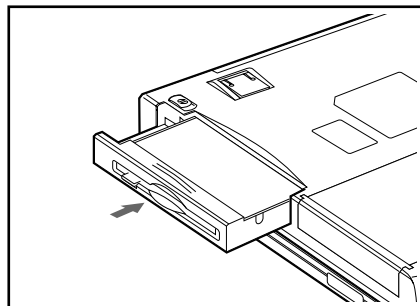


電源を入れるときは、マルチベイにユニットを取り付けておいてください  
本パソコンをお使いになるときは、必ずマルチベイにユニットを取り付けてください。何も取り付けていない状態でお使いになると、故障の原因となります。

- 1** パソコン本体の電源を切ります。  
「今日はおしまい。電源を切るには？」(←P.47)
- 2** オプション機器の電源を切り、取り外します。
- 3** ACアダプタを取り外します。  
「ACアダプタを取り外す」(←P.51)
- 4** 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。
- 5** ユニットを取り外します。
  - ① ロックボタンをスライドします。
  - ② 取り付けられているユニットを取り外します。

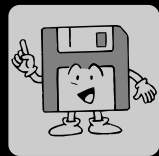


- 6** 別のユニットを取り付けます。  
ユニットの向きを合わせてマルチ  
ベイに差し込み、止まるまで押し  
込みます。



2

基本的な機能をおこなう（ユニットを交換する）



# 2

## フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクはプログラムやデータを保存するためのものです。ここでは以下のことを説明します。

- ・ FDD ユニットを取り付ける ←P.26
- ・ 使えるフロッピーディスクは？ ←P.29
- ・ 気をつけてください～フロッピーディスクを使うとき ←P.30
- ・ フロッピーディスクをセットする / 取り出す ←P.31
- ・ フロッピーディスクのデータを守るには ←P.32

### FDD ユニットを取り付ける



**感電** FDDユニットの接続や取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。感電や故障の原因となります。

本パソコンでは、次の2とおりの方法でFDDユニットを取り付けることができます。

- ・ マルチベイに取り付ける  
「マルチベイのユニットを交換する」(←P.24)
- ・ FDD ケーブルでパソコン本体に取り付ける  
「FDD ユニートを外付けで接続する」

### FDD ユニートを外付けで接続する



**故障** ケーブルは本書をよくお読みになり、正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコンおよびFDDユニットが故障する原因となることがあります。

### 重要

#### FDD ユニート取り扱い上の注意

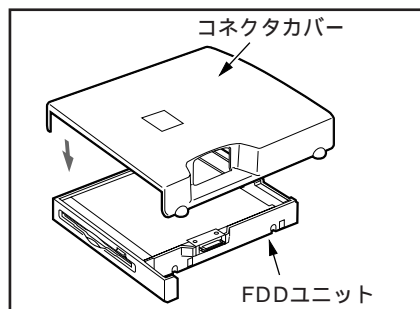
- ・ FDD ユニートは、本パソコンで1台のみ使えます。
- ・ FDD ユニートは、ACアダプタやCRTディスプレイなど、磁界を発生する機器から離して使用してください。
- ・ FDD ユニートを扱う前に、取り扱い上の注意をご覧ください。  
「気をつけてください～ユニットを使うとき」(←P.22)

**1** パソコン本体の電源を切ります。  
「今日はおしまい。電源を切るには？」(←P.47)

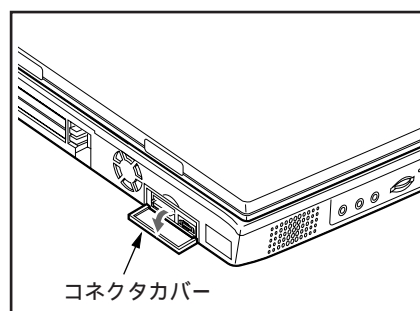
**2** オプション機器の電源を切り、取り外します。

- 3** ACアダプタを取り外します。  
「ACアダプタを取り外す」(←P.51)

- 4** FDDユニットにコネクタカバーを取り付けます。

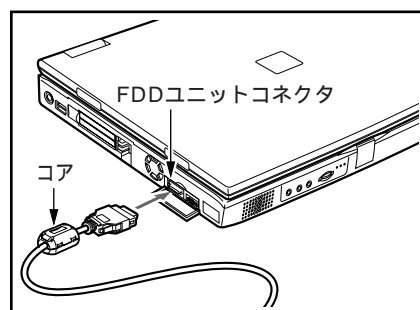


- 5** パソコン本体左側面のコネクタカバーを開きます。



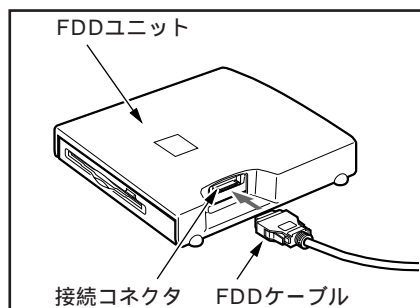
- 6** FDDケーブルのコアが付いているほうのコネクタを、パソコン本体のFDDユニットコネクタに接続します。

コネクタは、正面から見ると台形になっています。コネクタの上下の向きを確認し、奥までしっかり差し込んでください。



- 7** FDDケーブルのもう一方のコネクタを、FDDユニットの接続コネクタに接続します。

コネクタは、正面から見ると台形になっています。コネクタの上下の向きを確認し、奥までしっかり差し込んでください。



## FDD ユニットを取り外す

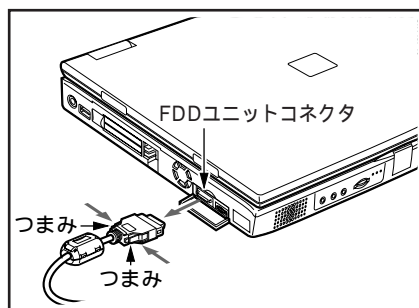
### 重要

#### フロッピーディスクを取り出してください

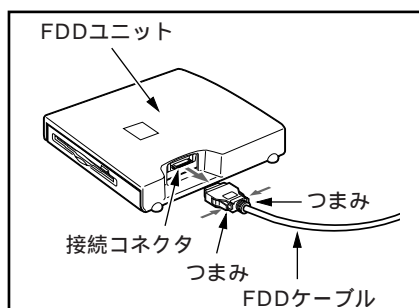
電源を切る前に、FDD ユニットからフロッピーディスクを、必ず取り出しておいてください。そのまま取り外すと、データが壊れる場合があります。

- 1** パソコン本体の電源を切ります。  
「今日はおしまい。電源を切るには？」(⇨P.47)
- 2** オプション機器の電源を切り、取り外します。
- 3** AC アダプタを取り外します。  
「AC アダプタを取り外す」(⇨P.51)

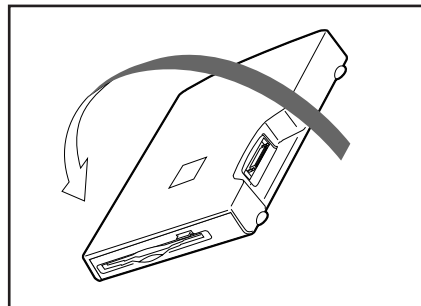
- 4** パソコン本体左側面のFDDユニットコネクタから、FDDケーブルを取り外します。  
FDDケーブルのコネクタのつまみを押しながら、取り外してください。



- 5** FDD ユニットの接続コネクタからFDDケーブルを取り外します。  
FDDケーブルのコネクタのつまみを押しながら、取り外してください。



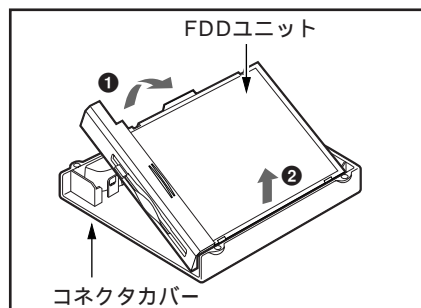
## 6 FDD ユニートを裏返します。



## 7 FDD ユニートのコネクタカバーを取り外します。

- ① 矢印の方向にFDD ユニートを持ち上げます。
- ② FDD ユニートを持ち上げてはずします。

取り外したコネクタカバーは、なくさないように保管してください。



## 使えるフロッピーディスクは？

本パソコンのフロッピーディスクドライブは、1.44MB、1.2MB、720KBの記憶容量のフロッピーディスクを読み書きできる3モードドライブです。本パソコンでは、次の種類のフロッピーディスクがお使いになれます。

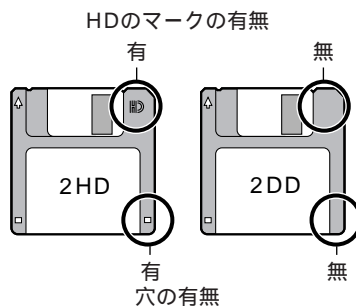
### ・エイチディー2HDフロッピーディスク

記憶容量は、フォーマットにより異なります。1.44MBまたは1.2MBです。

### ・ディーディー2DDフロッピーディスク

記憶容量は、2HD(1.44MB)の半分の720KBです。

2種類のフロッピーディスクの外見上の違いは、下図のとおりです。



## 用語

**メガバイト MB**  
B(バイト)とは、パソコンで扱うデータの大きさの単位のことで、単位は、MBの他にKB(キロバイト)、GB(ギガバイト)があります。1KBは約1000バイト、1MBは約100万バイト、1GBは約10億バイトのデータを表します。

## アドバイス

フロッピーディスクをフォーマットするときの注意

- ・フォーマット方法について『わかるパソコン入門』
- ・本パソコンでは、1.2MBのフロッピーディスクのデータの読み出しや書き込みはできませんが、1.2MBにフォーマットすることはできません。
- ・フォーマットした機種やソフトウェアが違くと、データを読み出せないことがあります。
- ・他社製のパソコンでフォーマットした場合は、お使いになれないことがあります。

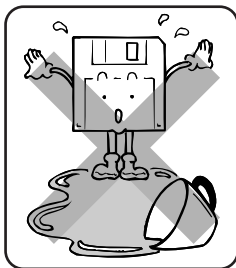
## 気をつけてください~フロッピーディスクを使うとき

フロッピーディスクをお使いになるときは、次の点に注意してください。データが保存できなくなったり、読み出せなくなることがあります。

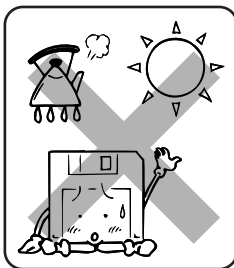
### アドバイス

フォーマット済みのフロッピーディスクをお買い求めになる  
とき

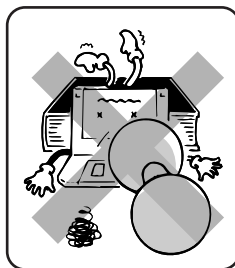
「DOS/V用フォーマット済み」と書かれたものをお買い求めください。



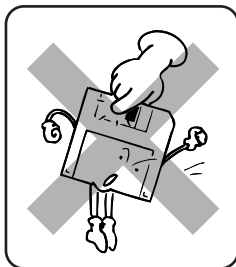
コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。



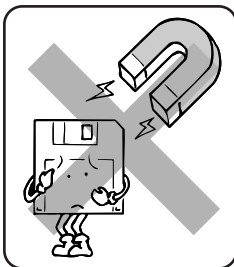
湿度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。



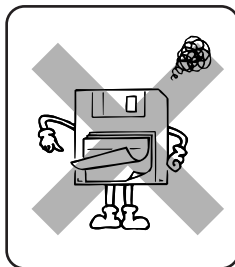
曲げたり、重い物をのせたりしないでください。



シャッタを開けて、中のディスク面に、絶対に触れないでください。



磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。



ラベルを重ねて貼らないでください。ドライブから取り出せなくなる原因となります。



## フロッピーディスクをセットする / 取り出す



けが フロッピーディスクをセットおよび取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

### セットする

- 1** FDD ユニットが取り付けられていない場合は、FDD ユニットを取り付けます。

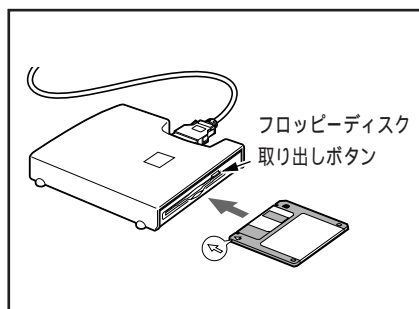
「FDD ユニットを取り付ける」(←P.26)

- 2** パソコン本体の電源を入れます。


「電源を入れてパソコンを使おう」(←P.46)

- 3** フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに差し込みます。

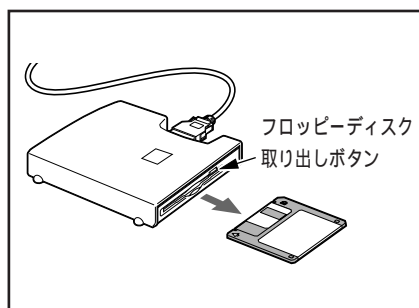
矢印のある面を上向きにして、フロッピーディスク取り出しボタンが「カシャ」と飛び出るまで押し込んでください。




### 取り出す

- 1** 状態表示LCDにが表示されていないことを確認し、フロッピーディスク取り出しボタンを押します。

フロッピーディスクが少し飛び出します。



### フロッピーディスクを取り出すときの注意

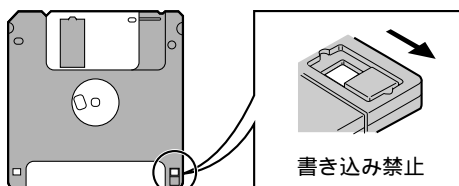
状態表示LCDにが表示されているときに、フロッピーディスクを取り出すと、フロッピーディスク内のデータが壊れるおそれがあります。

## フロッピーディスクのデータを守るには

ここでは保存してあるデータを守るために、フロッピーディスクを書き込み禁止にする方法と、書き込み禁止を解除する方法を説明します。

### 保存してあるデータの変更や削除をしたくないとき

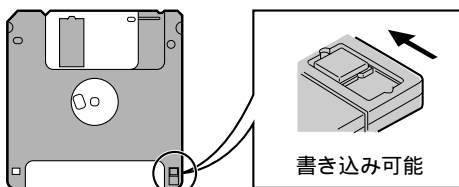
フロッピーディスクの裏面にある書き込み禁止タブをスライドさせ、穴が開いた状態にします。書き込み禁止になります。データを読み込むことはできます。



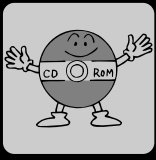
書き込み禁止タブ

### データを書き込みたいとき

フロッピーディスクの裏面にある書き込み禁止タブをスライドさせ、穴が閉じた状態にします。書き込み可能になります。



書き込み禁止タブ



# 3

## CD-ROM を使う

CD-ROM は、パソコンで扱えるデータやプログラムを保存した CD (コンパクトディスク) です。データは読み出しのみが可能で、書き込みはできません。ここでは以下のことを説明します。

- ・ 使える CD は? ←P.33
- ・ 気をつけてください~ CD-ROM を使うとき ←P.34
- ・ CD-ROM をセットする / 取り出す ←P.35

### 使える CD は?

本パソコンでは、以下のマークがついた CD-ROM や音楽 CD (12cm、8cm) がご利用になれます。

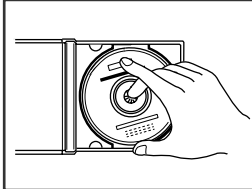


## 気をつけてください～CD-ROMを使うとき

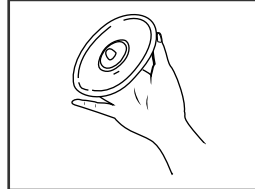
### 💡 アドバイス

#### CD-ROMが結露したとき

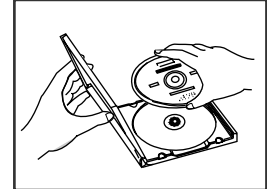
表面に水滴がついて、CD-ROMドライブがデータを読み出せないことがあります。このときは、乾いた柔らかい布で、中央から外側へ向かってキズを付けないように水滴を拭いてから、自然乾燥させてください。ヘアードライヤーなどで乾燥させないでください。



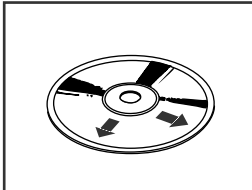
ケースからCD-ROMを取り出すときは、ケースの中央を押しながら取り出してください。



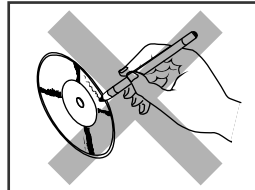
データ面（裏面）に触れないようにCD-ROMのふちを持つようにしてください。



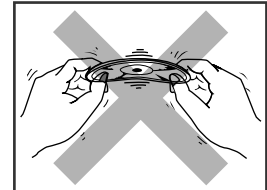
使わないときは、ケースに入れて保管してください。



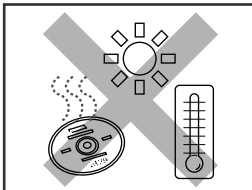
データ面が汚れたり水滴がついたりしたときは、乾いた柔らかい布で、中央から外側へ向かって拭いてください。



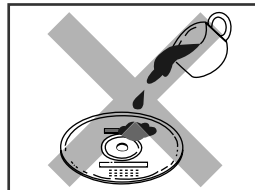
ラベルやシールを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。また、傷をつけたりしないでください。



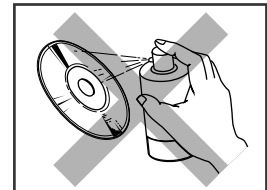
曲げたり、重いものをのせたりしないでください。



高温や低温になる場所を避けて保管してください。



水などの液体をかけないでください。



ベンジン、シンナー、水、レコードスプレー、静電気防止剤、シリコンクロスなどを使わないでください。

## CD-ROM をセットする / 取り出す

CD-ROM のセットや取り出しは、電源が入っているときに行えます。



け が CD-ROM をセットおよび取り出すときには、CD-ROM ドライブのトレイに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

### セットする



#### AC アダプタを取り付けてください

CD-ROM に頻繁にアクセスする場合は、AC アダプタを取り付けてください。  
「AC アダプタを取り付ける」(←P.50)

#### CD-ROM をセットするときの注意

CD-ROM ドライブのトレイ中央の突起に CD-ROM の穴を合わせ、パチッと音がするまでしっかりとめ込んでください。

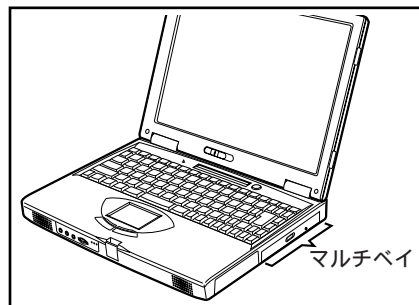
きちんとはめ込まないと、CD-ROM などの媒体が CD-ROM ドライブ内部で外れて、トレイやドライブの内部、および媒体を破損する原因となることがあります。

#### セットすると自動で始まる CD-ROM を使用しているときは、サスペンドしないでください

セットすると自動で始まる CD-ROM を使用しているときにサスペンド(一時停止)すると、レジューム時(サスペンドする前の状態に戻したとき)に CD-ROM が二重に起動してしまい、誤動作の原因となります。二重に起動してしまった場合は、CD-ROM のアプリケーションを一度すべて終了し、CD-ROM をセットし直してください。

## 1 CD-ROM ドライブユニットが取り付けられていない場合は、マルチベイに CD-ROM ドライブユニットを取り付けます。


「マルチベイのユニットを交換する」(←P.24)




## 2 パソコン本体の電源を入れます。


「電源を入れてパソコンを使おう」(←P.46)

## アドバイス

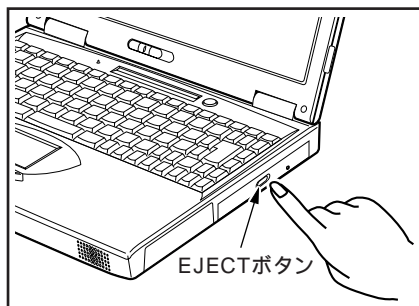
状態表示 LCD に  が点滅しているとき

Windows98 が、CD-ROM がセットされているかどうかを定期的に調べているため、 が点滅する場合があります。点滅中に EJECT ボタンを押してもかまいません。

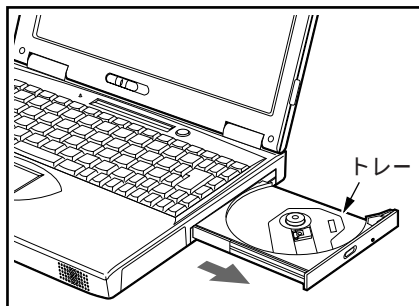
点滅は止めることもできます。

「 CD-ROM ドライブ アクセス表示」の点滅を止めるには」(←P.12)

- 3** EJECT ボタンを押します。  
トレイが少し飛び出します。

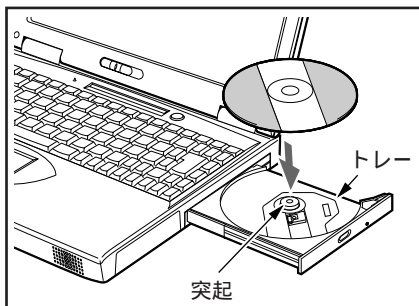


- 4** トレーを静かに引き出します。

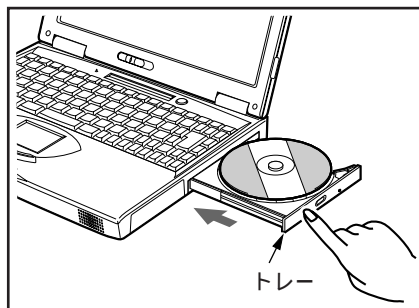


- 5** トレーの下部を手で支えながら、CD-ROM をセットします。

CD-ROM のレーベル面を上にして、トレイ中央の突起に CD-ROM の穴を合わせ、パチッと音がするまでしっかりとはめ込んでください。きちんとはめ込まないと、CD-ROM が取り出せなくなることがあります。






- 6** トレーを静かに押し込みます。  
CD-ROM をセットしてから、本パソコンで使えるようになるまで、約 10 秒かかります。



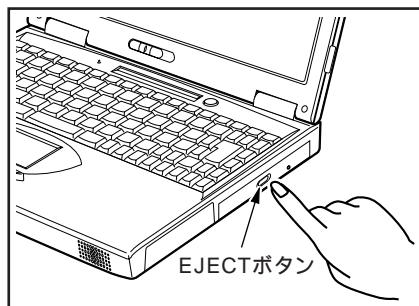
## 取り出す

### アドバイス

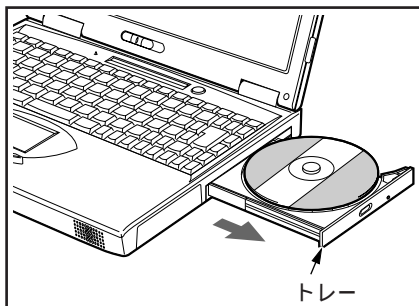
状態表示 LCD に  が点滅しているとき Windows98 が、CD-ROM がセットされているかどうかを定期的に調べているため、 が点滅する場合があります。点滅中に EJECT ボタンを押してもかまいません。点滅は止めることもできます。「 (CD-ROMドライブアクセス表示) の点滅を止めるには」(←P.12)

**1** CD-ROM を利用しているアプリケーションがあれば終了します。

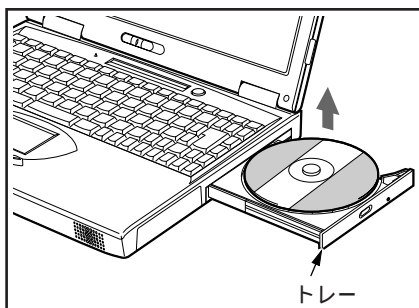
**2** EJECT ボタンを押します。  
トレイが少し飛び出します。



**3** トレイを静かに引き出します。





**4** CD-ROM を取り出します。  
トレイ中央の突起を押さえながら、  
CD-ROM のふちを持ち上げてく  
ださい。



**5** トレイを静かに押し込みます。

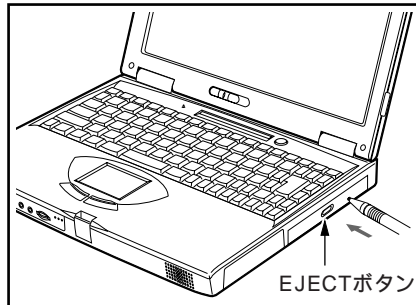
## アドバイス

### CD-ROM が取り出せなくなったとき

- 1 デスクトップの  (マイコンピュータ) をクリックします。
- 2 「マイコンピュータ」ウィンドウの  (E:) にマウスポインタを合わせます。
- 3 右ボタンをクリックします。
- 4 「取り出し」をクリックします。  
トレイが少し飛び出します。
- 5 トレイを静かに引き出し、CD-ROM を取り出します。

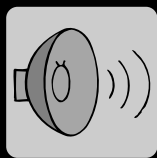
上記の方法で取り出せないときは、次の方法で取り出します。

- 1 パソコン本体の電源を切ります。  
「今日はおしまい。電源を切るには？」( ←P.47 )
- 2 EJECT ボタンの右側にある穴に、ボールペンの先などを差し込みます。  
トレイが少し飛び出します。



- 3 トレイを静かに引き出し、CD-ROM を取り出します。





# 4

## 音量を調節する

### アドバイス

ハウリング（キーンと音がなること）が起きたとき

マイクをお使いのときに、音量ボリュームを上げすぎると、スピーカーとマイクの間でハウリングが起きる場合があります。音量を小さくしてください。

また、マイクを使用していないときは、マイクを「ミュート」（消音）にしてください。

☞『トラブル解決Q&A』の「スピーカーから変な音が出る」

### アドバイス

スピーカーの確認

音量ボリューム、または音量つまみで音量を調節しても音が出ない場合は、スピーカーの状態を確認してください。[F7]を押しながら[F8]を押すと、スピーカーのONとOFFが切り替わります。ピーと音がした場合はスピーカーがON、音がしない場合はスピーカーがOFFになります。

🔊(音量)を表示したいとき

CD-ROM などをお使いの最中に、タスクバーが表示されない場合は、[Fn]を押してください。タスクバーが表示されます。

音量を調節するには、パソコン本体の「音量ボリューム」で調節する方法と、画面に「音量つまみ」を表示させて調節する方法とがあります。

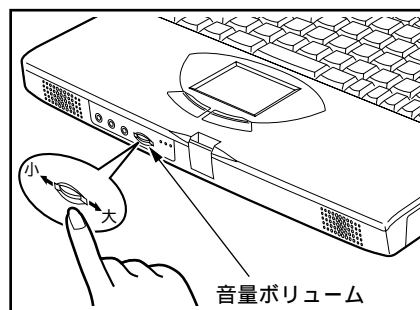
それぞれの音量調節は相互に関係しています。音量ボリュームでは、音量つまみで設定した音量を最大音量とし、その範囲で音を大きくしたり、小さくしたりできません。

ここでは以下のことを説明します。

- ・音量ボリュームで調節する ←P.39
- ・音量つまみで調節する ←P.39

### 音量ボリュームで調節する

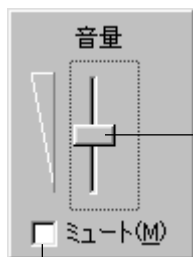
- 1 音量ボリュームを回して適当な音量に調節します。



### 音量つまみで調節する

音量ボリュームで調節しても、音が大きすぎたり、小さすぎたりするときは、音量つまみで調節します。

- 1 タスクバーの🔊(音量)をクリックします。
- 2 音量つまみをドラッグして、適当な音量に設定します。



音量つまみ  
下にドラッグすると音が小さく、上にドラッグすると音が大きくなります。

ミュート


クリックして☑️にすると音が出ません。この場合、音量つまみや音量ボリュームで調節しても音は出ません。もう1度クリックして☐にすると音が出ます。

### 3 デスクトップの何もないところをクリックします。

音量を調節する画面が消えます。

#### さまざまな音量を設定したいとき

音のバランスや入力時の音量などを設定したい場合は、「Volume Control」ウィンドウでそれぞれの音量を調節します。

- ・「Volume Control」ウィンドウを表示するには、次の2つの方法があります。
  - タスクバーのをダブルクリックします。
  - 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」, 「アクセサリ」, 「エンターテイメント」の順にマウスポインタを合わせ、「ボリュームコントロール」をクリックします。
- ・「Volume Control」ウィンドウでは、以下の音量設定ができます。
  - Volume Control : パソコン全体の音量
  - Wave : Wave ファイルとソフトウェア MIDI の音量
  - Phone In : モデムの音量
  - CD : 音楽 CD の音量
  - Synth : MIDI の音量
  - Line : ラインイン・ジャックに接続した機器の音量
  - Mic : マイクイン・ジャックに接続したマイクと、内蔵マイクの音量
- ・「Volume Control」の「プロパティ」ウィンドウの「表示するコントロール」で、以下の項目をクリックしてをつけると、「Volume Control」ウィンドウに表示されるようになります。
  - Video : 本パソコンでは設定できません
  - PC スピーカ : 本パソコンでは設定できません
  - Zoom Video : DVD の再生音量の設定

## 画面の解像度や発色数を変える

ここでは以下のことを説明します。

- ・液晶ディスプレイで表示できる解像度と発色数 ←P.41
- ・液晶ディスプレイの解像度や発色数を変える ←P.41

 **アドバイス**

ご購入時の解像度と発色数

解像度：1024×768ドット  
発色数：True Color  
(32ビット)

High Color、True Colorの発色数

High Color(16ビット)は6万5千色、True Color(32ビット)は1677万色です。

別売のCRTディスプレイを接続したとき

別売のCRTディスプレイを接続した場合に表示できる解像度と発色数については、「CRTディスプレイで表示できる解像度と発色数」(←P.106)をご覧ください。

解像度や発色数を変更するとき

- ・設定できる発色数は、画面の解像度によって異なります。
- ・アプリケーションによっては、発色数の設定により、正常に動作しないことがあります。アプリケーションの動作環境を確認し、発色数を変更してください。
- ・解像度を変更するときには、一時的に表示画面が乱れることがあります。動作に問題はありません。

## 液晶ディスプレイで表示できる解像度と発色数

液晶ディスプレイで表示できる解像度と発色数の組み合わせは以下のとおりです。以下の解像度と発色数以外には、設定しないでください。

解像度	発色数
640 × 480 ドット 1	256色 High Color (16ビット) True Color (32ビット) 2
800 × 600 ドット 1	256色 High Color (16ビット) True Color (32ビット) 2
1024 × 768 ドット	256色 High Color (16ビット) True Color (32ビット) 2

- 1 640 × 480ドットまたは800 × 600ドットの領域がディスプレイ中央に表示されます。
- 2 デザリング機能(擬似的に色を表示する機能)によって、True Color(32ビット)で表示されます。

## 液晶ディスプレイの解像度と発色数を変更する


 **重要**

## アクティブデスクトップの解除

アクティブデスクトップに設定されたまま解像度や発色数を変更すると、正常に変更できない場合があります。変更前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除してください。


「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Webページで表示」をクリックし、チェックマークを外すとアクティブデスクトップが解除され、Windows98の標準画面に切り替わります。

解像度や発色数を変更したあと、チェックマークを付けてアクティブデスクトップに設定し直してください。


- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。  
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2  (画面) をクリックします。
- 3 「設定」タブをクリックします。


## アドバイス

「互換性の警告」ウィンドウが表示されたとき

「新しい色の設定でコンピュータを再起動する」をクリックして  にし、「OK」をクリックしてください。

## 4 発色数や解像度を変更します。

発色数の変更  
 をクリックして発色数を選びます。

解像度の変更  
 をドラッグします。



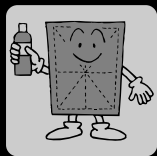
## 5 「OK」をクリックします。

ウィンドウが表示されます。ウィンドウが表示されないときは、自動的に設定が変更されます。

## 6 「OK」または「はい」をクリックします。

ウィンドウが表示されるたびに、「OK」または「はい」をクリックしてください。

画面の設定が変更されます。



# 6

基本的な機能を使おう

## お手入れのしかた

パソコンを快適にお使いいただくため、パソコンのお手入れのしかたを説明します。お手入れのしかたは、ディスプレイ、フロッピーディスクドライブなど、各部によって違います。それぞれの部分に合ったお手入れをしてください。

ここでは以下のことを説明します。

- ・パソコン本体 / ディスプレイ / キーボードのお手入れ ←P.43
- ・フロッピーディスクドライブのお手入れ ←P.43

2

基本的な機能を使おう（お手入れのしかた）

### パソコン本体 / ディスプレイ / キーボードのお手入れ



重要

#### お手入れ前の確認

感電やけがの原因になることがあるので、お手入れをする前に、次のことを必ず行ってください。

- ・パソコン本体の電源を切ってください。
- ・ACアダプタを取り付けている場合は、取り外してください。
- ・プリンタなど、取り付けている機器の電源を切り、パソコンから取り外してください。

汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

シンナーやベンジンなどの揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

汚れがひどいときは、水または中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りのときには、パソコン本体に水が入らないよう十分に注意してください。

### フロッピーディスクドライブのお手入れ

フロッピーディスクドライブは別売のクリーニングフロッピーを購入して、3ヵ月に1回はヘッド（データを読み書きする部分）のクリーニングを行ってください。長い期間使用していると、ヘッドは汚れてきます。ヘッドが汚れると、記憶したデータを正常に読み書きできなくなります。



注意



けが フロッピーディスクをセットおよび取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

## 用意するもの

商品名 : クリーニングフロッピーマイクロ

商品番号 : 0212116

(富士通コワーコ株式会社取り扱い品 お問い合わせ : 03-3342-5375)

## お手入れのしかた

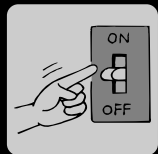
- 1** FDD ユニットが取り付けられていない場合は、FDD ユニットを取り付けます。  
「FDD ユニットを取り付ける」(←P.26)
- 2** パソコン本体の電源を入れます。  
「電源を入れてパソコンを使おう」(←P.46)
- 3** 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」にマウスポインタを合わせ、「MS-DOS プロンプト」をクリックします。  
「MS-DOS プロンプト」ウィンドウが表示されます。
- 4** 「C:¥WINDOWS >」のあとに `c:¥fjuty¥clndsk 0` と入力し、**Enter** を押します。  
「clndsk」と「0」の間は、 を 1 回押してください。「0」は、数字のゼロです。
- 5** クリーニングフロッピーをフロッピーディスクドライブに差し込み、**Enter** を押します。  
「クリーニング中です。あとXX秒」と表示され、クリーニングが始まります。クリーニングが終了すると、「ヘッドクリーニングが終了しました。」と表示されます。
- 6** 「C:¥WINDOWS >」のあとに `exit` と入力し、**Enter** を押します。  
Windows98 の画面に戻ります。
- 7** 状態表示 LCD に  が表示されていないことを確認し、フロッピーディスク取り出しボタンを押して、クリーニングフロッピーを取り出します。

## 第 3 章

# 電源と節電機能を賢く使おう

本章では、電源の入れかたと切りかた、ACアダプタやバッテリーでの使いかた、節電のしかたについて説明しています。

1. 電源を入れる / 電源を切る .....	46
2. AC アダプタで使う .....	50
3. バッテリーで使う .....	52
4. 節電する .....	60
5. 節電の設定を変更する .....	66



# 1

## 電源を入れる / 電源を切る

ここでは以下のことを説明します。

- ・電源を入れてパソコンを使おう ⇨P.46
- ・今日はおしまい。電源を切るには？ ⇨P.47

### 電源を入れてパソコンを使おう

#### 重要

##### 電源を入れるときの注意

- ・フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクがセットされているときは、取り出しておいてください。  
「フロッピーディスクをセットする / 取り出す」(⇨P.31)
- ・電源を切ったあと、すぐに電源を入れないでください。再度電源を入れる場合は、10秒ほど待ってから電源を入れてください。
- ・電源が入っている状態で、持ち運んだり、衝撃を与えたりしないでください。
- ・長時間お使いになるときや通信をするときなど、大量の電力を消費する作業を行うときは、必ず AC アダプタを取り付けてください。

##### バッテリーで使うときの注意

以下の場合、バッテリーが充電されていないことがあります。バッテリー残量を確認し、必要に応じてバッテリーを充電してください。

- ・本パソコンをご購入のとき
- ・約1ヵ月以上充電していないとき

「残量を確認する」(⇨P.54)

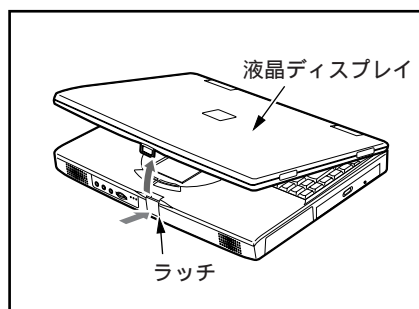
「充電する」(⇨P.52)

### 1 AC アダプタを取り付けます。

「AC アダプタを取り付ける」(⇨P.50)

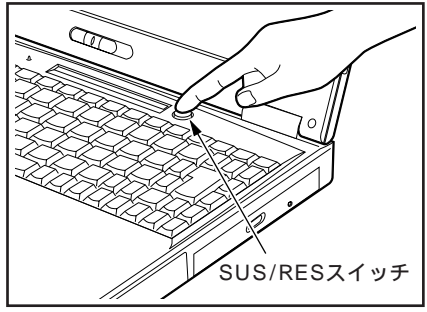
### 2 液晶ディスプレイを開きます。


前面のラッチを押してロックを外し、パソコン本体に手を添えて液晶ディスプレイを持ち上げます。

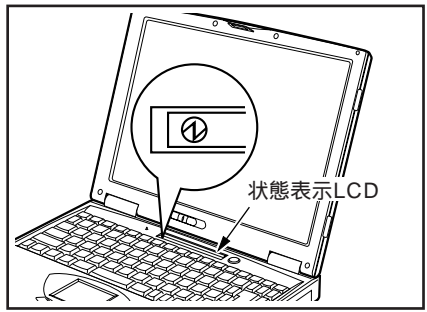




**3** SUS/RES スイッチを押します。



状態表示 LCD に  が表示されます。しばらくすると、Windows98 が起動します。



 **アドバイス**

Windows98 が起動しないとき

電源を入れてもWindows98 が起動しないときは、次の点を確認してください。

- ・ ACアダプタを取り付けているとき  
ACアダプタが正しく取り付けられているかを確認してください。  
「ACアダプタを取り付ける」(←P.50)
  - ・ バッテリーで使うとき  
バッテリーの残量が十分にあるかを確認してください。  
「残量を確認する」(←P.54)
  - ・ 画面にメッセージが表示されているとき  
「BIOS が表示するメッセージ一覧」(←P.137)
- 以上の点を確認してもWindows98 が起動しない場合は、本パソコンが故障している可能性があります。FM インフォメーションサービスにご相談ください。

☞ 『トラブル解決Q&A』の「第3章 サポート情報」

 **重要**

**SUS/RES スイッチは 4 秒以上押さないでください**

SUS/RES スイッチを 4 秒以上押し続けると、本パソコンの電源が入らないことがあります。

**今日はおしまい。電源を切るには？**

 **重要**

**電源を切るときの注意**

電源を切る前に、フロッピーディスクやCD-ROM を取り出してください。

「フロッピーディスクをセットする / 取り出す」(←P.31)

「CD-ROM をセットする / 取り出す」(←P.35)

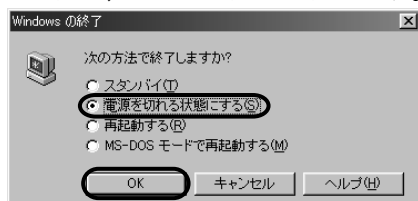
**1** それまで行っていた作業を終了します。  
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。

**2** 状態表示 LCD に  や  が表示されていないことを確認します。

- 3** 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。



- 4** 「電源を切れる状態にする」をクリックし、「OK」をクリックします。



しばらくすると、状態表示 LCD の①が消え、電源が自動的に切れます。

- 5** AC アダプタを取り外します。  
「ACアダプタを取り外す」( ←P.51 )

## アドバイス

フロッピーディスクがセットされているとき

フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクがセットされていると、「フロッピーディスクが入っています。Windows の終了を中止します。」というメッセージが表示されます。

その場合は、「閉じる」をクリックし、フロッピーディスクを取り出して、手順 3 から操作し直してください。

続けてバッテリーを充電するとき

電源を切ったあとに AC アダプタを取り外す必要はありません。

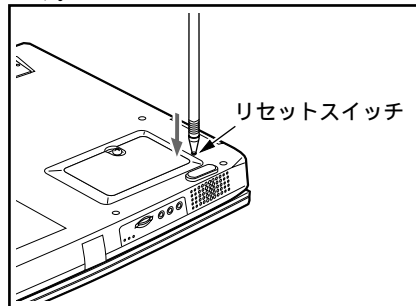
## アドバイス

「今日はおしまい。電源を切るには？」の手順で電源が切れないとき

- 1 **Ctrl** と **Alt** を押しながら **Delete** を 2 回押します。  
本パソコンが再起動します。作業の内容は保存されません。このあと「今日はおしまい。電源を切るには？」の手順 2 から操作します。

それでも電源が切れないときは、次のように操作してください。

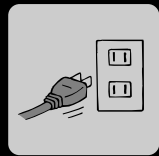
- 1 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。
- 2 ボールペンの先などで、パソコン本体下面のリセットスイッチを押します。  
本パソコンが再起動します。



- 3 パソコン本体を裏返し、液晶ディスプレイを開きます。
- 4 「今日はおしまい。電源を切るには？」(←P.47)の手順 2 から操作します。

上記の方法でも電源が切れないときは、次の方法で切ります。

- 1 SUS/RES スイッチを 4 秒以上押し続けます。  
状態表示 LCD の④が消えると、電源が切れます。
- 2 状態表示 LCD の④が点滅しているときは、もう一度 SUS/RES スイッチを 4 秒以上押し続けます。  
電源が切れます。



# 2

## AC アダプタで使う

本パソコンを長時間使うとき、またはバッテリーを充電するときは、AC アダプタを取り付けて、コンセントに接続します。パソコン本体を持ち運ぶときや、長期間本パソコンを使わないときは、AC アダプタを取り外します。

ここでは、以下のことを説明します。

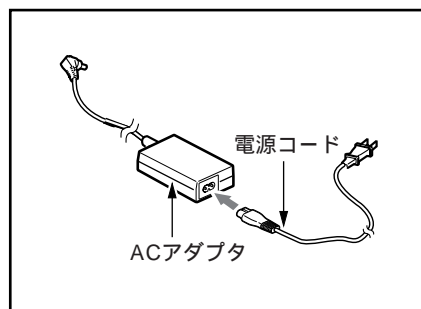
- ・ AC アダプタを取り付ける ←P.50
- ・ AC アダプタを取り外す ←P.51

### AC アダプタを取り付ける

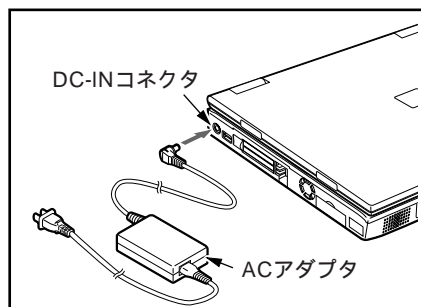


近くで雷が起きたときは、ACアダプタの電源プラグをコンセントから、モジュラーケーブルをモジュラージャックから抜いてください。そのまま使用すると、雷によっては本パソコンを破壊し、火災の原因となります。

#### 1 電源コードを接続します。



#### 2 AC アダプタを DC-IN コネクタに接続します。



#### 3 AC アダプタをコンセントに接続します。

## AC アダプタを取り外す



**重要**

### バッテリーは充電されていますか

本パソコンを使っている途中でACアダプタを取り外すときは、バッテリーが充電されているか確認してください。

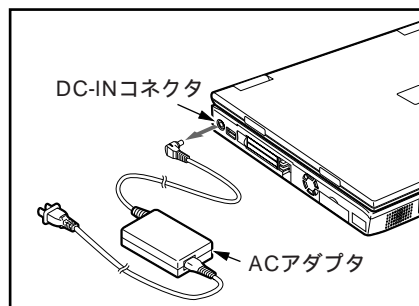
「残量を確認する」(←P.54)

### 次の場合は必ず AC アダプタを取り外してください

- ・ オプション機器の取り付けや取り外しを行うとき
- ・ 本パソコンを長期間使わないとき

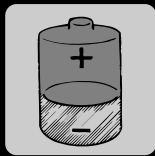
**1** AC アダプタをコンセントから抜きます。

**2** AC アダプタを DC-IN コネクタから取り外します。



**3**

電源と節電機能を賢く使おう(ACアダプタで使う)



# 3

## バッテリーで使う

外出先など、コンセントがない場合には、バッテリーで使うことができます。ここでは以下のことを説明します。


- ・ 充電する ⇨P.52
- ・ 充電時間 ⇨P.53
- ・ 稼動時間 ⇨P.54
- ・ 残量を確認する ⇨P.54
- ・ 気をつけてください～バッテリーを使うとき ⇨P.57
- ・ 内蔵バッテリーパックを交換する ⇨P.57

### 重要

#### 充電してください

本パソコンや増設用内蔵バッテリーユニット(別売)ご購入時、または1ヵ月以上充電していないときは、充電してからお使いください。







#### 次の場合は必ず AC アダプタを取り付けてください

- ・ パソコン通信やインターネットを利用するとき
- ・ ハードディスク、CD-ROM、DVD-ROM、スーパーディスクに頻繁にアクセスするとき
- ・ LAN カードを使用するとき
- ・  『トラブル解決Q&A』の「第4章 パソコンをふりだしにもどす」の作業を行うとき

## 充電する

### 重要

#### バッテリーを充電するときの注意

- ・ 満充電になるまで充電をやめないでください。  
バッテリーを充電するときは、バッテリー充電表示(状態表示LCDの「」の「」)が消えるまで、ACアダプタを外さないでください。満充電になると「」が消えます。  
バッテリー残量表示が「」になっていても、左端が点滅()していたり、「」が表示されているあいだは、満充電ではありません。
- ・ バッテリーが約90%以上残っているときは、充電を開始しないことがあります。  
「残量を確認する」(⇨P.54)
- ・ 充電は、周囲の温度が5～35の範囲で行ってください。周囲の温度が高すぎたり低すぎたりする場合は、得られる電池容量が低くなります。また、周囲の温度が高いとき(35以上)は、バッテリーの劣化の原因にもなります。
- ・ 本パソコンを使った直後は、バッテリーの温度が上昇しているため、バッテリーの保護機能が働き、適温になるまで充電を開始しないことがあります。

## アドバイス

増設用内蔵バッテリーユニット(別売)を充電するとき

増設用内蔵バッテリーユニットをマルチベイに取り付けて、パソコン本体にACアダプタを取り付けると、充電が始まります。

内蔵バッテリーパックと増設用内蔵バッテリーユニットの両方を取り付けているときは、並行して充電されます。

電源を切っているとき

充電が完了してしばらくすると、状態表示LCDの表示が消えます。その場合は、本パソコンの電源を入れて、バッテリー充電表示を確認してください。

## アドバイス

充電中もパソコンを使えます

バッテリーの充電中もパソコンを使うことができます。ただし、充電にかかる時間は、パソコンを使っていないときよりも長くなります。「充電時間」(P.53)


作業の途中で画面が真っ暗になったとき

フラットポイント(P.4)に触れてください。フラットポイントに触れても元の状態に戻らないときは、SUS/RESスイッチ(P.4)を押してください。本パソコンは、バッテリーで使うときに節電するように、あらかじめ設定されています。一定時間パソコンの操作をしないと、画面が真っ暗になることがあります。これは、節電機能が働いたためです。



## 1

ACアダプタを取り付けます。

「ACアダプタを取り付ける」(P.50)

ACアダプタを取り付けると充電が始まり、バッテリー充電表示(状態表示LCDの「」)が表示されます。

バッテリー充電表示は、充電が完了すると消えます。


バッテリー残量表示は、充電が完了すると点滅()から点灯()に変わります。

「残量を確認する」(P.54)

「充電時間」(P.53)

状態表示LCDに何も表示されなかったり、バッテリー充電表示が表示されないときは、充電が完了しています。

## 2

バッテリー充電表示(状態表示LCDの「」)が消えたことを確認します。

## 3




ACアダプタを取り外します。

「ACアダプタを取り外す」(P.51)

## 充電時間

充電時間は、電源の状態によって異なります。

新品で充電残量0%のバッテリーパックを満充電(100%充電されている状態)にする場合は、次の表のとおりです。

電源の状態	状態表示LCD	パソコンの状態	充電に必要な時間
電源入	 が点灯	動作中	約8時間(約11時間)
	 が点滅	サスペンド(一時停止)状態	約3時間(約5.5時間)
電源切	 が消灯	終了	

「充電に必要な時間」の( )内は増設用内蔵バッテリーユニット(別売)を増設している場合の時間です。

サスペンドについて「サスペンド機能を使う」(P.61)

## 稼働時間

新品のバッテリーを満充電にした場合、稼働時間の目安は、以下のとおりです。

バッテリーパック（添付）のみ	約2.0時間
バッテリーパック（添付） + 増設用内蔵バッテリーユニット（別売）	約4.5時間

使用条件： オプション機器を取り外している状態で、Windows98の「電源の管理」やBIOSセットアップで節電の設定を有効にしているとき（ご購入時は有効）

本パソコンをバッテリーで使える時間（稼働時間）は、バッテリーの状態や作業内容によって異なります。

パソコン通信など、大量の電力を消費する作業を行うと、バッテリーの稼働時間は短くなります。

増設用内蔵バッテリーユニットについて 「内蔵バッテリーユニットを増設する」（☞P.83）

### 重要

#### バッテリーの稼働時間について

- ・ 周囲の温度が低いときは、周囲の温度が高いときに比べて充電と放電の能力が低くなるため、バッテリーの稼働時間が短くなります。
- ・ バッテリーを長期間使用すると充電する能力が低下するため、バッテリーの稼働時間が短くなります。稼働時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリーパックに交換してください。

「内蔵バッテリーパックを交換する」（☞P.57）

「内蔵バッテリーユニットを増設する」（☞P.83）

## 残量を確認する

バッテリーの残量がなくなると、作業中のデータが保存できなくなることがあります。本パソコンをバッテリーで使っているときは、状態表示LCDでバッテリー残量を確認してください。




## アドバイス

バッテリーパック装着表示の左の数字について

バッテリーパック装着表示の左の数字(1または2)は、取り付けられているバッテリーの種類を示しています。

1: パソコン本体の内蔵バッテリーパック

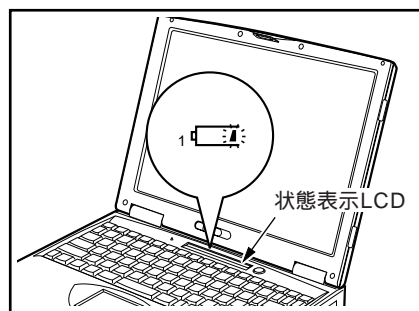
2: マルチベイの増設用内蔵バッテリーユニット(別売)

バッテリー充電表示(状態表示LCDの「」について)

バッテリーが充電中であることを示しています。充電が完了すると矢印は消えます。

## バッテリー残量表示

バッテリーの残量は、電源が入っているときや充電中に状態表示LCDで確認できます。バッテリー残量表示は、充電をするタイミングの目安になります。



## 重要

### バッテリー残量表示について

状態表示LCDに表示されるバッテリー残量表示は、バッテリー(リチウムイオン電池)の特性上、使用環境(温度条件やバッテリーの充電回数など)により、実際のバッテリー残量と異なる表示をする場合があります。



約 100 ~ 76%



約 75 ~ 51%



約 50 ~ 26%

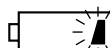


約 25 ~ 13%

充電してください。



「充電する」(☛P.52)

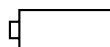


約 12%以下

バッテリー残量表示が点滅し、警告音が鳴ります。しばらくするとバッテリーの残量がなくなります。

この状態になったときは、すぐにサスペンド(一時停止)してください。

「LOW バッテリー状態」(☛P.56)




バッテリー切れ状態(充電残量 0%)

すぐに充電してください。

「充電する」(☛P.52)

## バッテリーの異常表示

バッテリーが正しく充電されないときは、 (バッテリー残量表示) が点滅します。バッテリーを取り付け直してください。


取り付け直しても表示される場合は、バッテリーの異常です。新しいバッテリーに交換してください。

「内蔵バッテリーパックを交換する」(←P.57)

「内蔵バッテリーユニットを増設する」(←P.83)

ロウ

## LOW バッテリー状態

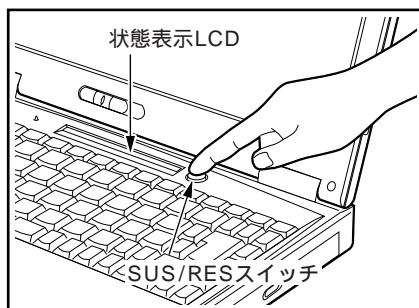
バッテリーの残量が約 12% 以下の状態を「LOW バッテリー状態」といいます。この状態になると、状態表示 LCD のバッテリー残量表示の右端が点滅()し、警告音が鳴ります。

このままにしておくと、バッテリーが切れて、作業中のデータが保存できなくなることがあります。

LOW バッテリー状態になったときは、必ず以下の操作をしてください。

### 1 SUS/RES スイッチを押します。

しばらくすると状態表示 LCD に①が点滅し、液晶ディスプレイの表示が消え、サスペンドします。「サスペンド機能を使う」(←P.61)



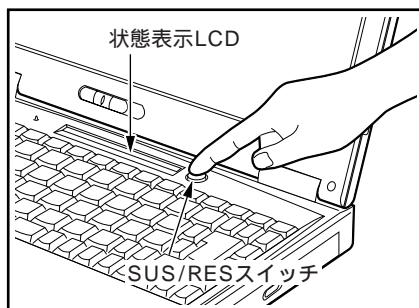
### 2 AC アダプタを取り付けます。

「AC アダプタを取り付ける」(←P.50)

AC アダプタを取り付けると、充電が始まります。

### 3 SUS/RES スイッチを押します。



状態表示 LCD の①が点滅から点灯になり、しばらくすると画面が表示され、パソコンがレジュームし(サスペンドする前の状態に戻り)ます。



## アドバイス

次の場合は警告音が聞こえません

・スピーカーをOFFにしているとき

 を押しながら  を押し、スピーカーのONとOFFが切り替わります。ピーと音がした場合はスピーカーがON、音がしない場合はスピーカーがOFFになります。

・音量ボリュームを小さくしているとき

 **重要****LOW バッテリー状態になったときの注意**

- ・ LOWバッテリー状態のまま放置すると、自動的にサスペンドします。ただし、ハードディスクなどへデータの読み書きを行っている場合は、その処理が終了するまでサスペンドしません。バッテリーの残量にご注意ください。
- ・ LOWバッテリー状態のまま使用し続けると、作成中または保存中のデータが失われることがあります。すみやかに AC アダプタを取り付けてください。  
「AC アダプタを取り付ける」(←P.50)

**気をつけてください~バッテリーを使うとき****自然放電します**

- ・ 長期間(約1ヵ月以上)本パソコンをお使いにならない場合は、バッテリーパックを取り外して涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリーパックの寿命が短くなります。
- ・ バッテリーは、充電後お使いにならずに保管しても、約1ヵ月で自然放電してしまいます。バッテリーは使う直前に充電することをお勧めします。

**消耗品です**

バッテリーは消耗品です。長期間使用すると充電能力が低下します。バッテリーの稼働時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリーに交換してください。

「内蔵バッテリーパックを交換する」(←P.57)

「内蔵バッテリーユニットを増設する」(←P.83)

また、パソコンを長期間使用しない場合でも、バッテリーは消耗し劣化します。月に一度は、パソコン本体をバッテリーで運用し、バッテリーの状態を確認してください。

**内蔵バッテリーパックを交換する**

バッテリーの稼働時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリーに交換してください。

新しいバッテリーは、以下のものをお買い求めください。

商品名 : Li-ion バッテリーパック FM-19

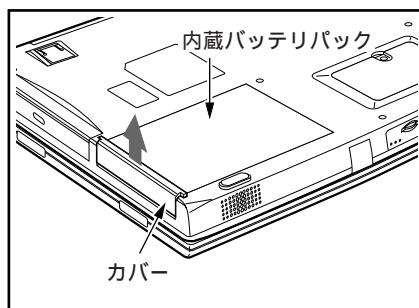
商品番号 : 0643760

(富士通コワーコ株式会社取り扱い品 お問い合わせ : 03-3342-5375)

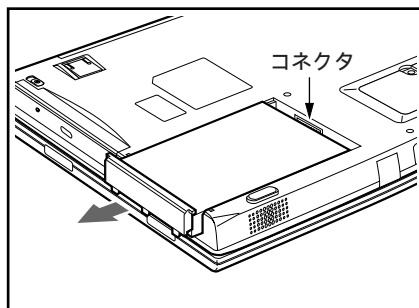


- ・内蔵バッテリーパックの取り付けや取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。感電の原因となります。
- ・内蔵バッテリーパックの取り付けや取り外しを行うときは、誤って落下させるなどして、強い衝撃を与えないでください。また、安全を考慮し、強い衝撃を与えたバッテリーパックはお使いにならないでください。感電や火災、破裂の原因となります。

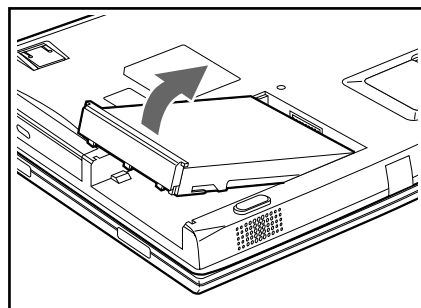
- 1** パソコン本体の電源を切ります。  
「今日はおしまい。電源を切るには？」(←P.47)
- 2** オプション機器の電源を切り、取り外します。
- 3** AC アダプタを取り外します。  
「AC アダプタを取り外す」(←P.51)
- 4** 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。
- 5** 内蔵バッテリーパックのカバーを上  
にスライドします。



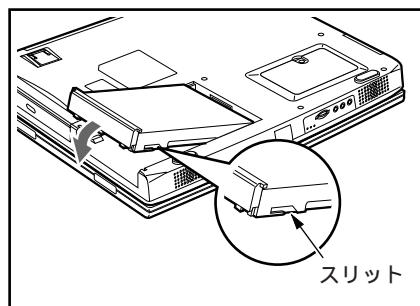
- 6** 内蔵バッテリーパックをスライド  
します。  
内蔵バッテリーパックが、コネクタ  
から外れます。



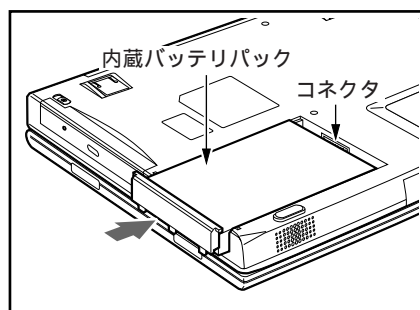
- 7** 内蔵バッテリーパックを斜め上に持ち上げながら、取り外します。



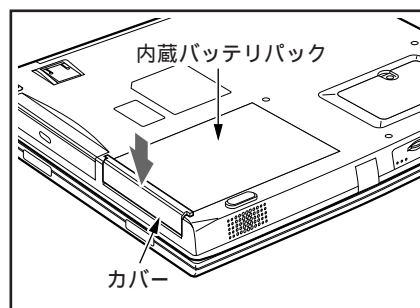
- 8** 新しい内蔵バッテリーパックを取り付けます。  
パソコン本体の突起と内蔵バッテリーパックのスリットを合わせてください。



- 9** 内蔵バッテリーパックをスライドします。  
コネクタが、内蔵バッテリーパックとしっかり接続するようにスライドしてください。



- 10** 内蔵バッテリーパックのカバーを下にスライドします。



## 4

## 節電する

パソコンを使っている途中でひと休みするときは、パソコンも休ませて節電しましょう。

本パソコンには、パソコンの動作を停止させて節電するための、「サスペンド機能」と「Save To Disk 機能」があります。

ここでは以下のことを説明します。

- ・サスペンド機能と Save To Disk 機能 ←P.60
- ・サスペンド機能を使う ←P.61
- ・Save To Disk 機能を使う ←P.64

## サスペンド機能と Save To Disk 機能

サスペンド機能とは、作業している状態をメモリに保存し、パソコンの動作を一時停止させる機能です。

Save To Disk 機能とは、自動的に作業状態をハードディスクに保存したあと、パソコン本体の電源を切る機能です。

これらの機能を利用すると、アプリケーション使用中でも、本パソコンを一時停止したり電源を切ったりして節電することができます。

サスペンド機能と Save To Disk 機能の違いは以下のとおりです。

	サスペンド機能	Save To Disk機能
作業状態の保存場所	メモリ	ハードディスク
電源の状態	節電状態 (メモリの内容を維持する ためだけの電力を消費する)	電源を切っている状態 (電力を消費しない)

 **重要**

## LAN カードなどの PC カードをお使いのとき

LANカードを使ってネットワークに接続しているときなど、PCカードをセットしているときは、サスペンド機能や Save To Disk 機能が使えないことがあります。PCカードをお使いのときに作業を中断する場合は、PCカードのマニュアルをご覧ください。

## サスペンド機能を使う

サスペンド機能を使うと、パソコンの動作を一時停止し、作業を中断できます。中断した作業を再開すると、サスペンド機能を使う前の状態に戻ります。

### 重要

#### サスペンドが可能な時間

新品のバッテリーを満充電にした状態で、約1日サスペンドできます。

#### サスペンドが可能な時間が短くなる時

「PMSet98」で、「電話が鳴ったら、パソコンを元の状態に戻す」の左がに設定されている場合(ご購入時は)は、サスペンド可能な時間が短くなることがあります。

「節電の設定を変更する」(P.66)

#### サスペンドについての注意

- ・ ディスクへのアクセス中やモデムでの通信中、PCカード利用中は、それらの作業を完了または中断してからサスペンドしてください。
- ・ サスペンドしているときにバッテリーが切れると、作業中のデータはすべて失われてしまいます。バッテリーでパソコンを使っているときにサスペンドする場合には、バッテリー残量に十分注意してください。長い時間サスペンドするときは、ACアダプタを取り付けることをお勧めします。
- ・ Windows98 が起動するまでの間は、サスペンドしない場合があります。

#### セットすると自動で始まるCD-ROMを使用しているときは、サスペンドしないでください

セットすると自動で始まるCD-ROMを使用しているときにサスペンドすると、レジューム時にCD-ROMが二重に起動してしまい、誤動作の原因となります。二重に起動してしまった場合は、CD-ROMのアプリケーションを一度すべて終了し、CD-ROMをセットし直してください。

#### オプション機器を接続しているとき

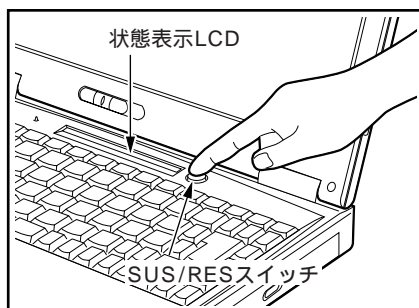
ドライバのインストールが必要なオプション機器を接続しているときは、ドライバのインストールを終了してからサスペンド機能を使ってください。

## 作業を中断する（サスペンド機能）

サスペンドするには、SUS/RESスイッチ（←P.4）を使う方法や、液晶ディスプレイを閉じる方法などがあります。

### SUS/RESスイッチを使う

- 1 状態表示LCDに☹や☹が表示されていないことを確認し、SUS/RESスイッチを押します。  
しばらくすると状態表示LCDに①が点滅し、液晶ディスプレイの表示が消えます。



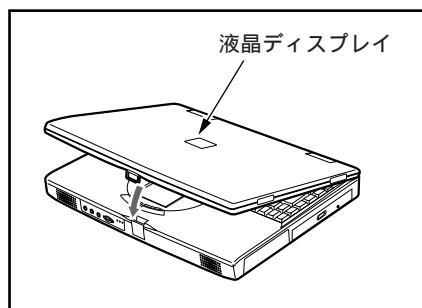
### 液晶ディスプレイを閉じる

#### 重要

#### 液晶ディスプレイを閉じてサスペンドするときの注意

Windows98の終了処理中は、液晶ディスプレイを閉じないでください。

- 1 状態表示LCDに☹や☹が表示されていないことを確認し、液晶ディスプレイを閉じます。



#### アドバイス

液晶ディスプレイを閉じたときにサスペンドしないようにするには

BIOSセットアップの「省電力」メニューの「詳細設定」で、「カバーローズサスペンド」を「使用しない」に設定してください（ご購入時は「使用する」）。

「BIOSセットアップの操作のしかた」（←P.117）

サスペンドの別の操作方法

「スタート」ボタンから「Windowsの終了」をクリックして表示される「Windowsの終了」ウィンドウで「スタンバイ」をクリックしても、サスペンドすることができます。



## 中断した作業を再開する

一時停止しているパソコンの動作を元の状態に戻すことを「レジューム」といいます。

レジュームするには、SUS/RES スイッチ(←P.4)を使う方法や液晶ディスプレイを開く方法などがあります。

### 重要

#### レジュームするときの注意

サスペンドした直後にレジュームしないでください。レジュームするときは、10秒ほど待ってください。

#### SUS/RES スイッチは4秒以上押さないでください

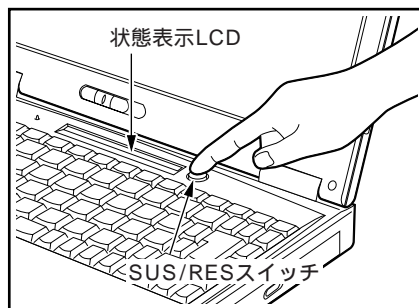
SUS/RES スイッチを4秒以上押し続けると、本パソコンの電源が切れ、作成中のデータが失われることがあります。

### 液晶ディスプレイを開いているとき

**1** 状態表示LCDに①が点滅していることを確認します。

**2** SUS/RES スイッチを押します。

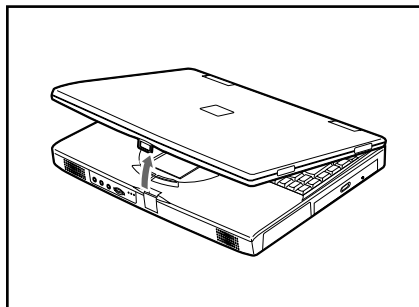
状態表示LCDの①が点滅から点灯に変わり、しばらくすると中断する前の画面が表示されます。



### 液晶ディスプレイを閉じているとき

**1** 液晶ディスプレイを開きます。

状態表示LCDの①が点滅から点灯に変わり、しばらくすると中断する前の画面が表示されます。



### アドバイス

#### レジューム時の画面の乱れについて

レジュームするとき、一時的に画面表示が乱れることがあります。故障ではありません。あらかじめご了承ください。

レジューム後にキーボードが使用できないとき

BIOS セットアップの「セキュリティ」メニュー(←P.127)で、「起動時のパスワード」と「レジューム時のパスワード」を「使用する」に設定している、レジューム後はフラットポイント(マウス)と、パスワードを入力する以外のキーボード操作ができません(状態表示LCDの①、②が一定時間順番に表示されます)。

この場合は、起動時のパスワードを入力し、**[Enter]**を押してください。キーボードとフラットポイント(マウス)が使用できるようになります。

## Save To Disk 機能を使う

Save To Disk機能を使うと、作業中の状態をハードディスクに保存して、作業を中断できます。中断しているあいだは、電源が切れているので、電力を消費しません。

中断した作業を再開すると、中断する前の作業状態に戻ります。


### 重要

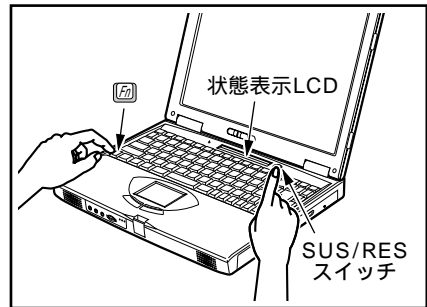
#### オプション機器を接続した状態で Save To Disk 機能を使うとき

PCカードやプリンタなどの機器を接続した状態で Save To Disk 機能を使うと、作業を再開するときに機器に対する初期化が行われます。そのため、中断する前の作業状態に戻らないことがあります。

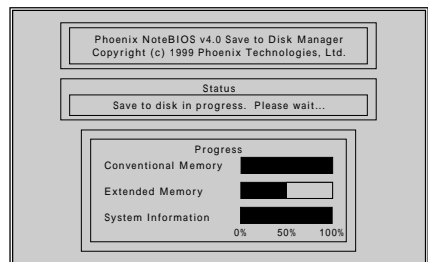
### 作業を中断する ( Save To Disk 機能 )

**1** 状態表示LCDにやが表示されていないことを確認します。

**2**  を押しながら、SUS / RES スイッチを押します。



ハードディスクへの保存状態が画面に表示され、しばらくすると、電源が切れます。



### アドバイス

SUS/RES スイッチを押すだけで Save To Disk 機能を使いたいとき

BIOS セットアップの「省電力」メニューで、「サスペンド動作」を「Save To Disk」に設定してください。

「BIOS セットアップの操作のしかた」(←P.117)

Save To Disk 機能が働かないとき

Save To Disk 領域が削除されている可能性があります。Save To Disk 領域を作成し直してください。

「Save To Disk 領域」(←P.151)

本パソコンご購入時は、Save To Disk 領域が作成されています。

## アドバイス

液晶ディスプレイを閉じたときは

サスペンドした後に液晶ディスプレイを閉じたときは、開くとレジュームします。

## アドバイス

レジューム時の画面表示の乱れについて

レジュームするとき、一時的に画面表示が乱れることがあります。故障ではありません。あらかじめご了承ください。

## 中断した作業を再開する

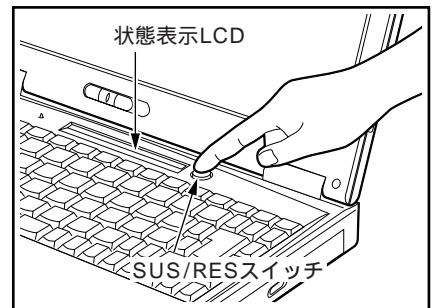
一時停止しているパソコンの動作を元の状態に戻すことを「レジューム」といいます。

### 重要

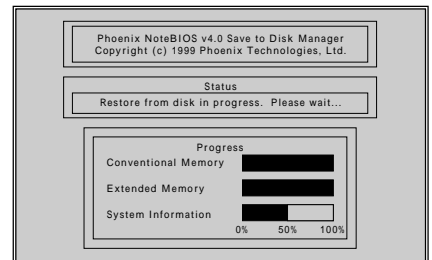
#### レジュームするときの注意

Save To Disk 機能で作業を中断した直後にレジュームしないでください。レジュームするときは10秒ほど待ってください。

## 1 SUS/RES スイッチを押します。



保存された作業状態をハードディスクから呼び出している様子が、画面に表示されます。しばらくすると、中断する前の画面が表示されます。



## 節電の設定

## コラム

フラットポイント(マウス)や、キーボードの操作をしないまま一定時間過ぎると、画面が真っ暗になることがあります。これは、節電機能が働いたためです。

本パソコンご購入時は、バッテリーで使っているときに節電機能が働くように設定されています。

Windows98の「電源の管理」で、節電の設定を変更できます。ACアダプタで使うときに節電したり、節電機能を使わないようにすることもできます。

なお、通常お使いになるうえでは、節電の設定を変更する必要はありません。

「節電の設定を変更する」(←P.66)

## 5

## 節電の設定を変更する

本パソコンは、電源やパソコンの状況に合わせて適切に節電されるように設定されています。

ここでは、以下のことを説明します。

- ・ご購入時の節電の設定 ←P.66
- ・「電源の管理」で設定を変更する ←P.66
- ・「PMSet98」で設定を変更する ←P.67

## ご購入時の節電の設定

本パソコンご購入時には、バッテリーで使うときに節電されるように設定されています。

節電の設定は、通常お使いになる上では、変更する必要はありません。変更する場合は、「PMSet98」またはWindows98の「電源の管理」を使います。

 **アドバイス**

サスペンドするまでの時間を変更するには


「電源設定」タブの「システムスタンバイ」で、時間を変更してください。

BIOS セットアップの「省電力」メニューとの関係

節電方法をさらに細かく設定したいときは、BIOS セットアップの「省電力」メニューの項目も設定してください。

「省電力メニュー」(←P.128)

バッテリーの残量が12%以下になったとき

バッテリーの残量が約12%以下の状態を、「LOWバッテリー状態」といいます。この状態になると、「アラーム」タブでの設定に関わりなく、バッテリー残量表示(状態表示LCDの)が点滅し、警告音が鳴ります。

「LOWバッテリー状態」(←P.56)


Windows98のヘルプで関連する項目を探すには

「スタート」ボタンをクリックし、「ヘルプ」をクリックすると、「Windowsのヘルプ」ウィンドウが表示されます。「キーワード」タブで、「電源」などの検索語を入力して表示される一覧から、該当する項目をクリックし、「表示」をクリックします。

## 「電源の管理」で設定を変更する

節電機能が働くまでの時間を変更するときは、「電源の管理のプロパティ」ウィンドウで設定します。

## 「電源の管理のプロパティ」ウィンドウを表示する

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。  
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2  (電源の管理) をクリックします。  
「電源の管理のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

## 設定を変更する

節電機能が働くまでの時間の設定は、「電源設定」タブで変更します。

バッテリーの残量が少なくなったときにWindows98が出す警告の設定は、「アラーム」タブで変更します。

変更のしかたや設定項目について詳しくは、Windows98のヘルプをご覧ください。

## 「PMSet98」で設定を変更する

「PMSet98」には、現在の設定内容が表示される「PMSet98のプロパティ」ウィンドウと、電源の状態が表示される「インジケータ」があります。

### 「PMSet98のプロパティ」ウィンドウを表示する

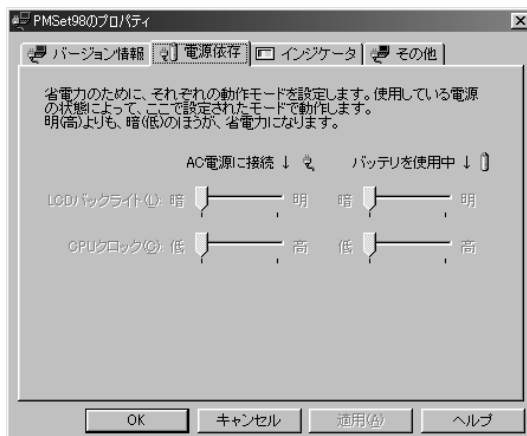
#### アドバイス







「電源依存」タブの項目について

本パソコンでは設定できません。

#### 1 タスクバーのまたはをダブルクリックします。

「PMSet98のプロパティ」ウィンドウが表示されます。



- ・タスクバーにまたはが表示されていないとき  
「PMSet98」が起動していません。「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「PMSet98」の順にマウスポインタを合わせ、「1.PMSet98」をクリックします。
- ・が点滅しているとき  
バッテリーの充電中は、タスクバーのが点滅しています。
- ・「PMSet98」を終了するには  
「PMSet98」は、Windows 98 を起動するたびに起動します。「PMSet98」を使用しないときは、タスクバーのまたはを右クリックし、「終了」をクリックします。

### インジケータを表示する

インジケータには、バッテリー残量や電源の状態が表示されます。

#### 1 「PMSet98のプロパティ」ウィンドウを表示します。

「PMSet98のプロパティ」ウィンドウを表示する」

#### 2 「インジケータ」タブをクリックします。

## アドバイス

### 表示位置について

- ・インジケータと他のウィンドウが重なったときは、インジケータが常に前面に表示されます。
- ・インジケータの位置を固定していると、他のウィンドウの操作ができないことがあります。
- ・「自由位置[ドラッグして位置決め]」にすると、好きな位置に表示できます。
- ・「種類」の右の▼をクリックすると、インジケータの種類を選べます。

### 電源の状態が表示されないとき


「PMSet98のプロパティ」ウィンドウの「インジケータ」タブで、「電源の状態を表示する」をクリックしてをにします。

### BIOS セットアップの「省電力」メニューとの関係

BIOS セットアップの「省電力」メニューの「モデム着信によるレジューム」(←P.129)でも設定を変更できます。

「PMSet98」で設定を変更すると、BIOS セットアップの設定も変更されます。

### レジュームするように設定しているとき

- ・PDC コネクタに接続した携帯電話からモデムに着信したときは、レジュームしません。
- ・を押しながら、SUS/RES スイッチを押して Save To Disk 機能を使っているときは、レジュームしません。
- ・「Save To Disk 機能を使う」(←P.64)
- ・BIOS セットアップの「省電力」メニューで、「サスペンド動作」(←P.129)などを「Save To Disk」に設定していても、サスペンドになります。
- ・サスペンド中でもモデムを動作させておくため、サスペンド中の電力消費が大きくなります。ACアダプタを接続してお使いになることをお勧めします。

**3** 「インジケータを表示する」をクリックしてをにします。

**4** 「表示位置」の右の▼をクリックし、一覧から表示する位置をクリックします。

**5** 「OK」をクリックします。

インジケータが表示されます。

電源の状態によって、表示されるインジケータは異なります。

: AC アダプタ接続時

: バッテリーで使用時

## 設定を変更する

サスペンド中に電話回線からモデムに着信したとき、レジュームする(サスペンドする前に戻す)かどうかを設定します。

「その他」タブの「電話が鳴ったら、パソコンを元の状態に戻す」をクリックしてをにし、「適用」または「OK」をクリックします。

## 第 4 章

# オプション機器を活用しよう！

パソコンは、さまざまなオプション機器を接続して機能を拡張することができます。

お使いになる目的に応じて、オプション機器を取り付けてください。

本章では、取り付けられるオプション機器の例を紹介し、取り付け方法や設定作業などについて説明しています。

1. オプション機器について .....	70
2. プリンタを接続する .....	73
3. メモリを増やす .....	77
4. 内蔵バッテリーユニットを増設する .....	83
5. マウス/テンキーボードを接続する .....	84
6. PC カードをセットする .....	85
7. 携帯電話や PHS を接続する .....	92
8. CRT ディスプレイを接続する .....	101
9. 内蔵 DVD-ROM ドライブユニットを取り付ける .....	109
10. 内蔵スーパーディスクドライブユニットを取り付ける .....	111
11. その他のオプション機器を使う .....	113

# 1

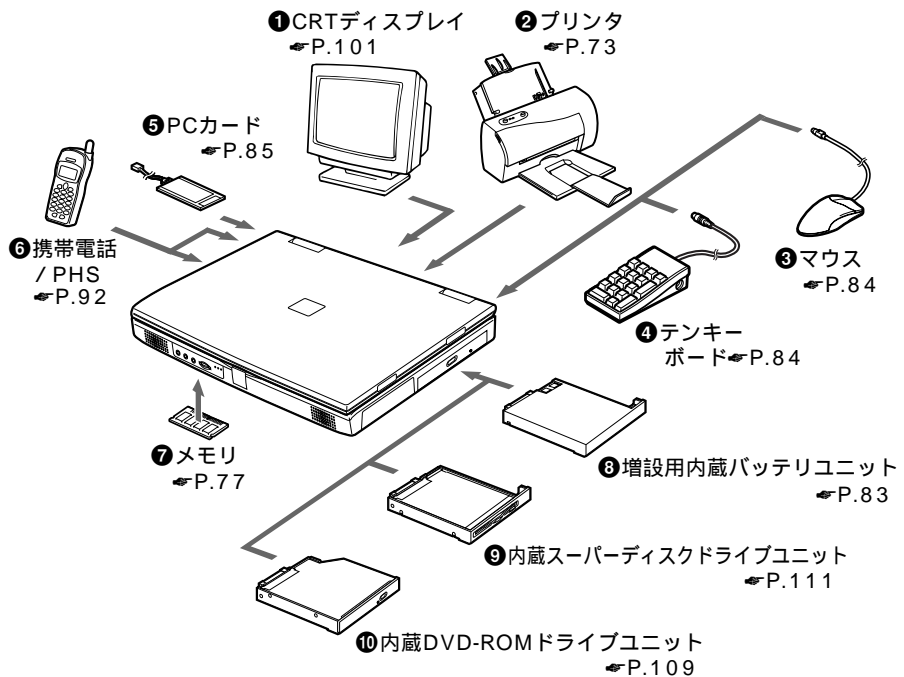
## オプション機器について

ここでは以下のことを説明します。

- ・オプション機器の紹介 ←P.70
- ・オプション機器の接続にあたって ←P.71

### オプション機器の紹介

本パソコンに取り付けられるオプション機器には、次のようなものがあります。接続のしかたなどについて詳しくは、各機器の参照先をご覧ください。



### アドバイス

取り付けられるその他のオプション機器

- ・外径 3.5mm のミニプラグを持つオーディオ機器  
マイクやアンプ内蔵スピーカー、ヘッドホンなどを、本体前面のジャックに接続できます。
- ・SCSI 規格対応の機器  
本体左側面の PC カードスロットに SCSI カードをセットすることで、SCSI 規格に対応した外付けハードディスクや MO (光磁気ディスク) ドライブなどを接続できます。

- シーアールティ
- 1 CRT ディスプレイ**  
液晶ディスプレイよりも高解像度で表示できます。
  - 2 プリンタ**  
パソコンで作った文書や画像などを印刷できます。
  - 3 マウス**  
マウスポインタの操作がより快適にできます。
  - 4 テンキーボード**  
数字を効率よく入力できます。
  - ピーシー  
**5 PC カード**  
パソコンにさまざまな機能を追加できます。



- ・RS-232C規格対応の機器  
RS-232C規格に対応した機器（デジタルカメラなど）を、本体背面のシリアルコネクタに接続できます。
- ・USB規格対応の機器  
USB規格に対応した機器（マウスやキーボードなど）を、本体左側面のUSBコネクタに接続できます。

- ⑥ <sup>ビーエイチエス</sup> 携帯電話 / PHS  
携帯電話やPHSを利用して、インターネットやパソコン通信ができます。
- ⑦ メモリ  
メモリを増やすと、より大きなデータを扱えるようになり、パソコンの処理が快適になります。
- ⑧ 増設用内蔵バッテリーユニット  
より長い時間バッテリーで使うことができます。
- ⑨ 内蔵スーパーディスクドライブユニット  
フロッピーディスクと、より多くのデータを保存できるスーパーディスクを使えます。
- ⑩ <sup>ディフイディオム</sup> 内蔵DVD-ROMドライブユニット  
DVD-ROMやCD-ROMの映像や音声を再生できます。

## オプション機器の接続にあたって

ここでは別売のオプション機器を接続する前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明します。

### 本パソコンは「PC/AT互換機」です

パソコンには、さまざまな種類のものがあります。本パソコンは、<sup>ピーシーエーティー</sup>「PC/AT互換機」です。また、通称で「DOS/V<sup>ドスフイ</sup>パソコン」と呼ばれることもあります。本書では、オプション機器の接続について、PC/AT互換機の特徴に沿って説明しています。

### オプション機器によっては設定作業が必要です

パソコンのオプション機器の中には、接続するだけでは正しく使えないものがあります。このような機器は、接続したあとで設定作業を行う必要があります。たとえば、プリンタやPCカードを使うには、取り付けただけで「ドライバのインストール」という作業が必要です。ただし、メモリなどのように、設定作業がいらぬ機器もあります。本書をよくご覧になり、取り付けてください。

## 用語

### ドライバ

パソコンに取り付ける機器を正しく扱うためのソフトウェアのことです。「デバイスドライバ」とも呼ばれます。

ドライバは、パソコンとオプション機器との間を仲介します。パソコンのプログラムが実行しようとする命令を、機器が理解できるように翻訳するのがドライバの役目です。

ドライバは、それぞれの機器に対して専用のものがあります。メーカーや機種が違えばドライバも異なります。ほとんどの機器には、ドライバがフロッピーディスクなどで添付されています。

### インストール

ソフトウェアをパソコンのハードディスクにコピーして、使える状態にすることです。

## オプション機器のマニュアルもご覧ください

本書で説明しているオプション機器の取り付け方法は一例です。機器によっては、取り付けかたなどが異なる場合があります。本書とあわせてオプション機器のマニュアルも必ずご覧ください。

## ケーブルは専用です

オプション機器を接続するケーブルは、プリンタには「プリンタケーブル」というように、オプション機器によって、専用のケーブルが用意されています。

また、パソコンの規格によっても、使えるケーブルの種類が決まっています。本パソコンで使えるケーブルは、「PC / AT 互換機用」または「DOS / V 用」などと表示されたものです。

形状が同じでつながるように見えても、実際には規格が異なっていて使えない場合もあります。よく確かめてご用意ください。

## 純正品をお使いください

オプション機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします。純正品については、「価格表」でご確認ください。「価格表」は、FAX サービスをご利用になるか、販売店にお問い合わせください。

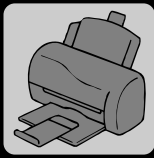
☞ 『富士通サポート ご案内』

他社製品につきましては、本パソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。

## 取り付け / 取り外し時の注意

オプション機器の取り付けや取り外しを行うときは、次の点に注意してください。

- ・ 作業を行う前に、パソコン本体および取り付けられている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ・ PS/2規格のマウス以外のオプション機器の取り付けは、Windows 98のセットアップ終了後に行ってください。Windows 98のセットアップを行う前に取り付けると、セットアップが正常に行われずおそれがあります。
- ・ 電源を切った直後は、パソコン内部の装置が熱くなっています。内蔵機器の取り付けや取り外しを行う場合は、電源を切ったあと 10 分ほど待ってから、作業を始めてください。



# 2

オプション機器を活用しよう！

## プリンタを接続する

プリンタを接続すると、パソコンで作った文書や画像などを、印刷することができます。

ここでは以下のことを説明します。

- ・必要なものを用意する ←P.73
- ・プリンタを接続する ←P.74

### 必要なものを用意する



警告

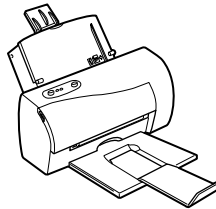


感電

プリンタは、弊社純正品をお使いください。  
純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

プリンタによって、用意するものが異なります。プリンタのマニュアルもご覧ください。

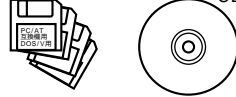
#### プリンタ



Windows98 で動作可能なプリンタ  
を用意してください。

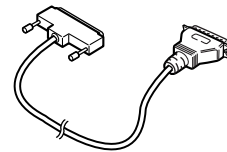
#### プリンタのドライバ

フロッピーディスク CD-ROM



プリンタによっては、CD-ROMやフロッピーディスクで添付されています。フロッピーディスクが数種類あるときは、「Windows98用」、「PC/AT互換機用」、「DOS/V用」などと表示されたものをお使いください。

#### プリンタケーブル



プリンタとパソコンを接続するケーブルです。添付されていない場合は、「PC/AT互換機用」または「DOS/V用」などと表示されているもので、パソコン側のコネクタをネジで固定する形のケーブルを用意してください。

#### プリンタのマニュアル



プリンタにより接続方法や設定方法が異なります。必ずプリンタのマニュアルもご覧ください。

CD-ROMで見るマニュアルもあります。

# 4

オプション機器を活用しよう！(プリンタを接続する)

## プリンタを接続する



**感電** プリンタの接続や取り外しを行うときは、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。感電、火災または故障の原因となります。



**故障** ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体およびプリンタが故障する原因となることがあります。



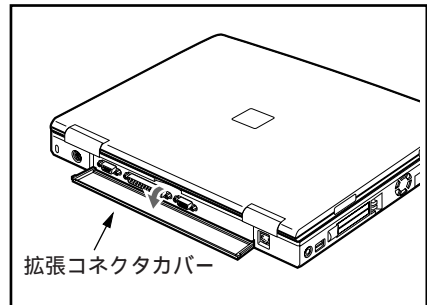
プリンタの接続は、Windows98のセットアップ終了後に行ってください

Windows98のセットアップを行う前に接続すると、セットアップが正常に行われな  
おそれがあります。

プリンタのマニュアルもご覧ください

接続方法は、プリンタによって異なります。プリンタのマニュアルもあわせてご  
覧ください。

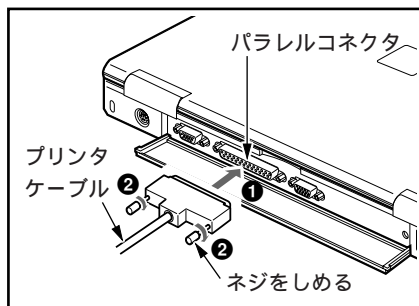
- 1** パソコン本体の電源を切ります。  
「今日はおしまい。電源を切るには?」(←P.47)
- 2** オプション機器の電源を切り、取り外します。
- 3** ACアダプタを取り外します。  
「ACアダプタを取り外す」(←P.51)
- 4** パソコン本体背面の拡張コネクタカバーを、矢印の方向に開きます。



## 5 パソコン本体背面の平行コネクタに、プリンタケーブルを接続します。

コネクタは、正面から見ると台形になっています。

- ① コネクタの形を互いに合わせ、しっかりと差し込んでください。
- ② プリンタケーブルの左右のネジをしめて固定してください。



## 6 プリンタに、プリンタケーブルを接続します。

接続方法は、プリンタのマニュアルをご覧ください。

## 7 プリンタに電源ケーブルを接続します。

プリンタに電源ケーブルがつながっている場合もあります。プリンタのマニュアルをご覧ください。

## 8 プリンタの電源ケーブルのプラグを、コンセントに差し込みます。

## 9 初めて接続したプリンタを使うには、ドライバのインストールという設定作業を行います。

プリンタのマニュアルをご覧ください、必ずドライバのインストールを行ってください。

ドライバのインストールでフロッピーディスクやCD-ROMを使うことがあります。

「フロッピーディスクをセットする / 取り出す」(←P.31)

「CD-ROM をセットする / 取り出す」(←P.35)

### アドバイス

「Windows 98 の CD-ROM を挿入してください」というメッセージが表示されたとき

「OK」をクリックし、次に表示されるウィンドウで「c:\windows\options\cabs」と入力して「OK」をクリックしてください。

通常使うプリンタに設定してください

接続したプリンタは、通常使うプリンタに設定してください。

プリンタを取り外すとき

- ・パソコンとプリンタの電源を切り、ケーブルを取り外してください。
- ・もう一度同じプリンタを取り付けるときは、ドライバのインストールを行う必要はありません。

印刷のしかたについて

印刷のしかたについては、各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。

### プリンタドライバをインストールするときの注意

プリンタのマニュアルに、「接続して電源を入れると自動的にドライバのインストールが始まります。」と記載されている場合、お使いの環境によっては、プリンタのマニュアルに記載されている手順どおりに設定が進まないことがあります。そのときは次のように操作してください。

**1** 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「プリンタ」をクリックします。

**2** 「プリンタ」ウィンドウで「プリンタの追加」をクリックします。「プリンタの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。

### 3 画面の指示に従ってドライバをインストールします。

#### アドバイス

##### 弊社製 FMLBP シリーズのプリンタを接続したとき

FMLBP シリーズのプリンタを接続したときに、プリンタ側とパソコン側のモードが合っていないために、印刷が正常に行われなかったことがあります。

その場合は以下の手順でモードを変更してください。

- 1 プリンタの操作パネルなどで、現在のプリンタのモードを調べます。  
操作パネルについては、プリンタのマニュアルをご覧ください。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「プリンタ」をクリックします。  
「プリンタ」ウィンドウが表示されます。
- 3 接続したプリンタのアイコンをクリックします。
- 4 「プリンタ」メニューの「プロパティ」をクリックします。
- 5 「現在のモード」をクリックします。
- 6 プリンタ側のモードと同じモードを選びます。  
プリンタ側のモードがESC/P モードの場合は、「ESC/P モード」をクリックします。  
プリンタ側のモードがFM モードの場合は、「FM モード」をクリックします。
- 7 「OK」をクリックします。

##### 弊社製プリンタ「XJ-350 / XJ-550」をお使いのとき

・本パソコンには、以下のプリンタドライバがあらかじめ用意されています。  
そのため、これらのプリンタをお使いになる場合は、プラグアンドプレイでプリンタが認識されたあとに、自動的にドライバのインストールが始まります。

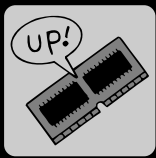
XJ-350 : V1.0L10    XJ-550 : V1.0L10 (1999年5月現在)

・プリンタドライバは、バージョンアップされることがあります。最新版のドライバは、パソコン通信やインターネットなどのオンライン情報サービスにてご案内します。

- NIFTY SERVE 富士通 FM シリーズ情報「FM INFO」  
(GO FMINFO でアクセスできます)
- インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」  
(<http://www.fmworld.ne.jp>)

・最新版のドライバのインストールは、次の手順で行ってください。

- 1 プリンタの電源を切ります。
- 2 古いバージョンのドライバを削除します。  
削除のしかたは、プリンタのマニュアルをご覧ください。
- 3 本パソコンを再起動します。
- 4 Windows98 が起動したら、プリンタの電源を入れます。
- 5 ダウンロードした最新版のドライバを、「プリンタの追加」でインストールします。  
本パソコンを再起動するときにプリンタの電源が入っていると、プラグアンドプレイが行われ、古いドライバが自動的にインストールされてしまいます。必ず、プリンタの電源を切ってから、本パソコンを再起動してください。  
インストール方法などについては、プリンタのマニュアルをご覧ください。



# 3

## メモリを増やす

### 用語

#### メモリ

記憶装置の総称です。ここでいうメモリは、CPUが処理するデータを一時的にためておく記憶装置です。

メモリを増やすと、より大きなデータを扱えるようになります。また、複数のアプリケーションを同時に起動するときにパソコンの処理が快適になります。本パソコンご購入時のメモリ容量は64MBです。最大192MBまで増やすことができます。

ここでは以下のことを説明します。

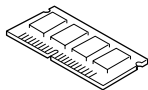
- ・必要なものを用意する ←P.77
- ・メモリを取り付ける / 取り外す ←P.78

### 必要なものを用意する



感電  
メモリは、弊社純正品をお使いください。  
純正品以外をお使いになると、感電・火災または故障の原因となります。

メモリ ラム  
(拡張RAMモジュール)



FMVNM16SB、FMVNM64SC、  
FMVNM32SC、FMVNM12SCの  
メモリのうち、1枚取り付けられま  
す。  
それぞれの数字はメモリの容量を示  
しています。

プラスのドライバー



本パソコンのネジを取り外すときに  
使います。ネジの頭をつぶさないよ  
うに、ネジのサイズに合ったものを  
お使いください。

# 4

オプション機器を活用しよう！（メモリを増やす）

## メモリを取り付ける / 取り外す



警告



**感電** メモリの取り付けや取り外しをするときは、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。感電の原因となります。



**誤飲** 取り外したカバー、ネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。



注意



**けが** メモリの取り付けや取り外しをするときは、指定された場所以外のネジは取り外さないでください。指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また故障の原因となることがあります。



**故障** メモリの取り付けや取り外しをするときは、端子やICなどには触れないよう、ふちを持ってください。指の油分などが付着すると、接触不良の原因となることがあります。

### 重要

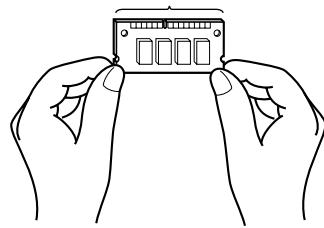
メモリの取り付けは、Windows98のセットアップ終了後に行ってください

Windows98のセットアップを行う前に取り付けると、セットアップが正常に行われな  
いおそれがあります。

#### 取り付け / 取り外し時の注意

- ・メモリは静電気に対して非常に弱い部品  
できています。そのため人間の体内に  
たまった静電気によって壊れる場合があ  
ります。メモリを取り扱う前に、一度金  
属質のものに手を触れて静電気を放電し  
てください。
- ・メモリを取り扱うときは、右図のよう  
にふちを持ってください。また、メモリ  
の取り付けや取り外しをするときは、メモ  
リの端子やパソコン本体内部の端子には絶  
対に触れないでください。
- ・メモリの取り付けや取り外しをするとき  
に外したネジは、パソコン本体内部には絶  
対に落とさないでください。

この部分（端子）には手  
を触れないでください。



#### Save To Disk 機能で電源を切らないでください

メモリの取り付けや取り外しをするときは、必ず「今日はおしまい。電源を切るには？」  
の手順で電源を切ってください。Save To Disk 機能で電源を切ると、作業中のデータ  
が失われるおそれがあります。

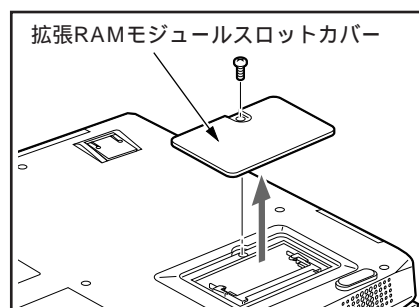
「今日はおしまい。電源を切るには？」(←P.47)

「Save To Disk 機能を使う」(←P.64)

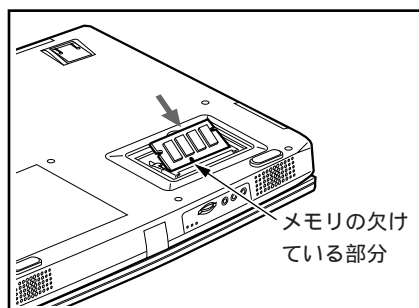


## メモリを取り付ける

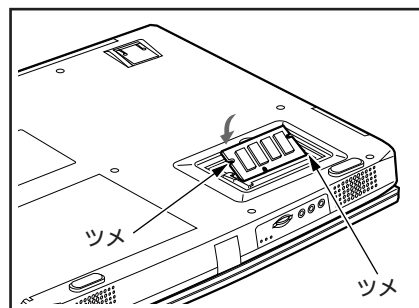
- 1** パソコン本体の電源を切ります。  
「今日はおしまい。電源を切るには？」(←P.47)
- 2** オプション機器の電源を切り、取り外します。
- 3** ACアダプタを取り外します。  
「ACアダプタを取り外す」(←P.51)
- 4** 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。
- 5** ネジを取り外し、拡張RAMモジュールスロットカバーを取り外します。



- 6** メモリを斜めに差し込みます。  
メモリの欠けている部分と、コネクタの突起を合わせ、斜め上からしっかりと差し込んでください。



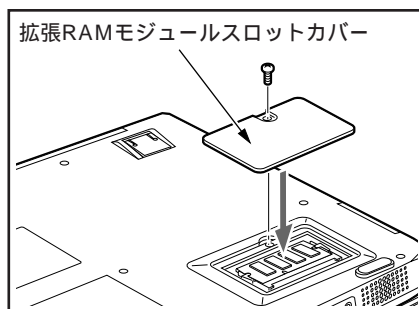
- 7** メモリをはめ込みます。  
メモリが、両側のツメにはさみこまれてパチンと音がするまで下に倒してください。



4

オプション機器を活用しよう！(メモリを増やす)

## 8 手順5で取り外したネジで、拡張RAMモジュールスロットカバーを取り付けます。



取り付けたメモリがパソコンで使える状態になっているかどうかを確認してください。

「取り付けたメモリが使える状態か確認する」(←P.80)

### 重要

#### Windows98 が起動しないとき

メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときに「拡張メモリエラー」というメッセージや英語のメッセージが表示されたり、何も表示されないことがあります。その場合は、はじめにSUS/RESスイッチを押してサスペンド(一時停止)させます。その状態でSUS/RESスイッチを4秒以上押し続けると、本パソコンの電源が切れます。電源が切れたら、メモリを取り付け直してください。

「メモリを取り外す」(←P.81)

「メモリを取り付ける」(←P.79)

### 取り付けたメモリが使える状態か確認する

メモリを取り付けたあと、増やしたメモリが本パソコンで使える状態になっているかどうか確認してください。

#### 1 パソコン本体の電源を入れます。

「電源を入れてパソコンを使おう」(←P.46)

#### 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

#### 3 (システム) をクリックします。

「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

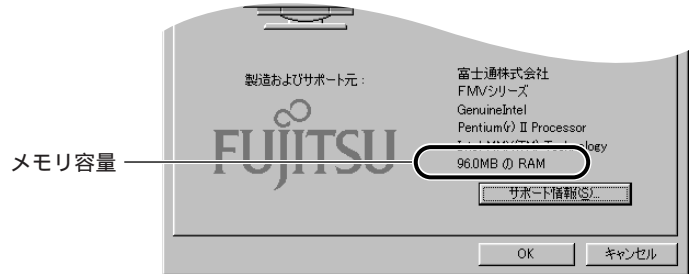
## アドバイス

数値が増えていないとき

メモリ容量の数値が増えていなかった場合は、メモリがきちんと取り付けられているかどうかを確認してください。

「メモリを取り付ける」(←P.79)

## 4 で囲んだ部分の数値が、増やしたメモリの分だけ増えているかどうかを確認します。



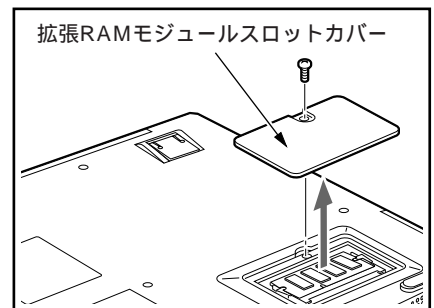
画面は、32MBのメモリを増設して、96MBに増やした例です。  
お使いのシステム構成によっては1MB少なく表示される場合があります。

## 5 「OK」をクリックします。 「コントロールパネル」ウィンドウに戻ります。

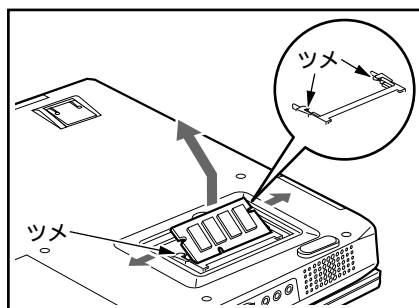
### メモリを取り外す

増やしたメモリを大容量のメモリに交換するときは、メモリを取り外す必要があります。

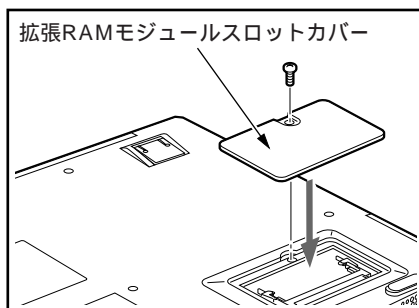
- 1 パソコン本体の電源を切ります。  
「今日はおしまい。電源を切るには?」(←P.47)
- 2 オプション機器の電源を切り、取り外します。
- 3 ACアダプタを取り外します。  
「ACアダプタを取り外す」(←P.51)
- 4 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。
- 5 ネジを取り外し、拡張RAMモジュールスロットカバーを取り外します。

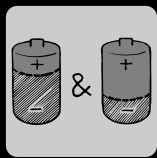


- 6** メモリを押さえている両側のツメを左右に開き、メモリを取り外します。



- 7** 手順5で取り外したネジで、拡張RAMモジュールスロットカバーを取り付けます。





## 4

## 内蔵バッテリーユニットを増設する

増設用内蔵バッテリーユニットを取り付けると、より長い時間バッテリーで本パソコンを使うことができます。

増設用内蔵バッテリーユニットは、FMVNBT16をお使いください。

ここでは以下のことを説明します。

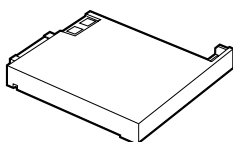
- ・必要なものを用意する ←P.83
- ・増設用内蔵バッテリーユニットを取り付ける ←P.83

## 必要なものを用意する



増設用内蔵バッテリーユニットは、弊社純正品をお使いください。純正品以外をお使いになると、感電・火災または故障の原因となります。

増設用内蔵バッテリーユニット



増設用内蔵バッテリーユニット (FMVNBT16) は、マルチベイに取り付けることができます。

## 増設用内蔵バッテリーユニットを取り付ける



増設用内蔵バッテリーユニットの取り付けや取り外しを行うときは、誤って落下させるなどして、強い衝撃を与えないでください。また、安全を考慮し、強い衝撃を与えたバッテリーはお使いにならないでください。感電や火災、破裂の原因となります。



重要

## 増設用内蔵バッテリーユニット取り扱い上の注意

増設用内蔵バッテリーユニットを取り扱う前に、取り扱い上の注意をご覧ください。

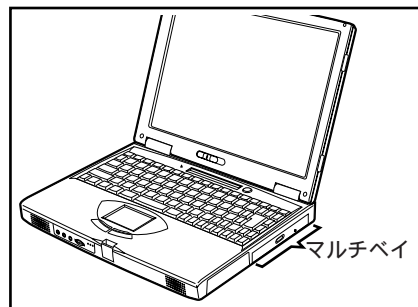
「気を付けてください～ユニットを使うとき」(←P.22)

 **アドバイス**

増設用内蔵バッテリーユニットを取り外すとき

「マルチベイのユニットを交換する」(←P.24)

- 1 増設用内蔵バッテリーユニットをマルチベイに取り付けます。  
「マルチベイのユニットを交換する」(←P.24)





## 5

## マウス / テンキーボードを接続する

 **アドバイス**

## マウスの練習

『わかるがるパソコン入門』で、実際の画面を使って、マウスの練習ができます。

**その他のキーボードも接続できます**

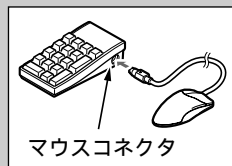
本パソコンの拡張キーボード / マウスコネクタには、101 キーボード、OADG キーボード、JIS キーボード、親指シフトキーボードも接続できます。ただし、親指シフトキーボードを使うには、弊社製日本語入力システムのOAK V5.0以降が必要です。

**テンキーボードの傾きを調節できます**

テンキーボード下面にあるチルトフットで、傾きを調節できます。






**マウスとテンキーボードを両方使うには**

本パソコンでテンキーボードとマウスの両方を同時に接続して使うときは、パソコン本体にテンキーボードを接続し、マウスはテンキーボードのマウスコネクタに接続してください。



マウスコネクタ

**テンキーボードで数字を入力できるとき**

状態表示 LCD に  が表示されているときにテンキーボードで数字を入力できます (パソコン本体のテンキーは無効になります)。状態表示 LCD に  が表示されていないときは、 を押すか、テンキーボードの  を押してください。状態表示 LCD に  が表示され、テンキーボードで数字を入力できるようになります。

マウスを接続すると、より快適にマウスポインタの操作をすることができます。テンキーボードを接続して使うと、数字を効率よく入力できます。ここでは PS/2 規格のマウスやテンキーボードの接続方法を説明します。



警告



感電

マウス、テンキーボードは、弊社純正品をお使いください。純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

 **重要**
**接続は、Windows98 のセットアップ終了後に行ってください**

Windows98 のセットアップを行う前に接続すると、セットアップが正常に行われないうちがあります。

ただし、PS/2 規格のマウスは、セットアップ前に接続することができます。

**マウスの接続についての注意**

PS/2 規格のマウスを接続すると、自動的にフラットポイントは使えなくなります。

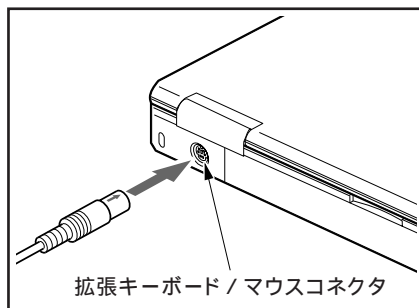
**1 パソコン本体の電源を切ります。またはサスペンドします。**

「今日はおしまい。電源を切るには？」(←P.47)

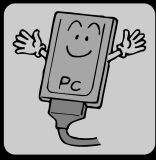
「作業を中断する (サスペンド機能)」(←P.62)

**2 マウスまたはテンキーボードを、パソコン本体背面の拡張キーボード / マウスコネクタに接続します。**

マウスまたはテンキーボードのコネクタに示されている矢印を上向きにし、奥までしっかりと差し込んでください。



拡張キーボード / マウスコネクタ



# 6

オプション機器を活用しよう！

## ピーシー PCカードをセットする

PCカードをセットすると、パソコンにさまざまな機能を追加できます。  
ここでは以下のことを説明します。

- ・気をつけてください～ PCカードを使うとき ⇨P.86
- ・必要なものを用意する ⇨P.87
- ・PCカードをセットする ⇨P.88
- ・PCカードを取り出す ⇨P.90



### PCカードの種類

代表的な PC カードには、以下のようなものがあります。

スカジー

#### SCSI カード

SCSI規格対応のハードディスクやMO(光磁気ディスク)ドライブなどの機器を接続するときに必要なPCカードです。

ラン

#### LAN カード

複数のパソコンどうしをケーブルで接続して、データやプリンタなどを共有するときに必要なPCカードです。

ピーエイチエス

#### デジタル携帯電話接続カード、PHS接続カード

デジタル携帯電話やPHSを使って、インターネットやパソコン通信をするときに必要なPCカードです。

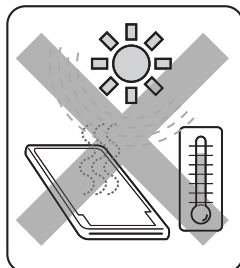
コラム

4

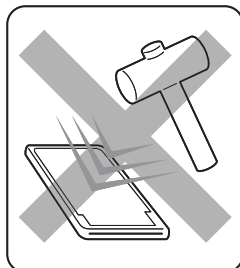
オプション機器を活用しよう！(PCカードをセットする)

## 気をつけてください～ PC カードを使うとき

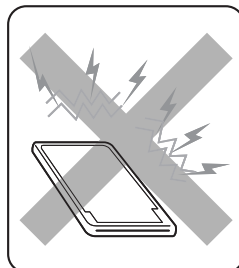
故障をふせぐため、PC カードを取り扱うときは、次の点に注意してください。



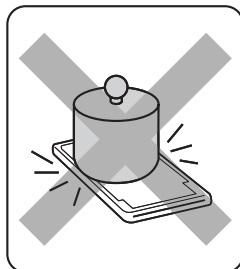
温度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。



強い衝撃を与えないでください。



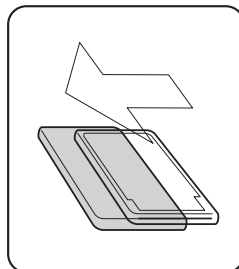
カードをこすったりして静電気を起こさないでください。



重い物をのせないでください。



コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。



保管する場合は、必ず専用のケースに入れてください。



## 用語

### PCMCIAとJEIDA

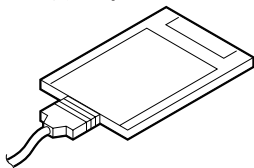
PCMCIAは、米国のPCカード標準化を推進する団体 Personal Computer Memory Card International Associationの略称です。JEIDAは、日本電子工業振興会 (Japan Electronic Industry Development Association)の略称です。PCMCIAとJEIDAは共同でPCカードの規格を制定しています。一般的には、これらの団体が制定した規格のことを「PCMCIA」、「JEIDA」といいます。

## 必要なものを用意する



PCカードは、弊社純正品をお使いください。  
純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

### PCカード

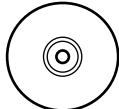


PCMCIAとJEIDAの規格に対応したTYPE ~ TYPEのPCカードが使えます。(TYPEは3.3mm、TYPEは5mm、TYPEは10.5mmの厚さです。) TYPEとTYPEのカードは、同時に2枚セットできます。TYPEのカードは1枚のみセットできます(他のPCカードとの同時使用はできません)。

### PCカードのドライバ フロッピーディスク

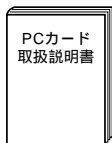


CD-ROM



PCカードによっては、CD-ROMやフロッピーディスクで添付されています。

### PCカードのマニュアル



PCカードにより設定方法が異なります。必ずPCカードのマニュアルもご覧ください。

## 4

オプション機器を活用しよう！(PCカードをセットする)

## PCカードをセットする



けが PCカードをセットするときは、PCカードスロットに指を入れしないでください。けがの原因となることがあります。



PCカードのセットは、Windows98のセットアップ終了後に行ってください

Windows98のセットアップを行う前にセットすると、セットアップが正常に行われな  
いおそれがあります。

### 通信関係のPCカードの同時使用について

通信関係のPCカード（LANカード、ISDNカード、モデム/FAXモデムカード、デジ  
タル携帯電話接続カード、通信カードなど）の中には、2枚同時に使えないものがあ  
ります。PCカードのマニュアルで確認してください。

### PCカードをセットするときの注意

PCカードによっては、セットするときに本パソコンの電源を切る必要のあるものがあ  
ります。PCカードのマニュアルをご覧ください。

### 初めてセットするPCカードの場合

PCカードに、フロッピーディスクやCD-ROMなどでドライバが添付されている場合は、  
ドライバのインストールが必要です。PCカードをセットする前に、FDDユニットやCD-  
ROMドライブユニットを接続してください。

「マルチベイのユニットを交換する」(←P.24)

「FDDユニットを取り付ける」(←P.26)

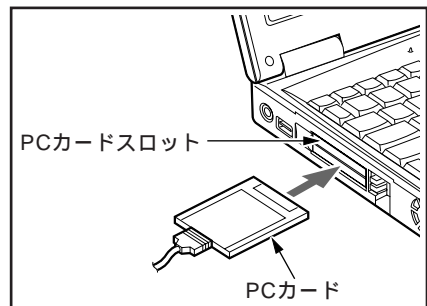
## アドバイス

画面やメッセージが  
表示されたとき

初めてセットするPCカ  
ードの場合には、自動的  
にドライバをインストール  
する画面が表示される  
ことがあります。そのま  
ま手順2まで操作して  
から、画面の指示に従  
って、ドライバをイン  
ストールしてください。

## 1 PCカードをPCカードス ロットにセットします。

製品名のある面を上  
にして、PC  
カードスロットへ差  
し込みます。



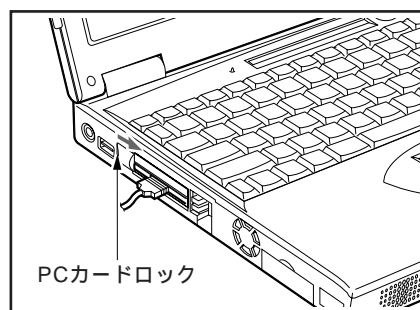
**重要****PC カードスロットについて**

スロットで使える PC カードの種類は、以下のとおりです。

スロット	使用可能な PC カード
スロット 2 (上段)	TYPE /
スロット 1 (下段)	TYPE / / 、ZV ポート対応 PC カード

別売のOSによっては、PCカードスロットのスロット1、スロット2をそれぞれスロット0、スロット1と読み替える場合があります。

## 2 PCカードロックを手前にスライドしてロックします。

**重要****PC カードのコネクタ部分についての注意**

PCカードとコードやケーブルを接続しているコネクタ部分に物をのせたり、ぶつけたりしないでください。破損の原因となります。

初めてセットするPCカードの場合は、ドライバのインストールという設定作業を行います。PCカードのマニュアルをご覧ください。画面の指示に従ってドライバをインストールしてください。



PCカードによっては、上記の画面は表示されず、自動的にドライバがインストールされることがあります。


## PCカードを取り出す


### 重要


#### PCカード取り出し時の注意

- ・必ず手順どおりにPCカードを取り出してください。手順どおりに行わないと、PCカードが壊れる原因となります。また、本パソコンが再起動したり、システムが停止することがあります。
- ・PCカードによっては、取り出すときに本パソコンの電源を切る必要のあるものがあります。PCカードのマニュアルをご覧ください。

### 注意

 **けが** PCカードを取り出すときは、PCカードスロットに指などを入れないでください。  
けがの原因となることがあります。

 **高温** 使用した直後のPCカードは、高温になっているときがあります。PCカードを取り出すときは、使用後しばらく待ってから取り出してください。  
火傷の原因となります。

**1** タスクバーの  (PCカード) をクリックします。

**2** 「××××××の中止」をクリックします。  
××××××には、お使いのPCカードの名称が入ります。

### 重要

必ず「XXXXXXの中止」をクリックしてください

「XXXXXXの中止」をクリックせずに、PCカードを取り外すと、PCカードが壊れる原因となります。また、本パソコンが再起動したり、システムが停止することがあります。

**3** 「OK」をクリックします。



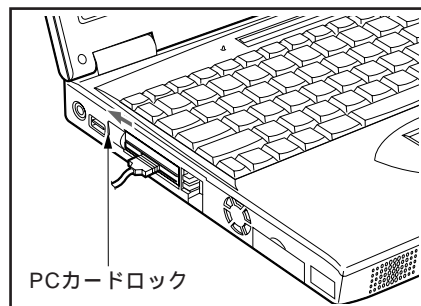
### アドバイス

「このデバイスは取りはずせません」というメッセージが表示されたとき

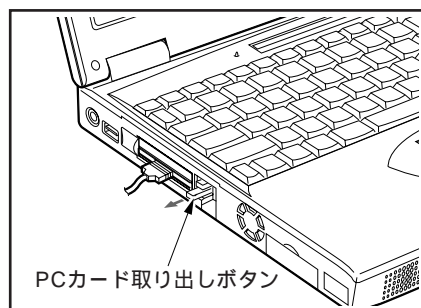
「OK」をクリックして、パソコン本体の電源を切ってから手順4へ進んでください。

「今日はおしまい。電源を切るには？」(P.47)

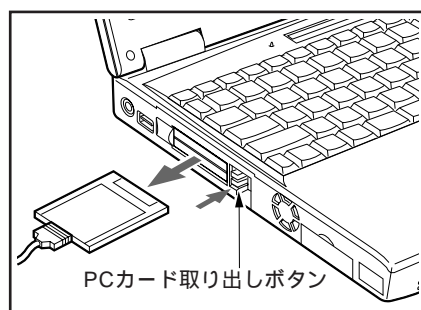
- 4** PCカードロックを奥にスライドさせて、ロックを外します。



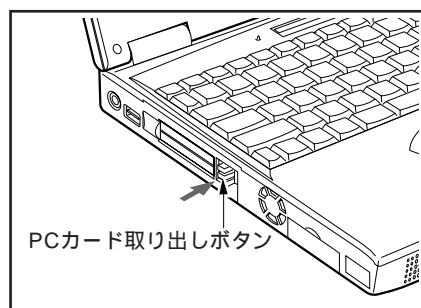
- 5** PCカード取り出しボタンを押します。  
PCカード取り出しボタンが飛び出します。



- 6** PCカードを取り出します。  
PCカード取り出しボタンを押し、飛び出したPCカードを引き抜きます。



- 7** PCカード取り出しボタンを押し込みます。



**重要**

コードやケーブルを引っ張らないでください

コード付きのPCカードや、ケーブルを接続しているPCカードを取り出すときは、コードやケーブルを引っ張らないでください。破損の原因となります。



# 7

## ピーエイチエス 携帯電話やPHSを接続する

携帯電話やPHSを接続すると、外出先でも自由にインターネットやパソコン通信ができます。

携帯電話は、パソコン本体左側面のPDCコネクタに接続します。PHSや、PDCコネクタに対応していない携帯電話は、接続用のPCカードを利用して接続してください。

ここでは、以下のことを説明します。

- ・PDCコネクタに接続する ←P.92
- ・PCカードを使って接続する ←P.94
- ・PDCコネクタに携帯電話を接続して通信する ←P.96

### PDCコネクタに接続する

携帯電話を本パソコンのPDCコネクタに接続し、通信することができます。

#### 必要なものを用意する

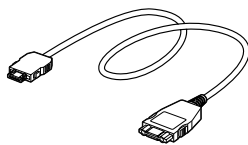
携帯電話



お使いになれる機種については、インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」(<http://www.fmworld.ne.jp/>)にてご案内します。

携帯電話接続ケーブル

FMV-NCBL92をお使いください。



## 携帯電話を接続する

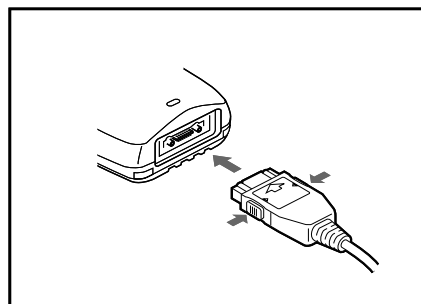


**故障** ケーブルは本書をよくお読みになり、正しく接続してください。  
誤った接続状態でお使いになると、パソコンおよび携帯電話が故障する原因となることがあります。

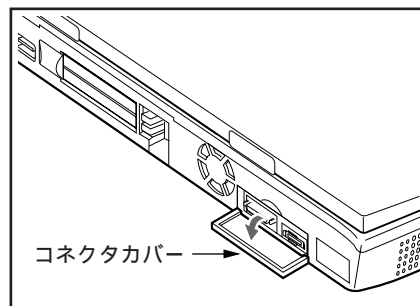
- 1** パソコン本体の電源を切ります。  
「今日はおしまい。電源を切るには？」(←P.47)

- 2** 携帯電話接続ケーブルの大きいほうのコネクタを、携帯電話に接続します。

コネクタの向きに注意して、カチッと止まるまで軽く押し込みます。

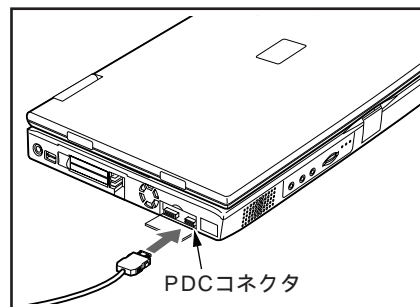


- 3** パソコン本体左側面のコネクタカバーを開きます。



- 4** 携帯電話接続ケーブルのもう一方のコネクタを、本パソコン左側面のPDCコネクタに接続します。

コネクタの向きに注意して、カチッと止まるまで軽く押し込みます。



このあと、接続した携帯電話で通信するための設定を行ってください。  
「PDCコネクタに携帯電話を接続して通信する」(←P.96)

4

オプション機器を活用しよう！(携帯電話やPDCを接続する)

## 重要

### 携帯電話を取り外すとき

- ・ 携帯電話接続ケーブルを取り外すときは、コネクタの両側にあるボタンを押しながら引き抜いてください。
- ・ フロッピーディスクを外付けで使用しているときは、PDCケーブルは取り外せません。

### PDC コネクタ経由で通信するときの注意

- ・ 本体内蔵モデムと同時に使用することはできません。
- ・ 通信中には、サスペンド機能や Save To Disk 機能は使えません。
- ・ 移動中は、電波の状況などにより通信が切断されることがあります。
- ・ PDC コネクタに接続した携帯電話どうしでの対向接続はできません。
- ・ AT コマンドは、電話回線で通信するためのドライバ ( Fujitsu LB RWModem V.90 56K J ) と仕様が異なります。
- ・ 「携帯電話接続ケーブル」は、Windows NT4.0 では使用できません。

## PC カードを使って接続する

### 必要なものを用意する



感電 PCカードは、弊社純正品をお使いください。  
純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

## 用語

PIAFS  
PIAFS (PIAFS Internet Access Forum Standard) の略で、PHS によるデジタルデータ通信の標準規格です。PHS のデジタル通信回線 ( 32kbps ) を利用して、非常に高速な通信が行えます。ただし、プロバイダやパソコン通信会社のアクセスポイントや端末も PIAFS に対応している必要があります。

## アドバイス

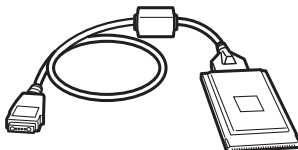
PIAFS に対応していない PHS を接続するとき

接続カードの代わりに、「モデムカード-2400」と「無線電話接続ケーブル」をお使いください。

### デジタル携帯電話または PIAFS 対応の PHS



### 接続カード



本パソコンとデジタル携帯電話または PHS を接続するための PC カードです。

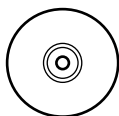
デジタル携帯電話には「デジタル携帯電話接続カード」を、PIAFS 対応の PHS には「PHS 接続カード」をお使いください。



### 接続カードのドライバ

フロッピーディスク

CD-ROM



接続カードによっては、フロッピーディスクやCD-ROMで添付されています。

### 接続カードのマニュアル



接続カードによって設定方法が異なります。必ず接続カードのマニュアルもご覧ください。

## 携帯電話やPHSを接続する



けが PCカードをセットするときは、PCカードスロットに指を入れないでください。けがの原因となることがあります。



携帯電話やPHSの接続は、Windows98のセットアップ終了後に行ってください

Windows98のセットアップを行う前に接続すると、セットアップが正常に行われずにおそれがあります。

### 初めて接続するとき

接続カードに、フロッピーディスクやCD-ROMなどでドライバが添付されている場合は、ドライバのインストールが必要です。接続カードをセットする前に、FDDユニットやCD-ROMドライブユニットを接続してください。

「マルチベイのユニットを交換する」(←P.24)

「FDDユニットを取り付ける」(←P.26)

- 1** 接続カードに添付のケーブルで、携帯電話やPHSを接続します。携帯電話またはPHS、接続カードのマニュアルも、あわせてご覧ください。
- 2** 接続カードを本パソコンのPCカードスロットにセットします。  
「PCカードをセットする」(←P.88)

接続した携帯電話やPHSで通信を行うには、接続カードや通信ソフトウェアの再設定が必要です。設定方法については、接続カードのマニュアルをご覧ください。


## PDC コネクタに携帯電話を接続して通信する

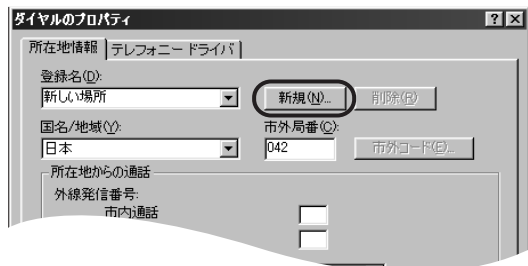
PDC コネクタに携帯電話を接続して通信するには、次のような手順で行います。

1. 携帯電話用の所在地情報を作る (←P.96)
2. 外出先用のダイヤルアップ接続を作る (←P.97)
3. 外出先で通信する (←P.99)

### 携帯電話用の所在地情報を作る

通信するときは、パソコンを使う地域の市外局番を登録しておきます。携帯電話で通信するときは、携帯電話用の所在地情報を登録する必要があります。ここでは、登録方法を説明します。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (テレフォニー) をクリックします。
- 3 「新規」をクリックします。



「新しい場所が作成されました。」というメッセージが表示されます。

- 4 「OK」をクリックします。

## 5 携帯電話用の所在地情報を設定します。

「携帯用」など、携帯電話用であることがわかるような名前を入力します。

「000」のように普段使わない番号を入力します。

どちらも入力されていない状態になります。



## 6 「OK」をクリックします。

## 7 「コントロールパネル」ウィンドウの右上にある **×** (閉じるボタン) をクリックします。

これで、携帯電話で通信するときを使う所在地情報が作成されました。

### 外出先用のダイヤルアップ接続を作る

通信をするときには、現在の場所からアクセスポイントまでの電話料金がかかります。外出先で通信をするときには、できるだけ外出先に近いアクセスポイントを指定したダイヤルアップ接続を作っておくことで、電話料金を節約できます。ここでは、InfoWeb に加入していることを前提に説明しています。

#### アドバイス

##### 他のプロバイダをご利用の場合

インターネット接続ウィザードでダイヤルアップ接続を作成してください。




☞ 『使いこなす本 インターネット編』

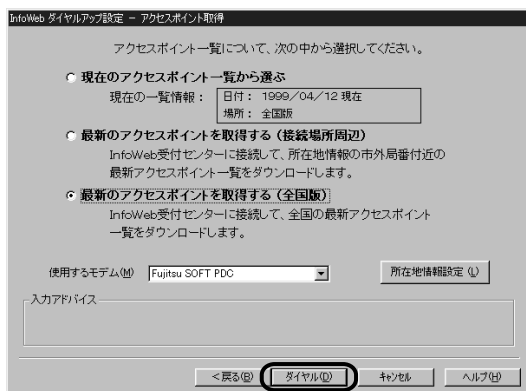
その後、次の手順に従って、使用するモデムを「Fujitsu SOFT PDC」に変更します。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「アクセサリ」、「通信」の順にマウスポインタを合わせ、「ダイヤルアップネットワーク」をクリックします。
- 2 外出先用に作成したダイヤルアップ接続にマウスポインタを合わせ、右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 3 「全般」タブの「接続の方法」を「Fujitsu SOFT PDC」に変更し、「OK」をクリックします。

## 1 PDC コネクタに携帯電話を接続します。

「PDC コネクタに接続する」(☞P.92)

- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」,「はじめよう!インターネット(InfoWeb)」の順にマウスポインタを合わせ、「ダイヤルアップ設定」をクリックします。
- 3 「InfoWebのアクセスポイントを変更する」の左がになっているのを確認し、「次へ」をクリックします。
- 4 「コネクションID」を確認し、「次へ」をクリックします。
- 5 「最新のアクセスポイントを取得する(全国版)」の左をクリックしにします。
- 6 「使用するモデム」の右のをクリックし、「Fujitsu SOFT PDC」をクリックします。
- 7 「ダイヤル」をクリックします。



InfoWeb加入受付センターに電話がかかり、全国のアクセスポイントの一覧がダウンロードされます。

## 8 「接続名」を入力して、接続したいアクセスポイントをクリックし、「設定」をクリックします。

アクセスポイントの場所がわかるような名前にします。

外出先に一番近いアクセスポイントをクリックします。



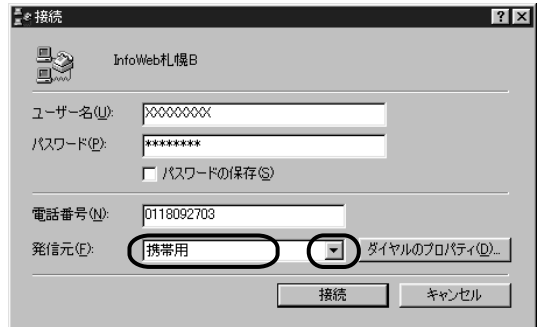
## 9 「OK」をクリックします。

これで、携帯電話を使って通信するためのダイヤルアップ接続が作成されました。

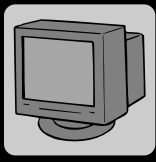
### 外出先で通信する

- 1 PDC コネクタに携帯電話を接続します。  
「PDC コネクタに接続する」(←P.92)
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「アクセサリ」、「通信」の順にマウスポインタを合わせ、「ダイヤルアップネットワーク」をクリックします。
- 3 外出先用に作成した「ダイヤルアップ接続」をクリックします。
- 4 「パスワード」の右の欄にパスワードを入力します。

- 5** 「発信元」の右の▼をクリックし、携帯電話用に作成した所在地をクリックします。



- 6** 「接続」をクリックします。
- 7** お使いになる通信用のアプリケーションを起動します。



# 8

オプション機器を活用しよう！

## シーアールティー CRT ディスプレイを接続する

CRTディスプレイを接続すると、液晶ディスプレイよりも高解像度で表示することができます。

ここでは以下のことを説明します。

- ・必要なものを用意する ←P.101
- ・CRTディスプレイを接続する ←P.102
- ・ディスプレイの表示を切り替える ←P.103  
表示するディスプレイを切り替える方法を説明しています。
- ・CRTディスプレイの解像度と発色数について ←P.106

CRTディスプレイの解像度と発色数を変更する方法などを説明しています。必要に応じてお読みください。

4

### 必要なものを用意する



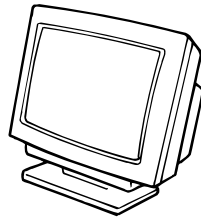
警告



感電

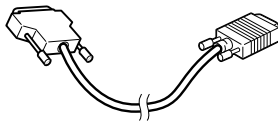
CRTディスプレイは、弊社純正品をお使いください。純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

#### CRTディスプレイ



「PC/AT互換機」または「DOS/Vパソコン」対応のものを用意してください。

#### ディスプレイケーブル



CRTディスプレイを接続するためのケーブルです。CRTディスプレイの背面につながっていたり添付されています。添付されていない場合や、コネクタの形状が異なって接続できない場合は、「PC/AT互換機用」または「DOS/V用」と表示されたもので、CRTディスプレイのコネクタの形状にあったものを用意してください。

#### CRTディスプレイの マニュアル



CRTディスプレイにより接続方法が異なります。必ずCRTディスプレイのマニュアルもご覧ください。

オプション機器を活用しよう！（CRTディスプレイを接続する）

## CRTディスプレイを接続する



**感電** CRTディスプレイを接続するときは、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。感電の原因となります。



**故障** ケーブル類は、間違えないように接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体およびCRTディスプレイが故障する原因となることがあります。

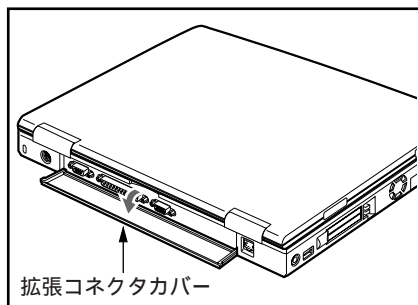


CRTディスプレイの接続は、Windows98のセットアップ終了後に行ってください。Windows98のセットアップを行う前に接続すると、セットアップが正常に行われずおそれがあります。

CRTディスプレイのマニュアルもご覧ください

接続方法は、CRTディスプレイによって異なります。CRTディスプレイのマニュアルもあわせてご覧ください。

- 1** パソコン本体の電源を切ります。  
「今日はおしまい。電源を切るには？」(←P.47)
- 2** オプション機器の電源を切り、取り外します。
- 3** ACアダプタを取り外します。  
「ACアダプタを取り外す」(←P.51)
- 4** パソコン本体背面の拡張コネクタカバーを開きます。

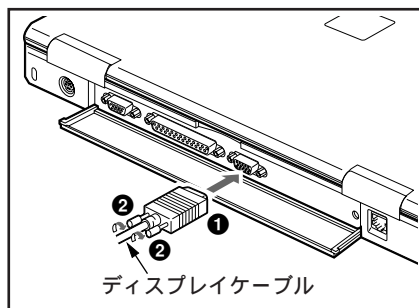




## 5 パソコン本体背面のCRTコネクタに、ディスプレイケーブルを接続します。

コネクタは、正面から見ると台形になっています。

- ① コネクタの形を互いに合わせ、しっかりと差し込んでください。
- ② ディスプレイケーブルの左右のネジをしめて固定してください。



## 6 CRTディスプレイにディスプレイケーブルを接続します。

CRTディスプレイ背面にディスプレイケーブルがつながっている場合もあります。

接続方法は、CRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。

## 7 CRTディスプレイに電源ケーブルを接続します。

CRTディスプレイに電源ケーブルがつながっている場合もあります。CRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。

## 8 CRTディスプレイの電源ケーブルを、コンセントに接続します。

続いて、表示するディスプレイを切り替えます。

「ディスプレイの表示を切り替える」(←P.103)

## ディスプレイの表示を切り替える

ここでは、接続したCRTディスプレイとパソコン本体の液晶ディスプレイで、表示を切り替える方法を説明します。

ディスプレイの表示は、次のように切り替えることができます。

- ・パソコン本体の液晶ディスプレイで表示する
- ・接続したCRTディスプレイで表示する
- ・パソコン本体の液晶ディスプレイと接続したCRTディスプレイで同時に表示する

### 1 ACアダプタを取り付けます。

「ACアダプタを取り付ける」(←P.50)

### 2 CRTディスプレイの電源を入れます。

CRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。

## アドバイス

「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されたとき

画面の指示に従ってCRTディスプレイのドライバをインストールしてください。

### 3 パソコン本体の電源を入れます。

「電源を入れてパソコンを使おう」(P.46)

### 4 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

### 5 (画面) をクリックします。

### 6 「設定」タブをクリックします。

### 7 「詳細」をクリックします。

### 8 「画面」タブをクリックします。

### 9 表示するディスプレイの をクリックし にします。

- ・CRTディスプレイで表示するときは「モニタ」を  にし、LCD パネルを  にします。
- ・液晶ディスプレイで表示するときは「LCD パネル」を  にし、「モニタ」を  にします。
- ・液晶ディスプレイとCRTディスプレイで同時に表示するときは「モニタ」と「LCD パネル」の両方を  にします。



### 10 「OK」をクリックします。

「表示デバイスを変更します。」というメッセージが表示されます。

### 11 「OK」をクリックします。

ディスプレイの表示が切り替わり、「表示デバイスが変更されました。」というメッセージが表示されます。





## アドバイス

「はい」をクリックしない

手順12で「はい」をクリックしないでしばらくすると、元の画面表示に戻ります。「Windowsがディスプレイ設定を元に戻しました。」というウィンドウで「OK」をクリックして、手順7からやり直してください。

## アドバイス

キー操作で表示を切り替える

 を押しながら  を押して、ディスプレイ表示を切り替えることもできます。キーを押すごとに、「CRTディスプレイ表示 液晶ディスプレイとCRTディスプレイの同時表示 液晶ディスプレイ表示 CRTディスプレイ表示...」の順で表示が切り替わります。ただし、CRTディスプレイで表示しているとき、解像度が1280×1024ドット以上で設定されている場合は、 を押しながら  を押しても表示を切り替えることはできません。

再起動後もCRTディスプレイに表示したいとき

「画面のプロパティ」ウィンドウでディスプレイ表示を切り替えても、Windows98を再起動すると、液晶ディスプレイに表示されることがあります。再起動後もCRTディスプレイに表示したいときには、キー操作で表示を切り替えるか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「画面設定」の「ディスプレイ」(P.126)で「CRTディスプレイ」または「同時表示」を選択してください。

**12** 「はい」をクリックします。



**13** 「画面のプロパティ」ウィンドウの「OK」をクリックします。

## 重要

### CRTディスプレイ表示に切り替えたとき


CRTディスプレイによって対応している解像度や走査周波数が異なるため、何も表示されなかったり、正常に表示されないことがあります。その場合は次の操作を行ってください。

・何も表示されないとき

何も操作しないでお待ちください。10秒ぐらい待つと、表示先が液晶ディスプレイに戻ります。表示先が液晶ディスプレイに戻らないときは、 を押しながら  を押して、表示先を切り替えてください。

・正常に表示されないとき

CRTディスプレイのマニュアルで、CRTディスプレイが対応している走査周波数を確認し、以下の方法で設定してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (画面) をクリックします。
- 3 「設定」タブをクリックします。
- 4 「詳細」をクリックします。
- 5 「アダプタ」の「リフレッシュレート」をCRTディスプレイでサポートする走査周波数に設定し、「OK」をクリックします。  
ウィンドウが表示された時は、「はい」または「OK」をクリックします。

4

オプション機器を活用しよう！(CRTディスプレイを接続する)

## CRTディスプレイの解像度と発色数について

CRTディスプレイを接続すると、本パソコンの液晶ディスプレイよりも高解像度で表示することができます。

ここでは、CRTディスプレイで表示できる解像度と発色数、および変更方法について説明します。

### CRTディスプレイで表示できる解像度と発色数

ディスプレイの解像度と発色数は次の表のとおりです。以下の解像度や発色数以外には、設定しないでください。

解像度	発色数	
	液晶ディスプレイと CRTディスプレイで同時表示	CRTディスプレイで表示
640 × 480 ドット	256色 1	256色
	High Color (16ビット) 1	High Color (16ビット)
	True Color (32ビット) 1 2	True Color (32ビット)
800 × 600 ドット	256色 1	256色
	High Color (16ビット) 1	High Color (16ビット)
	True Color (32ビット) 1 2	True Color (32ビット)
1024 × 768 ドット	256色	256色
	High Color (16ビット)	High Color (16ビット)
	True Color (32ビット) 2	True Color (32ビット)
1280 × 1024 ドット 3	表示不可	256色 High Color (16ビット)
1600 × 1200 ドット	表示不可	256色 High Color (16ビット)

- 1 640 × 480 ドットまたは800 × 600 ドットの領域がディスプレイ中央に表示されます。
- 2 液晶ディスプレイの表示では、ディザリング機能(擬似的に色を表示する機能)によって、True Color (32ビット)で表示されます。
- 3 CRTディスプレイによっては、1280 × 1024 ドット以上の解像度を表示できないことがあります。

### 重要

#### 表示できる解像度について

表示できる解像度はお使いのCRTディスプレイによって異なります。CRTディスプレイのマニュアルでご確認ください。

### アドバイス

液晶ディスプレイと液晶プロジェクタで同時に表示するとき

1024 × 768 ドットの解像度が表示可能な液晶プロジェクタが必要となります。

High Color、True Colorの発色数




High Color(16ビット)は6万5千色、True Color(32ビット)は1677万色です。

## CRT ディスプレイの解像度と発色数を変更する

「ディスプレイの表示を切り替える」の手順1～12(☞P.103)をご覧になりCRT ディスプレイ表示に切り替え、「液晶ディスプレイの解像度と発色数を変更する」(☞P.41)をご覧になり解像度と発色数を変えてください。

### アドバイス

#### 解像度を 1280 × 1024 ドット以上に設定する場合

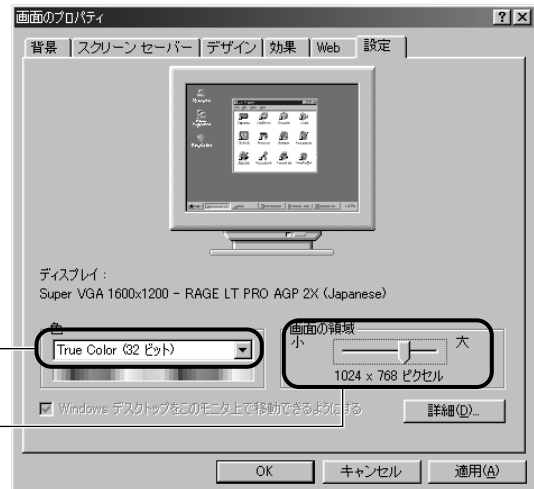
- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。  
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2  (画面) をクリックします。
- 3 「設定」タブをクリックします。
- 4 「詳細」をクリックします。
- 5 「モニタ」タブをクリックします。
- 6 「変更」をクリックします。
- 7 「次へ」をクリックします。
- 8 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を.....」をクリックして  にし、「次へ」をクリックします。
- 9 「すべてのハードウェアを表示」をクリックして  にします。
- 10 製造元とモデルを以下のように選びます。  
製造元：「(標準モニタの種類)」  
モデル：「Super VGA 1600 × 1200」  
(CRT ディスプレイが表示できる解像度を選んでください)
- 11 「次へ」をクリックします。  
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」というウィンドウが表示されます。
- 12 「次へ」をクリックします。  
「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」というウィンドウが表示されます。
- 13 「完了」をクリックします。
- 14 「閉じる」をクリックします。  
「リフレッシュレート」ウィンドウが表示されたときは「OK」をクリックします。続いて表示される画面では「はい」または「OK」をクリックします。

## アドバイス

- 15 発色数や解像度を変更します。

発色数の変更 ▾ をクリックして  
発色数を選びます。

解像度の変更 ⇨ をドラッグします。




- 16 「OK」をクリックします。  
ウィンドウが表示されます。ウィンドウが表示されないときは、自動的に設定が変更されます。

- 17 「OK」または「はい」をクリックします。  
ウィンドウが表示されるたびに、「OK」または「はい」をクリックしてください。  
画面の設定が変更されます。  
変更した解像度、発色数の設定によっては、画面の表示される位置、幅、高さの調節が必要になる場合があります。調節のしかたについては、CRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。

## アドバイス

「互換性の警告」ウィンドウが表示されたとき

「新しい色の設定でコンピュータを再起動する」をクリックして  にし、「OK」をクリックしてください。



# 9

オプション機器を活用しよう！

## ディーバイディー ROM 内蔵 DVD-ROM ドライブユニットを取り付ける

### 用語 DVD

DVDは、映像や音声を記録したコンパクトディスクの総称です。レーザー光を利用して、CD-ROMと同じサイズのディスクに、大容量（片面一層 4.7GB）のデータを記録することができます。

内蔵 DVD-ROM ドライブユニットを取り付けると、DVD-ROM や CD-ROM などの映像や音声を再生できます。

ここでは以下のことを説明します。

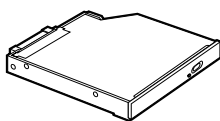
- ・必要なものを用意する ←P.109
- ・内蔵 DVD-ROM ドライブユニットを取り付ける ←P.110

### 必要なものを用意する



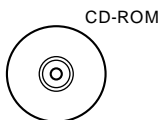
感電  
内蔵 DVD-ROM ドライブユニットは、弊社純正品をお使いください。純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

内蔵 DVD-ROM  
ドライブユニット



内蔵 DVD-ROM ドライブユニット (FMV-NDVD2) はマルチベイに取り付けることができます。

DVD-ROM  
再生用アプリケーション



内蔵 DVD-ROM ドライブユニットに CD-ROM で添付されています。

内蔵 DVD-ROM ドライブ  
ユニットの取扱説明書



必ず内蔵 DVD-ROM ドライブユニットの取扱説明書もご覧ください。

# 4

オプション機器を活用しよう！(内蔵 DVD-ROM ドライブユニットを取り付ける)

## 内蔵 DVD-ROM ドライブユニットを取り付ける



**感電** 内蔵DVD-ROMドライブユニットの取り付けや取り外しを行うときは、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。  
感電の原因となります。



**取り付けは、Windows98 のセットアップ終了後に行ってください**

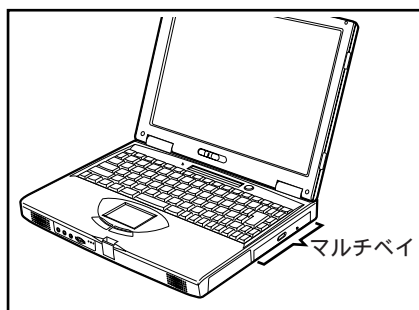
Windows98 のセットアップを行う前に取り付けると、セットアップが正常に行われな  
いおそれがあります。

### 内蔵 DVD-ROM ドライブユニット取り扱い上の注意

- ・内蔵 DVD-ROM ドライブユニットをお使いになる前に、取り扱い上の注意をご覧ください。  
「気をつけてください～ユニットを使うとき」(←P.22)
- ・内蔵 DVD-ROM ドライブユニットは、Windows98 以外の OS ではお使いになれません。

## 1 内蔵 DVD-ROM ドライブユニットをマルチベイに取り付けます。

「マルチベイのユニットを交換する」(←P.24)



初めて取り付けるときは、アプリケーションのインストールを行います。

← 『内蔵 DVD-ROM ドライブユニット (FMV-NDVD2) 取扱説明書』

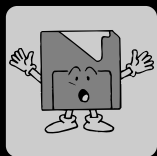
## アドバイス

内蔵 DVD-ROM ドライブユニットを取り外すとき

「マルチベイのユニットを交換する」(←P.24)

もう一度取り付けるときは、DVD-ROM 再生用アプリケーションを、インストールする必要はありません。





# 10

オプション機器を活用しよう！

## 内蔵スーパーディスクドライブユニットを取り付ける

内蔵スーパーディスクドライブユニットを取り付けると、フロッピーディスクと、より多くのデータ（120MB）を保存できるスーパーディスクを使えます。

ここでは以下のことを説明します。

- ・必要なものを用意する ←P.111
- ・内蔵スーパーディスクドライブユニットを取り付ける ←P.112

### 必要なものを用意する



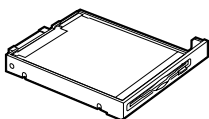
警告



感電

内蔵スーパーディスクドライブユニットは、弊社純正品をお使いください。純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

内蔵スーパーディスク  
ドライブユニット



内蔵スーパーディスクドライブユニット（FMV-NSD12）はマルチベイに取り付けることができます。

内蔵スーパーディスクドライブ  
ユニットの取扱説明書



必ず内蔵スーパーディスクドライブユニットの取扱説明書もご覧ください。

# 4

オプション機器を活用しよう！（内蔵スーパーディスクドライブユニットを取り付ける）

## 内蔵スーパーディスクドライブユニットを取り付ける



**感電** 内蔵スーパーディスクドライブユニットの取り付けや取り外しを行うときは、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。感電の原因となります。



**取り付けは、Windows98のセットアップ終了後に行ってください**

Windows98のセットアップを行う前に取り付けると、セットアップが正常に行われな  
いおそれがあります。

**内蔵スーパーディスクドライブユニット取り扱い上の注意**

内蔵スーパーディスクドライブユニットをお使いになる前に、取り扱い上の注意をご覧くだ  
さい。

「気をつけてください～ユニットを使うとき」(←P.22)

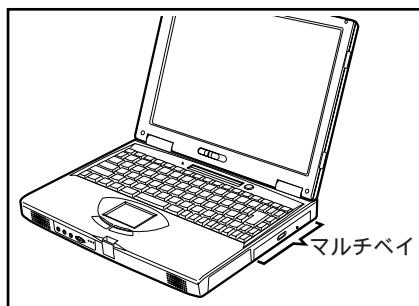
### **アドバイス**

内蔵スーパーディス  
クドライブユニット  
を取り外すとき

「マルチベイのユニットを  
交換する」(←P.24)

### **1** 内蔵スーパーディスクドライブ ユニットをマルチベイに取り付 けます。

「マルチベイのユニットを交換す  
る」(←P.24)



**内蔵スーパーディスクドライブユニットからは起動できません**

内蔵スーパーディスクドライブユニットはBドライブになります。内蔵スーパーディス  
クドライブユニットから起動したり、Aドライブにするときは、内蔵スーパーディス  
クドライブユニットのマニュアルをご覧ください。

←『内蔵スーパーディスクドライブユニット (FMV-NSD12) 取扱説明書』

## その他のオプション機器を使う

ここでは本パソコンに接続できるその他のオプション機器の一例として「ハードディスク」と「MO（光磁気ディスク）ドライブ」をご紹介します。

- ・ハードディスクを使う ⇨ P.113
- ・MO（光磁気ディスク）ドライブを使う ⇨ P.114

## ハードディスクを使う

本パソコンには、SCSI規格の外付けハードディスクを増設することができます。外付けハードディスクを増設すると、より多くのデータを保存できるようになります。

外付けハードディスクを増設するには、次のものが必要です。

## 外付けハードディスク

## SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗（ターミネータ）

SCSI規格対応の機器を使うために必要なものです。SCSI規格のコネクタは数種類あります。対応するケーブルと終端抵抗も異なりますので、よくご確認ください。終端抵抗（ターミネータ）は、外付けハードディスクに内蔵されている場合もあります。

## 外付けハードディスクとSCSIカードのマニュアル

外付けハードディスクやSCSIカードによっては、接続方法や設定方法が異なる場合があります。

マニュアルを用意してください。



## 用語

## SCSI

オプション機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI規格のオプション機器には、ハードディスクの他に、スキャナやMO（光磁気ディスク）ドライブなどがあります。



## アドバイス

ハードディスクを増設するには

SCSIカードを本パソコンにセットします。「PCカードをセットする」(⇨P.88)

外付けハードディスクの接続や設定のしかたについては、ハードディスクとSCSIカードのマニュアルをご覧ください。



オプション機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI規格のオプション機器には、MO(光磁気ディスク)ドライブの他に、スキャナやハードディスクなどがあります。



MOドライブを使うには

SCSIカードを本パソコンにセットします。「PCカードをセットする」(P.88)

MOドライブの接続や設定のしかたについては、MOドライブとSCSIカードのマニュアルをご覧ください。

エムオー

## MO(光磁気ディスク)ドライブを使う

MO(光磁気ディスク)ドライブとは、レーザーと磁気で光磁気ディスクにデータを書き込み、レーザーで読み出しを行う記憶媒体です。MOは、フロッピーディスクと比べて、大量のデータを保存できます。

MOドライブを使うには、次のものがが必要です。

### MO(光磁気ディスク)ドライブ

本パソコンには、SCSI規格の外付けのMOドライブを取り付けられます。

### SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗(ターミネータ)

SCSI規格対応の機器を使うために必要なものです。SCSI規格のコネクタは数種類あります。対応するケーブルと終端抵抗も異なりますので、よくご確認ください。終端抵抗(ターミネータ)は、MOドライブに内蔵されている場合もあります。

### MO(光磁気ディスク)

128MB、230MB、540MB、640MBの容量のものが市販されています。お使いになる前にフォーマットする必要があります。

お使いになるMOドライブによって、対応している容量が異なります。お使いになるMOドライブが対応している容量のMOをお買い求めください。

## 第 5 章

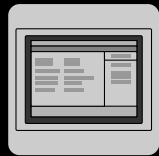
# BIOS セットアップ

本章では、「BIOS セットアップ」を使って、ハードウェアの設定を変更する方法について説明しています。

本パソコンのハードウェアは、あらかじめ使いやすいうように適切に設定されています。通常お使いになる範囲では、変更する必要はありません。必要な場合のみご覧ください。

本章には、ある程度パソコンについての知識を必要とする記述があります。

1. BIOS セットアップとは ..... 116
2. BIOS セットアップの操作のしかた ..... 117
3. ご購入時の設定に戻す ..... 122
4. BIOS セットアップのメニュー詳細 ..... 123
5. BIOS のパスワード機能を使う ..... 132
6. BIOS が表示するメッセージ一覧 ..... 137



## 1

# BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、パソコンのハードウェア環境を設定するためのプログラムです。本パソコンをご購入になったときは、すでに最適なハードウェア環境が設定されています。通常お使いになる範囲では、これらの設定を変更する必要はありません。

BIOS とは、「Basic Input/Output System」の略で、ハードウェア環境の設定や OS の起動、基本的な入出力機能の制御などを行うためのプログラムです。BIOS セットアップは、BIOS の機能についての各種の設定値を変更するためのプログラムです。BIOS セットアップの設定値を変更することによって、パソコン本体と周辺機器の機能や動作モードを、変更することができます。

通常は、以下の場合などに BIOS セットアップを利用します。

- ・ 特定の人だけが本パソコンを使えるように、パスワード（暗証番号）を設定したいとき
- ・ 起動時の自己診断テストで、BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

## 重要

### BIOS セットアップの設定は、正確に行ってください

設定を間違えると、本パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなることがあります。

このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定値に戻して、本パソコンを起動し直してください。

「BIOS セットアップの操作のしかた」(←P.117)

「ご購入時の設定に戻す」(←P.122)

## アドバイス

### BIOS セットアップの設定値の保存先

BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM (シーモス ラム) と呼ばれるメモリに記憶されます。CMOS RAM に記憶された内容は、パソコン本体の電源を切ったあと、バックアップ用バッテリーによって保持されます。

### 起動時の自己診断テスト中に電源を切ると

本パソコンは、自己診断テスト中の異常終了の回数を数えており、3 回続いた場合は、4 回目の起動時に「前回の起動が正常に完了しませんでした。」というメッセージを表示します。

「メッセージ一覧」の 28 (←P.140)

## 用語

### 起動時の自己診断テスト (POST)

本パソコンの電源を入れたときや再起動したとき、ハードウェアの動作に異常がないかどうか、どのような周辺機器が接続されているかなどを、自動的に調べます。これを「起動時の自己診断テスト」(POST: Power On Self Test) といいます。

# BIOS セットアップの操作のしかた

BIOS セットアップの設定を変更するには、BIOS セットアップを起動して、設定値を変更し、設定内容を CMOS RAM に保存して終了します。

ここでは以下のことを説明します。

- ・ BIOS セットアップを起動する ←P.117
- ・ 設定を変更する ←P.118
- ・ 変更内容を取り消す ←P.120
- ・ BIOS セットアップを終了する ←P.121






## 重要

BIOS セットアップでは、すべての操作をキーボードで行います  
フラットポイントやマウスは使えません。

## BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップは、本パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、起動することができます。

- 1** それまで行っていた作業を終了します。  
必要に応じて、作業中のデータを保存してください。
- 2** 状態表示 LCD に  や  が表示されていないことを確認します。
- 3** 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。  
「Windows の終了」ウィンドウが表示されます。
- 4** 「再起動する」をクリックして  にし、「OK」をクリックします。

## アドバイス

Windows 98 の画面が表示されたとき

Windows 98 の起動が完了するのを待って、もう一度手順 2 からやり直してください。

起動時の自己診断画面を表示するには

手順 5 で、**F2** の代わりに **Esc** を押します。

自己診断テストが完了すると「起動時のメニュー」という画面が表示されるので、そのまま起動を続けたい場合には **Esc** を押してください。

「起動時のメニュー」という画面が表示されているとき

この画面は、起動時の自己診断テスト中に **Esc** を押すと、表示されます。

**Enter** を数回押して「<BIOS セットアップを起動>」を選択し、**Enter** を押すと、BIOS セットアップを起動できます。

項目名に「」が付いているとき

この項目にはサブメニューがあります。項目名にカーソルを移動して **Enter** を押すと、サブメニューの画面が表示されます。

元のメニュー画面に戻るには **Esc** を押します。

設定内容を、変更前の値に戻すには

「変更内容を取り消す」(P.120)

設定内容をご購入時の設定値に戻すには

「ご購入時の設定に戻す」(P.122)

## 5 「FUJITSU」のロゴマークが表示され、画面の下に「<ESC>キーを押すと自己診断画面、<F2>キーを押すとBIOS セットアップを起動します。」と表示されている間に、**F2** を押します。

BIOS セットアップが起動し、BIOS セットアップの「メイン」メニューが表示されます。

The screenshot shows the Phoenix BIOS Setup Utility Main menu. The title bar reads "PhoenixBIOSセットアップユーティリティ". The menu has tabs for "メイン", "詳細", "セキュリティ", "省電力", "起動", "情報", and "終了". The main area lists system information: System Time (12:34:56), System Date (1999/XX/XX), Floppy Disk (1.44/1.2 MB 3.5"), Primary/Secondary Master (XXXXXXX XXXXXX), System Memory (640 KB), Expanded Memory (XX MB), Memory Cache, and Language (日本語 (JP)). A "項目ヘルプ" (Item Help) window is open on the right, showing instructions: "現在の時刻を設定します。<Tab>キー、<Shift-Tab>キー、<Enter>キーで項目を選択します。". Annotations include: "メニューバー" (Menu Bar) pointing to the title bar; "項目ヘルプフィールド" (Item Help Field) pointing to the help window; "メニューの名称が表示されます。" (Menu name is displayed.) pointing to the menu items; "カーソルを合わせた項目の設定値が表示されます。" (Setting value of the selected item is displayed.) pointing to the system time field; "設定フィールド" (Setting Field) pointing to the system time field; "キー一覧" (Key List) pointing to the key instructions in the help window.

続いて、「設定を変更する」をご覧ください。

## 設定を変更する

BIOS セットアップでは、すべての操作をキーボードを使って行います。ここでは、一般的な操作方法を説明します。

**1**  または  でカーソルを移動し、設定したいメニューを選びます。

選択したメニュー画面が表示されます。

**2**  または  でカーソルを移動し、設定したい項目を選びます。

**3**  または  を押して、選択している項目の設定値を変更します。続けて他の設定項目を変更するときは、手順 1 ~ 3 を繰り返してください。

**4** 設定を保存して終了します。

「BIOS セットアップを終了する」(P.121)



## 設定時に使用するキー一覧

**F1**

「一般ヘルプ」画面が表示され、BIOSセットアップの操作で使用するキーについての説明を見ることができます。次のページを見るときは **Page Down** を、前のページに戻るときは **Page Up** を押します。「一般ヘルプ」画面を閉じるには **Enter** を押します。

**Left Arrow** / **Right Arrow**

設定する項目にカーソルを移動します。

**Up Arrow** / **Down Arrow**

メニューを切り替えます。

**Enter**

「**Enter**」が付いている項目で押すと、サブメニューが表示されるか、その項目の処理が行われます。

設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。

**Del** / **F10**

設定値を変更します。

**F9**

すべての設定値を、本パソコンの標準設定値（ご購入時の設定）に戻します。

**F10**

設定した内容を CMOS RAM に保存して、BIOS セットアップを終了します。

**Esc**

「終了」メニューを表示します。

サブメニューが表示されているときは、1 つ前のメニュー画面に戻ります。

## 変更内容を取り消す

設定した内容を取り消すには、CMOS RAMに保存してある変更前の設定値を読み込みます。

- 1 **Esc** を押します。  
「終了」メニューが表示されます。

- 2  または  を押して「変更前の値を読み込む」を選択し、**Enter** を押します。  
次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認
変更前の値を読み込みますか？
<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

- 3  または  で「はい」を選択し、**Enter** を押します。  
BIOSセットアップのすべての設定項目に変更前の値が読み込まれ、すべての変更が取り消されます。

### アドバイス

サブメニューを表示しているとき

「終了」メニューが表示されるまで、**Esc** を2～3回押してください。

### アドバイス

すべての変更を取り消してBIOSセットアップを終了するには

設定した内容を保存せずに、BIOSセットアップを終了します。

- 1 **Esc** を押して、「終了」メニューを表示します。  
サブメニューを表示しているときは、**Esc** を2～3回押してください。
- 2  または  を押して「変更を保存せずに終了する」を選択し、**Esc** を押します。  
設定値を変更していないときは、これでBIOSセットアップが終了します。  
設定値を変更しているときは、「設定が変更されています！変更した内容を保存して終了しますか？」というメッセージが表示されます。
- 3  または  で「いいえ」を選択し、**Enter** を押します。  
すべての変更が取り消されて、BIOSセットアップが終了します。

## BIOS セットアップを終了する

変更した設定を有効にするためには、設定内容を CMOS RAM に保存しておく必要があります。以下の操作を行って、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

### アドバイス

サブメニューを表示しているとき

「終了」メニューが表示されるまで、**[Esc]** を 2 ~ 3 回押ししてください。

### アドバイス

BIOS セットアップを終了せずに設定を保存するには

いったん設定内容を保存したあと、続けて他の項目を設定できます。

- 1 「終了」メニューの「変更を保存する」を選択し、**[Enter]** を押しします。  
「変更した内容を保存しますか？」というメッセージが表示されます。
- 2  または  で「はい」を選択し、**[Enter]** を押しします。  
設定を変更しないで終了するには「終了」メニューで「変更を保存せずに終了する」を選択して終了してください。  
「変更内容を取消す」(←P.120)

### 1 **[Esc]** を押しします。

「終了」メニューが表示されます。

### 2 または を押して「変更を保存して終了する」を選択し、**[Enter]** を押しします。

次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認	
変更した内容を保存して終了しますか？	
<b>[はい]</b>	<b>[いいえ]</b>

### 3 または で「はい」を選択し、**[Enter]** を押しします。

すべての設定値が保存されたあと、BIOS セットアップが終了し、本パソコンが再起動します。

## 3

## ご購入時の設定に戻す

設定内容をご購入時の状態に戻すには、「標準設定値」を読み込み、読み込んだ設定値を CMOS RAM に保存します。

すでに BIOS セットアップを起動しているときは、手順 2 から始めてください。

### 1 BIOS セットアップを起動します。

「BIOS セットアップを起動する」(←P.117)

### 2 **[Esc]** を押します。

「終了」メニューが表示されます。

### 3 または を押して「標準設定値を読み込む」を選択し、**[Enter]** を押します。

次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認
標準設定値を読み込みますか？
<b>[はい]</b> [いいえ]

### 4 または で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。

BIOS セットアップのすべての設定項目に、標準設定値が読み込まれます。この状態では、まだ CMOS RAM には保存されていません。

### 5 または を押して「変更を保存して終了する」を選択し、**[Enter]** を押します。

次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認
変更した内容を保存して終了しますか？
<b>[はい]</b> [いいえ]

### 6 または で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。

読み込んだ標準設定値が保存されたあと、BIOS セットアップが終了します。

#### アドバイス

サブメニューを表示しているとき

「終了」メニューが表示されるまで、**[Esc]** を 2 ~ 3 回押してください。

#### アドバイス

保存後に設定操作を続けたいとき

「変更を保存して終了する」の代わりに「変更を保存する」を選択して、**[Enter]** を押します。

ここで使用しているマークは、次の意味です。

○:項目名

○:サブ項目名

ここでは以下のことを説明します。

- ・メインメニュー ←P.123
- ・詳細メニュー ←P.125
- ・セキュリティメニュー ←P.127
- ・省電力メニュー ←P.128
- ・起動メニュー ←P.130
- ・情報メニュー ←P.131
- ・終了メニュー ←P.131

## メインメニュー

「メインメニュー」では、日時の設定と、ドライブやメモリの機能などの設定を行います。

### システム時刻

### システム日付

フロッピーディスク A (標準設定値: 1.44/1.2MB 3.5 ")

フロッピーディスクを使用するかどうかを設定します。

内蔵スーパーディスクドライブユニット(別売)から起動したり、Aドライブにするときは、「使用しない」に設定してください。

また、「フロッピーコントローラ」(←P.125)も「使用しない」に設定してください。

### プライマリマスター

内蔵ハードディスクのタイプと動作モードを設定します。

設定項目については、「セカンダリマスター」を参照してください。

### セカンダリマスター

CD-ROMドライブユニットなどのマルチベイに取り付けたIDE規格の機器のタイプと動作モードを設定します。

内蔵スーパーディスクユニット(別売)の動作モードを変更するときは、「タイプ」を「取り外し可能 ATAPI」に設定します。

タイプ (標準設定値: 自動)

## 重要

### 「自動」以外を選択するとき

接続するドライブに合ったタイプを選択してください。誤ったタイプを選択すると、本パソコンが正常に動作しなくなります。

## アドバイス

標準設定値を読み込んだとき

「終了メニュー」の「標準設定値を読み込む」(←P.131)を実行した直後は、「プライマリマスター」、「セカンダリマスター」の項目の自動設定が行われていません。

BIOSセットアップを再起動すると、各項目が自動設定されます。

シリンダ数

ヘッド数

セクタ数



シリンダ数、ヘッド数、セクタ数を設定するとき

必ず正確に設定してください。誤った値を設定すると、本パソコンが正常に動作しなくなります。

最大容量

マルチセクタ転送

LBA モード制御

転送モード

Ultra DMA モード

システムメモリ

拡張メモリ

メモリキャッシュ

L2 キャッシュ (標準設定値 : 使用する)

言語 (Language) (標準設定値 : 日本語 (JP))



## アドバイス

### 周辺機器設定を行うとき

I/Oポートアドレス、割り込み番号(IRQ)、DMAチャネルは、複数のデバイスに同じ設定値を割り当てないように注意してください。同じ設定値を割り当てると、項目名の左に\*が表示されます。\*が表示されたときは、別の設定値を割り当ててください。

ご購入時の設定値は、リソース一覧で確認できます。「リソース一覧」(P.147)現在の設定値は、「コンピュータのプロパティ」ウィンドウで確認できます。

「現在のリソースを確認するには」(P.147)

## 詳細メニュー

「詳細」メニューでは、パソコン本体と周辺機器の機能やリソースなどの設定を行います。

プラグアンドプレイ対応 OS (標準設定値：はい)

セキュリティ付きセットアップ設定 (標準設定値：いいえ)

### 周辺機器設定

シリアルポート A (標準設定値：使用する)

I/O ベースアドレス (標準設定値：3F8)

割り込み番号 (標準設定値：IRQ 4)

シリアルポート B (標準設定値：使用する)

シリアルポート B (赤外線通信ポート) を使用するかどうかを設定します。

モード (標準設定値：FIR)

高速モード用の「I/O ベースアドレス」と「DMA チャネル」も設定してください。

I/O ベースアドレス (標準設定値：2E8)

割り込み番号 (標準設定値：IRQ 3)

I/O ベースアドレス (標準設定値：118)

DMA チャネル (標準設定値：DMA 3)

パラレルポート (標準設定値：使用する)

モード (標準設定値：双方向)

「ECP」は、パラレルポートにECP対応の周辺機器を接続しているときに設定します。ECP モード用の「DMA チャネル」も設定してください。

I/O ベースアドレス (標準設定値：378)

割り込み番号 (標準設定値：IRQ 7)

DMA チャネル (標準設定値：DMA 1)

通常「DMA チャネル」は「DMA 1」に設定してください。「DMA 3」は、標準設定値ではシリアルポート B (赤外線通信ポート) の FIR 用に割り当てられています。

フロッピーコントローラ (標準設定値：使用する)

内蔵 IDE コントローラ (標準設定値：両方使用する)



## アドバイス

内蔵スーパーディスクユニットから起動したり、Aドライブにするには

「フロッピーコントローラ」を「使用しない」に設定してください。また、「メインメニュー」の「フロッピーディスク A」(P.123)も「使用しない」に設定してください。

## キーボード/マウス設定

Numlock (標準設定値: 自動)

ホットプラグ (標準設定値: 使用する)

### **アドバイス**

#### 接続したキーボードやマウスが使えないとき

接続したキーボードやマウスがホットプラグに対応していない場合があります。

本パソコンの動作中に接続したキーボードやマウスが使えないときは、いったん取り外し、しばらく待ってからもう一度接続してください。それでも使えないときは、本パソコンを終了するか、サスペンドしてから接続してください。

次のような場合には「使用しない」に設定してください

- ・「ホットプラグ」を「使用する」に設定したときに、お使いのキーボードやマウスの動作に異常が見られる場合
- ・拡張キーボード/マウスコネクタに、入力装置(バーコードリーダ: FMV-BCR101、バーコードタッチリーダ: FMV-BCR201、磁気カードリーダ: FMV-MCR101など)を接続している場合  
また、この場合は「省電力モード」(☞P.128)も「使用しない」に設定してください。

内蔵ポインティングデバイス (標準設定値: 自動)

### **アドバイス**

#### Microsoft 社製 IntelliMouse™ の利用について

Microsoft 社製 IntelliMouse™ は、「内蔵ポインティングデバイス」を「自動」に設定しているときのみお使いになれます。

## 画面設定

ディスプレイ (標準設定値: 液晶ディスプレイ)

全体表示 (標準設定値: 使用しない)

## PCI 設定

割り込み番号の予約

特定の割り込み番号を PC カードに割り当てたいとき、その割り込み番号を「予約する」に設定すると、内蔵デバイスに使用されないようになります。

IRQ 3 ~ IRQ 11 (標準設定値: 予約しない)

## DMI イベントログ設定

イベントログ領域の状態

イベントログ内容の状態

イベントログのクリア (標準設定値: クリアしない)

イベントログ (標準設定値: 保存する)

システムブートイベント (標準設定値: 保存しない)



## チップセット詳細設定

AGP データ転送タイプ (標準設定値: 高速 (2x))

DVD ソフトを再生する場合は、「高速 (2x)」に設定してください。

## セキュリティメニュー

「セキュリティ」メニューでは、本パソコンを不正使用から保護するための設定を行います。

「BIOS のパスワード機能を使う」( ←P.132 )

### 管理者用パスワード

管理者(本パソコンをご購入になった方など)用のパスワードの設定状態が表示されます。

### ユーザー用パスワード

ユーザー(ご家族など、管理者以外の利用者)用のパスワードの設定状態が表示されます。

### 管理者用パスワード設定

#### ユーザー用パスワード設定

設定できる BIOS セットアップの項目が制限されます。

#### フロッピーディスクアクセス (標準設定値: 常に可能)

「管理者用パスワード」が設定されている場合にのみ設定できます。

### 重要

#### フロッピーディスクアクセスの設定についての注意

- ・ BIOS を経由しないで直接フロッピーディスクコントローラにアクセスする OS (WindowsNT4.0 など) では、正しく動作しません。
- ・ 内蔵スーパーディスクドライブユニット (別売) へのアクセスは制限できません。

#### 起動時のパスワード (標準設定値: 使用しない)

「管理者用パスワード」が設定されている場合にのみ設定できます。

#### レジューム時のパスワード (標準設定値: 使用しない)

「管理者用パスワード」が設定され、「起動時のパスワード」が「使用する」に設定されている場合にのみ有効です。

Windows98 の「電源の管理」でも設定できます。

### アドバイス



「電源の管理」で設定を変更する


レジューム時のパスワードは、「電源の管理」でも設定できます。

「電源の管理」で設定を変更する」( ←P.66 )

## 重要

### レジューム時のパスワード入力について

レジューム時は、パスワード入力を要求する画面は表示されません。フラットポイント(マウス)とパスワードを入力する以外のキーボード操作ができなくなっているときは、状態表示LCDにとが交互に点滅します。

キーボードとフラットポイント(マウス)を使用できるようにするには、本パソコン起動時に入力したパスワードをキーボードから入力し、を押してください。

### Logitech MouseWare (☞P.169) をインストールしているとき

「レジューム時のパスワード」は、必ず「使用しない」に設定してください。

## ハードディスク起動セクタ (標準設定値：通常動作)

## 重要

### ハードディスク起動セクタの設定についての注意

- ・ OS をインストールするときは、必ず「通常動作」に設定してください。
- ・ この設定は、BIOS を経由しないで直接ハードディスクにアクセスする OS (Windows NT4.0 など) では、正しく動作しません。

## ハードディスクセキュリティ

ハードディスクドライブのパスワードロック機能を設定します。本パソコンの内蔵ハードディスクドライブのように、パスワードロック機能に対応しているハードディスクドライブのみ利用できます。

プライマリマスター (標準設定値：使用しない)

セカンダリマスター (標準設定値：使用しない)

本パソコンでは設定できません。

## 省電力メニュー

「省電力」メニューでは、本パソコンの省電力機能に関する設定を行います。省電力機能は、「PMSet98」やWindows98の「電源の管理」でも設定できます。「節電の設定を変更する」(☞P.66)

### 省電力モード (標準設定値：ユーザー設定)

ハードディスク省電力 (標準設定値：使用しない)

ディスプレイ省電力 (標準設定値：使用しない)

Windows98の「電源の管理」で、モニタの電源を切るまでの時間を設定しているときは、短い時間に設定しているほうが有効になります。

## アドバイス

Windows98をお使いのとき

項目によっては無効になることがあります。詳しくは各項目の説明をご覧ください。

**重要****別売のシリアルマウスをお使いのとき**

「ディスプレイ省電力」で時間を設定したときは、「シリアルマウス」(P.130)を「使用する」に設定してください。「使用しない」に設定していると、シリアルマウスを使用しているときでもディスプレイの表示が消えてしまいます。

アイドルモード (標準設定値: 使用する)

スタンバイタイマー (標準設定値: 4分)

スタンバイは、Windows98の「システムスタンバイ」とは異なります。Windows98が起動しているときは、本設定は無効です。

サスペンドタイマー (標準設定値: 15分)

Windows98が起動しているときは、「電源の管理」の「システムスタンバイ」の設定に従ってサスペンドします。

サスペンド動作 (標準設定値: サスペンド)

**アドバイス**

「サスペンド動作」を「Save To Disk」に設定しているとき

サスペンドするときに、自動的に Save To Disk 機能が働いて、本パソコンの電源が切れます。

「Save To Disk」に設定してもサスペンドすることがあります

次の場合には、Save To Disk 機能が働かず、サスペンドします。

- ・ Save To Disk 領域が作成されていないとき
- ・ 「モデム着信によるレジューム」や「時刻によるレジューム」を設定しているとき
- ・ 「PMSet98のプロパティ」ウィンドウで、「電話が鳴ったら、パソコンを元の状態に戻す」の左が  になっているとき
- ・ LOW バッテリ状態で自動的にサスペンドするとき

自動 Save To Disk (標準設定値: 使用しない)

モデム着信によるレジューム (標準設定値: 使用しない)

「PMSet98」が起動しているときに有効です。「PMSet98」が起動していないときは、「使用する」と同じ動作になります。

「PMSet98」で設定を変更する」(P.66)

**アドバイス**

モデム着信によるレジューム機能についての注意

- ・ PDC コネクタに接続した携帯電話からモデムに着信したときは、レジュームしません。
- ・ 本パソコンはレジュームしてからアプリケーションがモデムと通信できるようになるまでは、多少の時間が必要です。アプリケーションがモデムの着信信号を検出できるように、モデムの自動応答回数を設定してください。モデムの設定方法については、モデムのマニュアルをご覧ください。
- ・ 「使用する」に設定すると、サスペンド中でもモデムを動作させておくため、サスペンド中の電力消費が増加します。この場合には、AC アダプタを接続してください。

時刻によるレジューム（標準設定値：使用しない）

Windows98で「タスクスケジュール」を設定しているときは、Windows98とBIOSセットアップの両方とも有効になります。

レジューム時刻

「時刻によるレジューム」を「使用する」に設定したとき、レジュームする（サスペンドする前の状態に戻す）時刻を時：分：秒（24時間制）で設定します。

詳細設定

SUS/RES スイッチ（標準設定値：使用する）

カバークローズ サスペンド（標準設定値：使用する）

### 重要

#### カバークローズサスペンドについての注意

- ・ ディスクへのアクセス中やモデムでの通信中、PCカード使用中は、それらの作業を完了または中断してから、液晶ディスプレイを閉じてください。
- ・ Windows98の終了処理中は、液晶ディスプレイを閉じないでください。

カバーオープン レジューム（標準設定値：使用する）

APMのCPUアイドル動作（標準設定値：低電力）

「低電力」に設定して動作が不安定になったときは「標準」に設定してください。

シリアルマウス（標準設定値：使用しない）

## 起動メニュー

「起動」メニューでは、本パソコンの起動時の動作についての設定を行います。

クイック起動（標準設定値：使用する）

起動時の自己診断画面（標準設定値：表示しない）

起動デバイスの優先順位（標準設定値：「フロッピーディスクドライブ」「ハードディスクドライブ」「ATAPI CD-ROMドライブ」の順番）

### アドバイス

優先順位を一時的に変更したいとき

起動時の自己診断テスト中に **F5** を押し、「起動時のメニュー」という画面が表示されます。起動用のデバイスを  または  で選択し、**Enter** を押してください。

「<BIOSセットアップを起動>」を選択すると、BIOSセットアップを起動することもできます。

「3.ATAPI CD-ROMドライブ」の項目は、起動可能なATAPIドライブがセットされている場合のみ表示されます。

## 情報メニュー

「情報」メニューでは、BIOS やパソコン本体についての情報を表示するためのメニューです。

BIOS 版数

BIOS 日付

BIOS 領域

CPU タイプ

CPU 速度

L1 キャッシュ

L2 キャッシュ

全メモリ容量

搭載しているメモリ (RAM) の合計容量が表示されます。

標準メモリ

内蔵しているメモリ (RAM) の容量が表示されます。

増設メモリ

拡張 RAM モジュールスロットに増設したメモリの容量が表示されます。

メモリを増設していないときは、「未使用」と表示されます。

資産番号

本パソコンでは「未定義」と表示されます。

## 終了メニュー

「終了」メニューでは、設定値の保存や読み込み、BIOS セットアップの終了などを行います。

変更を保存して終了する

変更を保存せずに終了する

標準設定値を読み込む

変更前の値を読み込む

変更を保存する

## 5

## BIOS のパスワード機能を使う

BIOSのパスワード機能を使うことによって、特定の人以外が本パソコンを使用できないように制限したり、ハードディスクのデータが盗用されないように保護したりできます。

ここでは以下のことを説明します。

- ・パスワード機能について ←P.132
- ・パスワード機能を設定する ←P.133
- ・パスワードを入力する ←P.135
- ・パスワードを変更/削除する ←P.135

## パスワード機能について

## 設定できるパスワードの種類

BIOSでは、次の2つのパスワードが設定できます。パスワードによって制限できる機能が違います。

## 管理者用パスワード

本パソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。  
パスワード機能を使うときは、必ず設定してください。

## ユーザー用パスワード

「管理者」以外で本パソコンをお使いになる方(ご家族など)が使用するパスワードです。

「管理者用パスワード」を設定したときにのみ設定できます。

## パスワードで制限/保護できる機能

## BIOS セットアップの起動

「管理者用パスワード」を設定すると自動的に働きます。

設定してあるパスワードを入力しないと、BIOSセットアップが起動できないように制限されます。また、「ユーザー用パスワード」を入力してBIOSセットアップを起動したときは、設定できる項目が制限されます。

## 起動時のパスワード

設定してあるパスワードを入力しないとOSを起動できないように制限されます。また、下記の「フロッピーディスクアクセス」では、起動時に入力したパスワードによって制限機能が変わります。

## レジューム時のパスワード

本パソコンがサスペンドから復帰するとき、起動時に入力したパスワードと同じパスワードを入力しないと、キーボードとフラットポイント(マウス)が使えないように制限されます。

この機能は、「起動時のパスワード」を設定しているときにのみ利用できます。

## アドバイス

## Windows98のパスワード機能について

Windows98のパスワード機能は、BIOSのパスワード機能とは異なります。

Windows98のパスワード機能だけでは、ハードディスクデータの読み出しからデータを保護することはできません。

### フロッピーディスクアクセス

「管理者のみ可能」に設定した場合に「起動時のパスワード」を「使用しない」に設定しているときは、フロッピーディスクが使えないようになります。

「起動時のパスワード」を「使用する」に設定しているときは、ユーザー用パスワードを入力して起動したときにフロッピーディスクが使えないように制限されます。

ただし、内蔵スーパーディスクドライブユニット(別売)へのアクセスは制限できません。

### ハードディスクセキュリティ

接続してあるハードディスクを取り外して他のパソコンに取り付けたときに、データを読み出すことができないように保護されます。「起動時のパスワード」と併用することにより、パソコン本体を盗まれた場合でも、保存してあるデータの読み出しが困難になります。

本パソコンの内蔵ハードディスクドライブのように、パスワードロック機能に対応しているハードディスクドライブの場合にのみ利用できます。

## パスワード機能を設定する

### パスワードを設定する

管理者用パスワード、またはユーザー用パスワードを設定するときは、以下の操作を行ってください。

ユーザー用パスワードは、管理者用パスワードが設定されているときにのみ設定できます。

- 1** BIOS セットアップを起動します。  
「BIOS セットアップを起動する」(P.117)
- 2**  を 2 回押して、「セキュリティ」メニューを表示します。
- 3**  または  でカーソルを「管理者用パスワード設定」または「ユーザー用パスワード設定」に合わせ、**[Enter]** を押します。  
パスワードを設定するための画面が表示されます。


管理者用パスワード設定	
新しいパスワードを入力して下さい。	[ <input type="password"/> ]
新しいパスワードを確認して下さい。	[ <input type="password"/> ]

または

ユーザー用パスワード設定	
新しいパスワードを入力して下さい。	[ <input type="password"/> ]
新しいパスワードを確認して下さい。	[ <input type="password"/> ]



## アドバイス

設定を中止するには

を押してください。

## アドバイス

確認のパスワードが間違っていたとき

「パスワードが一致しません。」というメッセージが表示されます。を押して、もう一度手順4からやり直してください。設定を中止するときは、を押してください。




- 4 設定したいパスワード（半角英数字、7文字まで）を入力します。  
英字の大文字、小文字の区別はありません。  
入力した文字は、表示されません。

### 重要

設定したパスワードを忘れないようにご注意ください

パスワードを忘れるとパスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。

パスワードを忘れてしまった場合には、弊社パーソナルエコーセンターまでご相談ください。

- 5 を押します。  
カーソルが、「新しいパスワードを確認して下さい。」の欄に移動します。
- 6 確認のため、設定したパスワードをもう一度入力します。  
正しく入力してください。
- 7 を押します。  
「変更が保存されました。」というメッセージが表示されます。
- 8 を押します。  
これでパスワードが設定されました。

## 各パスワード機能の設定

各パスワード機能の設定は、BIOS セットアップの「セキュリティ」メニューで行います。操作のしかたは、通常の設定項目と同じです。

「BIOS セットアップの操作のしかた」(←P.117)

以下に、各機能の設定項目を示します。

### BIOS セットアップの起動

管理者用パスワードを設定すると、自動的に設定されます。

### 起動時のパスワード

「起動時のパスワード」(←P.127)を、「使用する」に設定します。

### レジューム時のパスワード

「起動時のパスワード」(←P.127)と「レジューム時のパスワード」(←P.127)の両方を、「使用する」に設定します。

### フロッピーディスクアクセス

「フロッピーディスクアクセス」(←P.127)を、「管理者のみ可能」に設定します。



## ハードディスクセキュリティ

「プライマリマスター」(☞P.128)を、「使用する」に設定します。

### パスワードを入力する



パスワード機能を設定すると、設定状態によって次の場合にパスワードの入力が要求されます。

- ・ BIOS セットアップを起動するとき
- ・ 本パソコンを起動するとき
- ・ サスペンドから復帰するとき

#### BIOSセットアップや本パソコンの起動時のパスワード入力

「パスワードを入力して下さい。」というメッセージが表示されます。設定してあるパスワードを入力して、**[Enter]**を押してください。

#### レジューム時のパスワード入力

パスワードを入力する画面は表示されず、状態表示LCDにとが交互に点滅します。この状態では、フラットポイント(マウス)とパスワードを入力する以外のキーボード操作ができません。これらを使えるようにするには、本パソコンの起動時に入力したパスワードと同じパスワードを入力して、**[Enter]**を押してください。正しいパスワードを入力しない限り、キーボードやフラットポイント(マウス)は使えません。

### パスワードを変更/削除する

#### パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、以下の操作を行ってください。

- 1** BIOS セットアップを起動します。  
「BIOS セットアップを起動する」(☞P.117)
- 2**  を 2 回押して、「セキュリティ」メニューを表示します。

### アドバイス

誤ったパスワードを3回入力したとき

「システムは使用できません。」というメッセージが表示され、キーボードやフラットポイント(マウス)が一切反応しなくなります。この場合は、リセットスイッチを押して本パソコンを再起動し、正しいパスワードを入力してください。

アドバイス「「今日はおしまい。電源を切るには？」の手順で電源が切れないとき」(☞P.49)

「ユーザー用パスワード」でBIOS セットアップを起動すると

設定できる項目が制限されます。

「ユーザー用パスワード設定」(☞P.127)

Windows98 で設定するには

「電源の管理のプロパティ」ウィンドウで、「スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求める」の左をにしても、サスペンドから復帰するときのパスワードを設定できます。この場合は、BIOSで設定したパスワードではなく、Windows98のパスワードを入力してください。

## 💡 アドバイス

Logitech MouseWare (P.169) をインストールしているとき

レジューム後に、本パソコンが動かなくなったり、動作が不安定になることがあります。この場合には、本パソコンを再起動したあと、「レジューム時のパスワード」を「使用しない」に設定してください。

## 💡 アドバイス

入力したパスワードが間違っていたとき

「パスワードが正しくありません。」というメッセージが表示されます。**[Enter]** を押して、もう一度手順4からやり直してください。設定を中止するときは、**[Esc]** を押してください。

誤ったパスワードを3回入力したとき

「システムは使用できません。」というメッセージが表示され、キーボードやフラットポイント(マウス)が一切反応しくなくなります。この場合は、リセットスイッチを押して本パソコンを再起動し、BIOSセットアップを起動し直してください。

アドバイス「今日はおしまい。電源を切るには？」の手順で電源が切れないとき」(P.49)

なお、BIOSセットアップの起動時にも、パスワードの入力が要求されます。

確認のパスワードが間違っていたとき

「パスワードが一致しません。」というメッセージが表示されます。**[Enter]** を押して、もう一度手順5からやり直してください。設定を中止するときは、**[Esc]** を押してください。

- 3**  または  でカーソルを「管理者用パスワード設定」または「ユーザー用パスワード設定」に合わせ、**[Enter]** を押します。

パスワードを設定するための画面が表示されます。

管理者用パスワード設定	
現在のパスワードを入力して下さい。	[ <input type="password"/> ]
新しいパスワードを入力して下さい。	[ <input type="password"/> ]
新しいパスワードを確認して下さい。	[ <input type="password"/> ]

または

ユーザー用パスワード設定	
現在のパスワードを入力して下さい。	[ <input type="password"/> ]
新しいパスワードを入力して下さい。	[ <input type="password"/> ]
新しいパスワードを確認して下さい。	[ <input type="password"/> ]

- 4** 設定してあるパスワードを入力し、**[Enter]** を押します。  
カーソルが、「新しいパスワードを入力して下さい。」の欄に移動します。
- 5** 新しく設定したいパスワード(半角英数字、7文字まで)を入力し、**[Enter]** を押します。

英字の大文字、小文字の区別はありません。

カーソルが、「新しいパスワードを確認して下さい。」の欄に移動します。

## 👉 重要

設定したパスワードを忘れないようにご注意ください

パスワードを忘れるとパスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。

パスワードを忘れてしまった場合には、弊社パーソナルエコーセンターまでご相談ください。

- 6** 確認のため、新しく設定したパスワードをもう一度入力し、**[Enter]** を押します。

「変更が保存されました。」というメッセージが表示されます。

- 7** **[Enter]** を押します。

これで新しいパスワードが設定されました。

## パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」(P.135)の手順5と6で、何も入力せずに**[Enter]** を押してください。

## BIOS が表示するメッセージ一覧

本パソコンは、電源を入れたときや再起動したときなどに、ハードウェアに異常がないか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的にチェックし、その結果をメッセージとして黒い画面に表示します。

ここでは以下のことを説明します。

- ・メッセージ一覧 ←P.137
- ・メッセージが表示されたときは ←P.142

## メッセージ一覧

メッセージ中の「n」「x」「z」には数字が表示されます。

## 正常時のメッセージ

 **アドバイス**

正常時のメッセージを表示するには

「FUJITSU」のロゴマークが表示されているときに、**[Esc]**を押します。

起動時に常に表示させたいときは、BIOS セットアップの「起動」メニューで、「起動時の自己診断画面」を「表示する」に設定します。

- ① <ESC> キーを押すと自己診断画面、<F2> キーを押すと BIOS セットアップを起動します。  
起動時に「FUJITSU」のロゴマークが表示されているとき、画面の下に表示されます。このメッセージが表示されている間に **[F2]** を押すと、BIOS セットアップが起動します。  
また、**[Esc]** を押すと起動時の自己診断画面が表示され、さらに自己診断テストが完了すると「起動時のメニュー」という画面が表示されます。起動するドライブを  または  で選択して、**[Enter]** を押してください。「<BIOS セットアップを起動>」を選択すると、BIOS セットアップを起動することもできます。

## 起動時のメニュー

- 1 . フロッピーディスクドライブ
- 2 . ハードディスクドライブ
- 3 . ATAPI CD-ROMドライブ

<BIOSセットアップを起動>

- 「3. ATAPI CD-ROMドライブ」の項目は、起動可能なATAPIドライブがセットされている場合にのみ表示されます。
- ② <F2> キーを押すと、BIOS セットアップを起動します。  
起動時の自己診断画面の下に表示され、このメッセージが表示されている間に **[F2]** を押すと、BIOS セットアップが起動します。
  - ③ BIOS セットアップを起動しています...  
BIOS セットアップの起動中に表示されます。
  - ④ 0640K システムメモリ テスト完了。  
システムメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
  - ⑤ nnnnM 拡張メモリ テスト完了。  
拡張メモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
  - ⑥ nnnnK メモリキャッシュ テスト完了。  
キャッシュメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。

- ⑦ システム BIOS がシャドウメモリにコピーされました。  
システム BIOS が、シャドウ用のメモリに正常にコピーされたことを示していません。
- ⑧ ビデオ BIOS がシャドウメモリにコピーされました。  
ビデオ BIOS が、シャドウ用のメモリに正常にコピーされたことを示していません。
- ⑨ マウスが初期化されました。  
マウス機能が初期化され、フラットポイント(マウス)が使えるようになったことを示しています。



## エラーメッセージ

### アドバイス

これ以外のメッセージが表示されたとき

電源を入れ直しても同じメッセージが表示される場合は、「メッセージが表示されたときは」(P.142)をご覧ください。手順に従って確認してください。

それでも同じメッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

- ⑩ Invalid system disk  
Replace the disk, and then press any key  
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク(「リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」など)以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。  
フロッピーディスクを取り出して、などを押してください。
- ⑪ Non-System disk or disk error  
Replace and press any key when ready  
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク(「リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」など)以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。  
フロッピーディスクを取り出して、などを押してください。
- ⑫ Operating system not found  
OS が見つからなかったことを示しています。  
BIOS セットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブに OS が正しくインストールされているかを確認してください。
- ⑬ システムメモリエラー。オフセットアドレス: xxxx  
誤りビット: zzzz zzzz  
システムメモリのテスト中に、アドレス xxxx でエラーが発見されたことを示しています。  
メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。  
「メモリを取り外す」(P.81)  
メモリを取り外しても本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

- ⑭ 拡張メモリエラー。オフセットアドレス: xxxx  
誤りビット: zzzz zzzz  
拡張メモリのテスト中に、アドレス xxxx でエラーが発見されたことを示しています。  
メモリを増設しているときは、メモリが正しく取り付けられているか、または弊社純正品かを確認してください。  
「メモリを増やす」(P.77)  
それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ⑮ メモリキャッシュのエラーです。- キャッシュは使用できません。  
キャッシュメモリのテスト中に、エラーが発見されたことを示しています。  
電源を入れ直しても本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ⑯ キーボードコントローラのエラーです。  
キーボードコントローラのテストで、エラーが発生したことを示しています。  
電源を入れ直しても本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ⑰ キーボードエラーです。  
キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。  
テンキーボードや外付けキーボードを接続しているときは、正しく接続されているかを確認し、もう一度電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ⑱ フロッピーディスク A のエラーです。  
フロッピーディスクドライブのテストで、エラーが発生したことを示しています。  
フロッピーディスクドライブが正しく取り付けられているかを確認し、もう一度電源を入れ直してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ⑲ ディスクエラーです。: ハードディスク n  
ハードディスクドライブの設定に誤りがあることを示しています。  
BIOS セットアップを起動し、「メイン」メニューの「プライマリマスター」の各項目が正しく設定されているか、確認してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ⑳ システムタイマーのエラーです。  
システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。  
電源を入れ直しても本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

- ⑳ リアルタイムクロックのエラーです。  
リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。  
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ㉑ システム CMOS のチェックサムが正しくありません。 - 標準設定値が設定されました。  
CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、いったん標準設定値が設定されたことを示しています。  
[F2] を押して BIOS セットアップを起動し、標準設定値を読み込んだあと、設定を保存して起動し直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ㉒ 前回の起動が正常に完了しませんでした。 - 標準設定値が設定されました。  
前回の起動時に正しく起動されなかったため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。  
起動途中で電源を切ってしまったり、または BIOS セットアップで誤った値を設定して起動できなかったとき、3 回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。そのまま起動する場合は [F1] を押してください。BIOS セットアップを起動して設定を確認する場合は [F2] を押してください。
- ㉓ <F1> キーを押すと継続、<F2> キーを押すとセットアップを起動します。  
起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前に本メッセージが表示されます。[F1] を押すと発生しているエラーを無視して OS の起動を開始し、[F2] を押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。
- ㉔ 日付と時刻の設定を確認してください。  
日付と時刻の設定値が不正です。  
設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。
- ㉕ パスワードで保護されています。: ハードディスク n  
取り付けられたハードディスクドライブが、パスワードロック機能で保護されていることを示しています。  
そのハードディスクドライブが取り付けられていたパソコンと同じ「管理者用パスワード」( ←P.127 ) を、本パソコンにも設定してください。パスワードがわからない場合は、そのハードディスクドライブは使用できません。
- ㉖ ハードディスク上の Save To Disk 領域が見つかりませんでした。  
Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成してください。  
ハードディスク上に、Save To Disk 領域が確保されていないことを示しています。  
「Save To Disk 領域」( ←P.151 )

- 28 ハードディスク上の Save To Disk 領域が不足しています。  
Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成し直してください。  
ハードディスク上の Save To Disk 領域の容量が不足しているため、Save To Disk 機能を使用できないことを示しています。  
「Save To Disk 領域」( ←P.151 )
- 29 ハードディスクが検出されませんでした。  
Save To Disk 機能は使用できません。  
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- 30 不明な Save To Disk エラーが発生しました。  
Save To Disk 機能は使用できません。  
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- 31 ハードディスクからの読み取りに失敗しました。  
Save To Disk 機能は使用できません。  
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- 32 ハードディスクへの書き込みに失敗しました。  
Save To Disk 機能は使用できません。  
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- 33 ハードディスク上の Save To Disk 領域が壊れている可能性があります。  
Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成し直してください。  
「Save To Disk 領域」( ←P.151 )
- 34 Save To Disk を行ったハードディスクが検出されなかったため、システム状態を復元できませんでした。  
システム状態を復元するには、電源を切って、Save To Disk を行ったハードディスクを接続した後、システムを再起動してください。  
< F1 > キーを押すと、このまま起動します。
- 35 Save To Disk を行ったハードディスクが交換されているため、システム状態を復元できませんでした。  
システム状態を復元するには、電源を切って、Save To Disk を行ったハードディスクを接続した後、システムを再起動してください。  
< F1 > キーを押すと、このまま起動します。

## メッセージが表示されたときは

メッセージが表示された場合は、「メッセージ一覧」(P.137)をご覧ください。表示されたメッセージが一覧にない場合や、対処方法が分からない場合には、次の手順に従って処置を行ってください。

### 1 BIOS セットアップの設定値を確認します。

BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップの該当する項目の設定値を確認してください。

それでもメッセージが表示される場合には、BIOS セットアップの設定値をご購入時の設定に戻して、起動し直してください。

「ご購入時の設定に戻す」(P.122)

### 2 オプション機器を取り外します。

オプション機器を取り付けている場合には、すべてのオプション機器を取り外し、パソコン本体をご購入時の状態にして動作を確認してください。

それでも同じメッセージが表示される場合には、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

### 3 取り外したオプション機器を、1 つずつ取り付けます。

取り外したオプション機器を1 つずつ取り付けて起動し直し、動作を確認してください。

また、割り込み番号(IRQ)を使用するオプション機器を取り付けたときは、割り込み番号が正しく割り当てられるように、設定を確認してください。このとき、各オプション機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

上記の処置を行っても、まだ同じメッセージが表示される場合には、本パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。



# 第 6 章

---

## 技術情報

本パソコンの仕様について説明しています。

1. 仕様一覧 .....	144
2. Save To Disk 領域 .....	151
3. 赤外線通信ポートをお使いになるうえでの注意 .....	154
4. モデムについて .....	157
5. ドライバのインストール .....	160

## 仕様一覧

- ・ 本体 ⇨ P.144
- ・ モデム ⇨ P.146
- ・ リソース一覧 ⇨ P.147
- ・ コネクタのピン配列と信号名 ⇨ P.148
- ・ CRT ディスプレイの走査周波数 ⇨ P.150

## 本体

製品名称	FMV-BIBLO NR/33X	
CPU	モバイルIntel®Celeron™ プロセッサ 333MHz	
キャッシュメモリ	32KB (CPU 内蔵) 2 次キャッシュ 128KB (CPU 内蔵)	
PCI チップセット	Intel 440BX AGPset	
BIOS ROM	512KB (フラッシュ ROM)	
システム RAM	標準 64MB/最大 192MB (SDRAM) (拡張 RAM モジュール 16/32/64/128MB、スロット×1)	
VRAM	4MB (SGRAM)	
CD-ROM ドライブ 1	最大 24 倍速 (平均 17 倍速) マルチセッション、 CD エクストラ対応	
フロッピーディスク ドライブ	3.5 インチ (2HD: 1.44MB/1.2MB、2DD: 720KB)	
ハードディスク ドライブ	6.4GB	
表示方式 2	TFT カラー液晶ディスプレイ (13.3 型) 1024 × 768 ドット 最大 1677 万色 3	
音源機能	PCIバス接続サウンドチップ (16 ビットステレオ PCM、 FMエミュレーション音源) 64Voice Wave table 機能内蔵	
キーボード	一体型 OADG 配列準拠 92 キー (MS キー付き)	
内蔵ポインティングデバイス	フラットポイント	
PC カード	TYPE / × 2 または TYPE × 1 スロット (CardBus/ZV ポート対応 4)	
DATA/FAX モデム 5	ITU-T V.90/DATA K56flex™/FAX 14.4Kbps	
外部 インター フェイス	外部 CRT	アナログ RGB Mini D-SUB 15 ピン
	パラレル	D-SUB 25 ピン (ECP 対応)
	シリアル	RS-232C D-SUB 9 ピン (16550A 互換)
	拡張キーボード / マウス	PS/2 タイプミニ DIN6 ピン
	USB 6	USB 用コネクタ 4 ピン
	外付け FDD 7	専用 26 ピン
	赤外線通信ポート	IrDA1.1 準拠 (最大 4Mbps)
	ライン入力	3.5mm ステレオミニジャック × 1
	ヘッドホン出力	3.5mm ステレオミニジャック × 1
	マイク入力	3.5mm モノラルミニジャック × 1
FAX モデム	モジュラージャック (RJ-11) × 1	
PDC	専用コネクタ 9 ピン	
電源供給方式	AC アダプタまたは Li-ion バッテリー (バッテリーパック × 1、増設用内蔵バッテリーユニット (別売) × 1 8)	

製品名称		FMV-BIBLO NR/33X
バッテリー		Li-ion10.8v、2400mAh/5000mAh (バッテリーパック + 増設用内蔵バッテリーユニット (別売))
バッテリー 稼働時間 <sup>9</sup>	バッテリーパック (添付)	約 2.0 時間
	バッテリーパック (添付) + バッテリーユニット (別売)	約 4.5 時間
バッテリー 充電時間	バッテリーパック (添付)	サスペンド時または電源を切っているとき : 3 時間 パソコン動作時 : 8 時間
	バッテリーパック (添付) + バッテリーユニット (別売)	サスペンド時または電源を切っているとき : 5.5 時間 パソコン動作時 : 11 時間
消費電力		約 5.4W 以下 (AC 運用時)
省エネ法に基づく表示		エネルギー消費効率 約 6.0W (AC 運用時の待機時消費電力) 10
外形寸法		308 × 258 × 34.8mm (突起部含まず)
重量		約 2.39kg
サポート OS		Windows98 および WindowsNT4.0 11

(本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。)

- CD-ROM ドライブユニット、FDD ユニット、増設用内蔵バッテリーユニット (別売) 内蔵 DVD-ROM ドライブユニット (別売) 内蔵スーパーディスクドライブユニット (別売) は排他内蔵です。
- TFT 液晶ディスプレイは高度な技術を駆使し、一画面上に 235 万個以上 (解像度 1024 × 768 の場合)、または 144 万個以上 (解像度 800 × 600 の場合) の画素 (ドット) より作られております。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります。
  - 液晶ディスプレイは、その特性上、温度変化などで多少むらが発生することがあります。これらは、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
- ディザリング機能 (擬似的に色を表示する機能) によって、True Color (32 ビット) で表示されます。
- ZV ポートはスロット 1 (下段側) のみ対応しています。
- K56flex™ は、米ルーセントテクノロジー社等が提唱する通信規格です。
  - 56000bps は K56flex™ および ITU-T 標準規格 V.90 の理論上の最高速度であり、実際の通信速度は回線状況により変化します。K56flex™ および ITU-T 標準規格 V.90 による 33600bps を超える通信速度は受信時のみで、送信時は 33600bps が最高速度となります。日本国内の一般公衆回線、あるいは構内交換機経由での通信においては同規格での通信が行えない場合があります。
  - ナンバーディスプレイ機能は、添付のアプリケーション「電話機能」でのみお使いになれます。
  - MS-DOS モードおよび Windows98 の MS-DOS プロンプトではお使いになれません。
- すべての USB 対応のオプション機器について、動作保証するものではありません。
- FDD ユニットは、FDD コネクタ、またはマルチベイのいずれか片方のドライブが使用可能です。
- 増設用内蔵バッテリーユニットはオプション機器です。
- 本体のみ、省電力制御あり、フル充電の場合 (稼働時間は使用条件により異なります)
- サスペンドモード (充電なし)
- WindowsNT をお使いになるときは、インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」  
<http://www.fmworld.ne.jp/support/hikken/index.html>  
をご覧ください。
  - WindowsNT4.0 に変更した場合、PDC コネクタは使えません。また、搭載アプリケーションの動作は保証できません。

## モデム

品名	Fujitsu LB RWModem V.90 56K J		
通信方式	2線式 全二重 (FAXモードでは2線式 半二重)		
通信規格	データモード	K56flex ITU T V.90, V.34, V.32bis, V.32, V.22bis	
	FAXモード	ITU T V.17, V.29, V.27ter, V.21ch2	
通信速度	V.90モード	受信	56000, 54667, 53333, 52000, 50667, 49333, 48000, 46667, 45333, 44000, 42667, 41333, 40000, 38667, 37333, 36000, 34667, 33333, 32000, 30667, 29333, 28000bps
		送信	33600, 31200, 28800, 26400, 24000, 21600, 19200, 16800, 14400, 12000, 9600, 7200, 4800, 2400bps
	K56flexモード	受信	56000, 54000, 52000, 50000, 48000, 46000, 44000, 42000, 40000, 38000, 36000, 34000, 32000bps
		送信	31200, 28800, 26400, 24000, 21600, 19200, 16800, 14400, 12000, 9600, 7200, 4800, 2400bps
	データモード	33600, 31200, 28800, 26400, 24000, 21600, 19200, 16800, 14400, 12000, 9600, 7200, 4800, 2400, 1200bps	
	FAXモード	14400, 12000, 9600, 7200, 4800, 2400, 300bps	
同期方式	調歩同期		
データ転送プロトコル	MNP class 4 / 5 ITU T (CCITT) V.42 / V.42bis		
FAXインターフェース	TIA / EIA578 (class 1)		
最大端末速度	115200bps		
バスインターフェース	PCI		
使用環境条件	パソコン本体による (温度: 5 ~ 35 (結露がないこと))		
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動速度検出</li> <li>・発信音、呼出し音、話中音、無音、ダイヤル音、音声などの回線接続の進行状態を示す応答音の検出</li> <li>・トーン式 / パルス式ダイヤルの自動選択</li> <li>・ナンバーディスプレイ対応 (Windows 95およびWindows 98のみサポート)</li> </ul>		


本モデムは Windows 98、Windows NT 4.0 以外の OS での動作はサポートしていません。

- ・ K56flex は Rockwell International 社、Lucent Technologies 社 が提唱している通信規格です。
- ・ V.90 および K56flex での接続においては、接続先のプロバイダなどが同規格に対応していることが必要です。
- ・ 56000bps は V.90 および K56flex の理論上の最高速度であり、実際の通信速度は回線状況により変化します。V.90 による 33600bps (K56flex は 31200bps) を超える通信速度は受信時のみで、V.90 送信時は 33600bps (K56flex は 31200bps) が最高速度になります。  
日本国内の一般公衆回線、あるいは構内交換機経由での通信においては、同規格での通信が行えない場合があります。
- ・ MS DOS モードではお使いになれません。

## アドバイス

現在のリソースを確認するには

オプション機器を増設すると、リソースの値が変更されることがあります。現在のリソースは、以下の手順で確認できます。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (システム) をクリックします。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 4 「コンピュータ」が反転表示されていることを確認し、「プロパティ」をクリックします。
- 5 「リソースの表示」タブで、リソースの種類をクリックします。リソースの値の一覧が表示されます。

## リソース一覧

本パソコンの割り込み番号(IRQ)、DMAチャンネルをどのハードウェアが使っているかの一覧です。

本パソコンご購入時の割り込み番号(IRQ)、DMAチャンネルは、次のように設定されています。ご使用の状態によっては、異なることがあります。

### 割り込み番号 (IRQ)

IRQ	使用状況
0	システムタイマー
1	キーボード
2	割り込みコントローラ
3	赤外線シリアルポート (COM4)
4	通信ポート (COM1)
5	空き
6	フロッピーディスクコントローラ
7	プリンタポート
8	システム CMOS / リアルタイムクロック
9	CardBus Controller / 内蔵モデム (COM2) / USB ホストコントローラ / サウンド / ディスプレイ
10	空き
11	空き
12	ポインティングデバイス
13	数値データプロセッサ
14	IDE コントローラ
15	IDE コントローラ

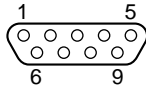
### DMA チャンネル

DMA	使用状況
0	空き
1	サウンド
2	フロッピーディスクコントローラ
3	赤外線シリアルポート
4	DMA コントローラ
5	空き

## コネクタのピン配列と信号名

### シリアルコネクタ

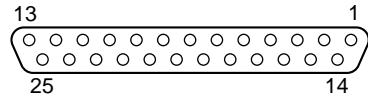
(D-SUB9 ピン、オス)



ピン信号	信号名	方向	説明
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	-	グラウンド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケータ

### パラレルコネクタ

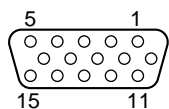
(D-SUB25 ピン、メス)



ピン信号	信号名	方向	説明
1	STROBE	入出力	ストロブ
2	DATA 0	入出力	データ 0
3	DATA 1	入出力	データ 1
4	DATA 2	入出力	データ 2
5	DATA 3	入出力	データ 3
6	DATA 4	入出力	データ 4
7	DATA 5	入出力	データ 5
8	DATA 6	入出力	データ 6
9	DATA 7	入出力	データ 7
10	ACK	入力	アクノリッジ
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	AUTOFD	出力	自動送り
15	ERROR	入力	エラー
16	INIT	出力	初期化
17	SLCTIN	出力	選択
18	GND	-	グラウンド
19	GND	-	グラウンド
20	GND	-	グラウンド
21	GND	-	グラウンド
22	GND	-	グラウンド
23	GND	-	グラウンド
24	GND	-	グラウンド
25	GND	-	グラウンド

## CRT コネクタ

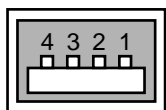
(ミニ D-SUB15 ピン、メス)



ピン信号	信号名	方向	説明
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	-	未接続
5	GND	-	グラウンド
6	GND	-	グラウンド
7	GND	-	グラウンド
8	GND	-	グラウンド
9	+ 5V	-	電源 1
10	GND	-	グラウンド
11	NC	-	未接続
12	SDA	入出力	シリアルデータライン
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	シリアルクロックライン

1 : MAX 300mA

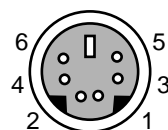
## USB コネクタ



ピン信号	信号名	方向	説明
1	VCC	-	ケーブル・電源
2	- DATA	入出力	- データ信号
3	+ DATA	入出力	+ データ信号
4	GND	-	ケーブル・グラウンド

## 拡張キーボード/マウスコネクタ

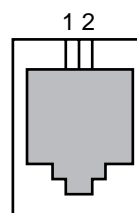
(ミニ DIN6 ピン)



ピン信号	信号名	方向	説明
1	KDATA	入出力	データ
2	MDATA	入出力	データ
3	GND	-	グラウンド
4	+ 5V	-	電源
5	KCLK	入出力	クロック
6	MCLK	入出力	クロック

## モジュラーコネクタ (モデム)

(RJ-11)



ピン信号	信号名	方向	説明
1	LINE1	入出力	公衆回線に接続
2	LINE2	入出力	公衆回線に接続

6

技術情報 (仕様一覧)

## CRT ディスプレイの走査周波数

### CRT 表示のみの場合

ディスプレイドライバにより下表の走査周波数が選択できます。

解像度 (ドット)	水平走査周波数 (kHz)	垂直走査周波数 (Hz)
640 × 480	31 31-43	60 60-85
800 × 600	37-53	60-85
1024 × 768	48-68	60-85
1280 × 1024	64-91	60-85
1600 × 1200	75	60

### 同時表示の場合

解像度や発色数に関係なく一定です。


水平走査周波数 (kHz)	垂直走査周波数 (Hz)
48.5	60.0

### 重要

#### CRT ディスプレイ表示に切り替えて正常に表示されないとき

お使いになるCRTディスプレイによっては、CRTディスプレイ表示に切り替えた際に正常に表示されない場合があります。これは、CRTディスプレイによってサポートする走査周波数が異なるためです。

正常に表示するには、CRTディスプレイのマニュアルで、CRTディスプレイがサポートする走査周波数を確認し、以下の方法で設定してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (画面) をクリックします。
- 3 「設定」タブをクリックします。
- 4 「詳細」をクリックします。
- 5 「アダプタ」タブをクリックし、「リフレッシュレート」をCRTディスプレイでサポートする走査周波数に設定し、「OK」をクリックします。  
メッセージが表示された時は、「はい」または「OK」をクリックします。



ここでは以下のことを説明します。

- ・ Save To Disk 領域について ←P.151
- ・ Save To Disk 領域の容量 ←P.151
- ・ Save To Disk 領域を変更する ←P.152



### アドバイス

「ファイル形式」と「区画設定」

Save To Disk 領域には「ファイル形式」と「区画設定」があります。本パソコンご購入時は、あらかじめ、Save To Disk 領域が「区画設定」で設定されています。

ファイル形式で使うときの注意

「ドライブスペース」や「ダブルスペース」などのディスク圧縮プログラムで圧縮されたドライブ上では、Save To Disk 領域をファイル形式で使うことはできません。Save To Disk 領域をファイル形式で作成しているときは、「ドライブスペース」や「ダブルスペース」などのディスク圧縮機能は使用しないでください。



### アドバイス

Save To Disk 領域に必要な容量

Save To Disk 領域には、メインメモリ容量とビデオメモリ容量以外に若干の作業容量が必要です。そのため、Save To Disk 領域の容量は、メインメモリ容量とビデオメモリ容量の合計よりも多くなっています。

## Save To Disk 領域について

Save To Disk 機能では、作業状態（メモリの内容）をそのままハードディスクに保存します。本パソコンご購入時のハードディスクの中には、あらかじめ Save To Disk 機能用の保存場所が確保されています。この Save To Disk 機能用の保存場所を「Save To Disk 領域」といいます。

Save To Disk 領域は PHDISK ユーティリティで変更することができますが、通常は変更する必要はありません。Save To Disk 領域を削除、または変更するときにお読みください。

Save To Disk 領域を削除、または変更して Save To Disk 領域が足りなくなったときは、Save To Disk 機能が使えなくなります。

## Save To Disk 領域の容量

Save To Disk 領域として必要になる容量は、次のように決まります。

Save To Disk 領域の必要容量 = メインメモリ容量 + 5MB (ビデオメモリ容量 / その他)

本パソコンでは、メモリ容量を最大に拡張したときを想定して、ご購入時は、次の容量の Save To Disk 領域が設定されています。

Save To Disk 領域の容量	最大メインメモリの容量 (増設時)	ビデオメモリ容量・その他
約 197MB	基本 64MB + 増設 128MB = 192MB	約 5MB

128MB の拡張 RAM モジュールを取り付けた場合

## Save To Disk 領域を変更する

### アドバイス

#### Save To Disk 領域を作成するとき

Save To Disk 領域は、「ファイル形式」または「区画設定」のどちらか一方で作成できます。

#### 区画として Save To Disk 領域を作成するとき

- ・区画として Save To Disk 領域を作成するときは、FDISKユーティリティで MS-DOS 領域を作成する前に行ってください。
- ・「区画設定」で Save To Disk 領域を作成する場合は、「ファイル形式」で作成する場合よりも、大きな容量が必要になります。


#### Save To Disk 領域を作成したあとは再起動してください

Save To Disk 領域を作成した場合は、作成後に必ず再起動してください。再起動せずに Save To Disk 機能を使うと、正しく動作しない場合があります。

#### 区画として作成した Save To Disk 領域を増やすとき

区画として作成した Save To Disk 領域の容量を増やす場合は、組み込まれている MS-DOS 領域の容量を FDISK ユティリティを使って減らす必要があります。ただし、FDISK によって MS-DOS 領域の容量を変更すると、それまでの MS-DOS 領域内のデータはすべて失われます。作業の前には、必要なデータのバックアップを行ってください。

Save To Disk 領域の作成、再フォーマット、削除および詳細情報の表示などを行うには、PHDISK ユティリティを使用します。PHDISK ユティリティ (PHDISK.EXE) は「リカバリ CD-ROM セットアップ起動ディスク」に入っています。

また、Windows 98 の場合、PHDISK ユティリティは、Windows モードが起動されていると正しく動作しません。フロッピーディスクドライブに「リカバリ CD-ROM セットアップ起動ディスク」を入れて本パソコンを起動し、起動後に表示される「Windows 98 リカバリメニュー」で、 を押しお使いください。

「A:¥>」のあとに、実行するコマンドとオプションを入力します。

#### コマンド

PHDISK { オプション }


└── /CREATE /PARTITION  
(または /CREATE /FILE)  
/INFO  
/DELETE /PARTITION  
(または /DELETE /FILE)  
/REFORMAT /PARTITION

PHDISK をオプションなしで起動すると、簡単な使いかた、現在作成されている領域などが表示されます。

なお、Save To Disk 領域の変更を行ったあとは、メッセージに従って操作をしてください。本パソコンが再起動します。

#### オプション

それぞれのオプションは、先頭の 1 文字だけでも有効です。たとえば、「/CREATE」と「/C」は同じことです。また、「/PARTITION」と「/P」も同じです。

/ の前は、 を 1 回押してください。

それぞれのオプションの詳細は以下のとおりです。

作成 : /CREATE /PARTITION (または /CREATE /FILE)  
Save To Disk 領域がまだ作成されていない場合に使います。  
/CREATE /FILE と指定すると、Save To Disk 領域をファイル形式で作成します。  
/CREATE /PARTITION と指定すると、Save To Disk 領域を区画設定で作成します。  
Save To Disk 領域の容量は、現在のシステム構成に最適な容量の領域を作成します。

区画設定で Save To Disk 領域を作成したときは、作成が終わると、その領域のフォーマットを開始します。フォーマット中にハードディスクに不良セクタを見つけた場合は、そのセクタにマークを付けて、以後使えないようにします。

**削除** : /DELETE /PARTITION (または /DELETE /FILE)  
すでに作成している Save To Disk 領域を削除する場合に使用します。  
/DELETE /FILE と指定すると、ファイル形式で作成された Save To Disk 領域を削除します。  
/DELETE /PARTITION と指定すると、区画設定で作成された Save To Disk 領域を削除します。  
Save To Disk 領域の容量を変更したい場合は、まず、 /DELETE によってすでに作成された Save To Disk 領域を削除したあと、 /CREATE によって現在搭載されているメモリ容量の Save To Disk 領域を作成します。

**再フォーマット** : /REFORMAT /PARTITION  
区画として作成されている Save To Disk 領域を再フォーマットします。  
このオプションは、Save To Disk 機能を使っていて、読み出しエラーや書き込みエラーが起こった場合に使ってください。すでに作成している Save To Disk 領域を再フォーマットします。再フォーマット中にハードディスクに不良セクタを見つけた場合は、そのセクタにマークを付けて、以後使えないようにします。Save To Disk 領域の容量が変わることはありません。

**詳細情報** : /INFO  
すでに作成されている Save To Disk 領域に関する詳細情報を表示します。

表示例 :

- ・ 区画設定で作成した場合

Save To Disk 領域詳細情報:

開始セクタ:XXXXXX (ヘッド X、シリンダ XXX、セクタ X)  
全容量:XXXXXX バイト

現在の状態:

現在の構成では、XXXXXXk バイトの Save To Disk 領域が必要です。PHDISK は更に多少の作業領域を必要とし、実際に必要な全領域のバイト数を自動的に計算します。

- ・ ファイル形式で作成した場合

Save To Disk 領域詳細情報:

現在の Save To Disk 領域は、ファイル名が C: ¥SAVE2DSK.BIN で、サイズは XXXXXXk bytes です。属性は、システム、隠しファイル、及び読取専用です。

現在の状態:


現在の構成では、XXXXXXk バイトの Save To Disk 領域が必要です。PHDISK は更に多少の作業領域を必要とし、実際に必要な全領域のバイト数を自動的に計算します。

## 赤外線通信ポートをお使いになるうえでの注意

- ・制限事項 ←P.154
- ・赤外線通信をするときの注意 ←P.154
- ・転送速度について ←P.155
- ・Windows98の赤外線機能を使用しているとき ←P.155
- ・Intellisyncの設定を確認する ←P.156

本パソコンの赤外線通信ポートを使うと、赤外線通信機器を持った他のコンピュータと、ケーブルを接続することなく通信することができます。

本パソコンには、赤外線通信のアプリケーションとして、「Intellisync」が用意されています。赤外線通信をお使いになる前に以下の注意事項をご覧ください。設定を行ってください。なお、「Intellisync」を使った通信について詳しくは、「Intellisync」のマニュアルをご覧ください。

←  『Intellisync for Notebooks クイック・リファレンス・ガイド』

### 制限事項

- ・Windows98を終了させるときは、必ず「Intellisync」を先に終了させてください。
- ・データの通信中に、赤外線通信ポートをふさいだりして、通信エラーが発生した場合は、「Intellisync」をいったん終了させてから、再度行ってください。そのままお使いになると、正常に通信できないことがあります。
- ・「Intellisync」のシンク機能では、ファイル名に全角文字が含まれたファイルを指定すると、正しく動作しない場合があります。
- ・赤外線通信の相手先のパソコンが4Mbpsモードでの通信をサポートしていない場合、Intellisyncは自動的に通信モードを切り換えます。それでも正常に通信できない場合は、本パソコンの通信モードを115Kbps以下に変更してください。

### 赤外線通信をするときの注意

- ・赤外線通信をしているときは、赤外線通信ポートにACアダプタやCRTディスプレイを近づけないでください。  
ノイズによる誤動作の原因となります。
- ・互いのパソコンの赤外線通信ポートを使用可能な状態にし、赤外線通信ポートが真正面に向き合うようにします。
- ・距離は、20～50cmの範囲内でのご使用をお勧めします。特にバッテリー運用時は、互いのパソコンの距離を離しすぎないでください。
- ・データの転送中にお互いのパソコンを動かすと、データ転送が失敗することがあります。
- ・次のようなときは、うまく通信ができない場合があります。
  - 互いの赤外線通信ポートが、真正面に向き合っていないとき
  - 互いの赤外線通信ポートの距離が離れすぎたり、間に遮断物があるとき
  - テレビ、ラジオなどのリモコンや、ワイヤレス・ヘッドホンなどが近くで動作しているとき
  - 直射日光や蛍光灯・白熱灯などの強い光が赤外線通信ポートにあたっているとき

## 転送速度について


本パソコンは、「Intellisync」を搭載しており、最大 4Mbps の速度で通信できません。

転送速度は、通信相手のパソコンにより異なります。

- ・ 115Kbps のパソコンと通信する場合  
自動的に 115Kbps モードで接続されます。
- ・ 4Mbps のパソコンと通信する場合  
自動的に 4Mbps モードで接続されます。

## Windows 98 の赤外線機能を使用しているとき

Windows 98 に標準添付されている赤外線デバイスを実行していると、「Intellisync」が正常に動作しないことがあります。その場合、次の操作を行ってください。

- 1** 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。  
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2**  (赤外線モニタ) をクリックします。  
「赤外線モニタ」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「オプション」タブをクリックします。
- 4** 「赤外線通信を使用可能にする」をクリックして  を  にします。
- 5** 「OK」をクリックします。



### アドバイス

コンピュータ名について

あらかじめインストールされている「Intellisync」は、「コンピュータ名」に「OEMCOMPUTER」が登録されています。通信相手の「コンピュータ名」が同じ名前になっていると通信できません。その場合は異なる名前になるように設定を変更してください。変更は「Intellisync」の「接続設定マネージャ」の「識別」タブの「コンピュータ名」で行います。

ZAURUS との通信について

「Intellisync」では、ZAURUS との通信はサポートされていません。

## Intellisync の設定を確認する

### BIOS セットアップでの設定

本パソコンご購入時は、BIOS セットアップは以下のように設定されています。うまく通信できない場合は、BIOS セットアップの「詳細」メニューの「周辺機器設定」で、「シリアルポート B」の各項目が以下の設定になっているか確認してください。

- ・シリアルポート B : 使用する
  - ・モード : FIR
  - ・I/O ベースアドレス : 2E8
  - ・割り込み番号 : IRQ 3
  - ・I/O ベースアドレス : 118
  - ・DMA チャンネル : DMA 3
- 「BIOS セットアップの操作のしかた」( ←P.117 )

## 内蔵モデムに電話回線を接続するときの注意



近くで雷が起きたときは、ACアダプタの電源プラグをコンセントから、モジュラーケーブルをモジュラージャックから抜いてください。そのまま使用すると、雷によっては本パソコンを破壊し、火災の原因となります。



モジュラージャックやモジュラーコネクタに指などを入れないでください。感電の原因となることがあります。

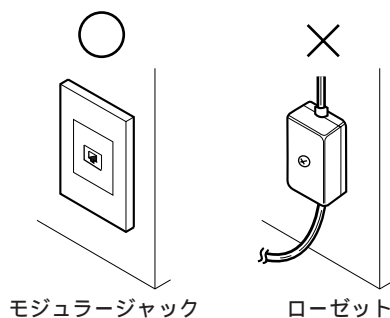
- ・ モデムが使用可能な回線  
本モデムは、接続する電話回線がNTTの一般公衆電話回線の電気的な仕様と同じでないと正常に動作しません。
- ・ ホームテレホン、ビジネスホンなどには接続できません  
本モデムが接続できる回線は、一般のNTT公衆電話回線のみです。ホームテレホン、ビジネスホン、キーテレホン、ボタン電話などは、NTTの電話回線と電気的な仕様が異なるため接続できません。接続前に電話装置メーカーや保守業者にお問い合わせください。
- ・ デジタル回線に接続する場合  
本モデムはデジタル網（ISDN等）やデジタル構内交換網（デジタルPBX）の回線に直接接続することはできません。モデムカードが故障する恐れがありますので、ターミナルアダプタ等を経由して、アナログポートに接続してご使用ください。
- ・ PBXに接続する場合  
PBXに接続される通信回線の仕様がNTTの電話回線と電気的な仕様が異なる場合、本モデムが使用できない場合があります。例えば、呼出信号の電圧や周期、ダイヤルトーンの条件などについてはNTT回線の仕様に準拠しています。接続する前に、使用されているPBXの製造メーカーや保守業者にお問い合わせください。ただし、“0”発信によって外線に接続するPBX内線電話の場合、ご使用のアプリケーションの設定で初期化コマンドにATX3を追加するか、または発信音をチェックしない設定をすることで、発信できることがあります。
- ・ キャッチホン1契約をしている場合  
キャッチホン1契約をしている場合は、パソコン通信やFAX送受信中に他から電話がかかると、回線が一時的に切断されます。その際、通信データが壊れたり、送受信が中止されたりすることがあります。キャッチホン2に変更するか、または同一の回線ではご使用にならないでください。
- ・ 通信アプリケーションご使用時の注意  
通信アプリケーションでデータのアップロード・ダウンロードを行う際には、パソコンをサスペンド状態にならないように設定してください。アップロード・ダウンロードの途中でサスペンド状態になると、データ転送が中断することがあります。

- ・電源ケーブル等は離してご使用ください  
電源ケーブル等は、ノイズを発生して電話回線に影響をおよぼす場合があります。モデムをご使用になる際は、これらのノイズ源と回線を影響のない程度に離してご使用ください。
- ・他のモデムを接続しないでください  
他の外付けモデム、または電話機付きのモデムなどが、本モデムの「TEL」端子に接続されている場合は取り外してください。
- ・ナンバーディスプレイ対応の電話番号で接続する場合  
「184」「186」の電話番号をつけてダイヤルする場合、正常に接続できないことがあります。その場合は「184」「186」の電話番号と接続先の電話番号の間に「,」（半角のカンマ）を入れてダイヤルしてください。

## 電話回線の接続口の形状

一般的に電話回線の接続口には、「モジュラージャック」と「ローゼット」と呼ばれる2種類があります。モジュラーケーブルは、接続口がモジュラージャックの場合のみ接続できます。

ローゼットなどモジュラージャック以外の形状の場合は、NTTに工事を依頼する必要があります。





## 電話回線に電話機を取り付けているとき

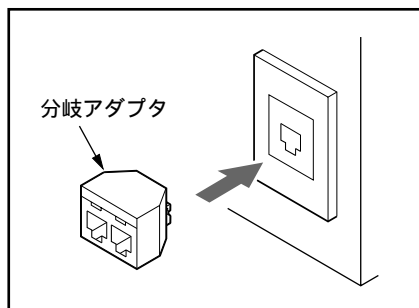
電話回線と本パソコンを接続するときは、電話機のモジュラーケーブルは取り外してください。

### アドバイス

#### 電話機のモジュラーケーブルを取り外したくないとき

市販の分岐アダプタを利用すると、本パソコンと電話機の両方をモジュラージャックに接続できます。分岐アダプタを利用するときは、以下のことに注意してください。

- ・パソコンと電話機で同時に電話回線を使うことはできません。
- ・インターネットやパソコン通信をしているときは、電話機の受話器をはずさないようにしてください。受話器がはずれると、通信の妨害となり、通信が中断されることがあります。
- ・分岐アダプタの2つのモジュラージャックに、接続区別はありません。電話機、または本パソコンをどちらのモジュラージャックに接続してもかまいません。
- ・分岐アダプタを使用するときは、なるべく2分岐以内にお使いください。



#### モジュラーケーブルの長さが足りないとき

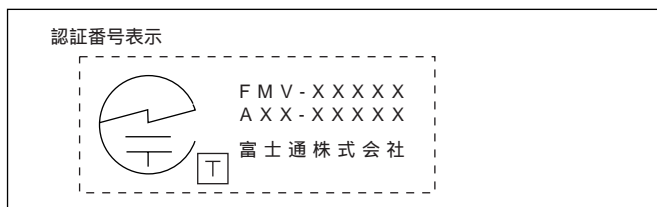
添付のモジュラーケーブルで長さが足りないときは、十分な長さの市販品をお買い求めください。

#### 携帯電話で通信する場合


「携帯電話やPHSを接続する」(P.92)

## 認証番号の表示

本モデムの技術基準適合認証番号は、パソコン本体下面に表記されています。



# ドライバのインストール

ゲームなどをインストールすると、本パソコンに合わないドライバが自動的にインストールされてしまい、本パソコンが正しく動作しなくなることがあります。また、「アプリケーションCD」に入っているドライバをインストールすると、本パソコンの機能を拡張できることがあります。

ここでは、以下のことを説明します。

- ・インストールのときに気をつけること ←P.160
- ・ディスプレイドライバをインストールする ←P.161
- ・サウンドドライバをインストールする ←P.167
- ・Logitech MouseWare をインストールする ←P.169

## インストールのときに気をつけること

### アドバイス

アクティブデスクトップを解除する別の方法

デスクトップの何も無いところで、マウスの右ボタンを1回押し、「アクティブデスクトップ」にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックしても、アクティブデスクトップを解除できます。

### アクティブデスクトップの解除

アクティブデスクトップに設定されたままインストールを行うと、正常にインストールを終了できない場合があります。インストールの前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除します。

「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを外すとアクティブデスクトップが解除され、Windows 98 の標準画面に切り替わります。

インストール終了後、チェックマークを付けてアクティブデスクトップに設定し直してください。

### アプリケーションやウィンドウの終了

「Windows 98 へようこそ」画面など、開いているウィンドウや、実行中のアプリケーションをすべて終了させてください。タスクバーに常駐するタイプのアプリケーションも終了させてください。タスクバーに常駐している「FM 便利ツール」はスタートメニューから、「VirusScan」や「PMSet 98」などは右クリックで終了してください。

また、何度もパソコンが再起動するので、スタートアップに登録されているアプリケーションは、そのつど終了させる必要があります。

### スクリーンセーバーの解除

スクリーンセーバーを設定している場合は（お買い求めのときは設定されています）、「なし」に設定してください。

## 「バージョンの競合」ウィンドウ

インストール中に、「バージョンの競合」ウィンドウが表示されることがあります。その場合は、表示されたメッセージの内容をよくお読みになり、必ず $\odot$ 「アプリケーションCD」に入っているファイルがインストールされるように、「はい」または「いいえ」を選んでください。

## ディスプレイドライバをインストールする

画面が正しく表示されないときは、ディスプレイドライバをインストールします。ディスプレイドライバのインストールは、 $\odot$ 「アプリケーションCD」から行います。インストールを始める前に、アプリケーションを終了し、開いているウィンドウを閉じてください。

Windows98が起動しないときは、SafeモードでWindows98を起動してください。

☛ 「SafeモードでWindows98を起動する」

Windows98のセットアップ直後など、Windows98が起動しているときは、ディスプレイドライバをインストールします。

## SafeモードでWindows98を起動する

- 1 キーボードの  $\boxed{Ctrl}$  の位置を確認します。
- 2 パソコン本体の電源を入れます。  
「電源を入れてパソコンを使おう」(☛P.46)
- 3 「FUJITSU」のロゴマークが表示されたら、 $\boxed{Ctrl}$  を押し続けます。  
「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されます。
- 4  $\boxed{\square\square}$  を押して、「3. Safe mode」を反転表示させ、 $\boxed{Enter}$  を押します。  
SafeモードでWindows98が起動し、Safeモードの説明が表示されます。
- 5 「デスクトップ」ウィンドウの「OK」をクリックします。
- 6 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。  
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 7  $\boxed{\times}$  (画面) をクリックします。  
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

### アドバイス

CD-ROM ドライブユニットを取り付けておいてください

「マルチベイのユニットを交換する」(☛P.24)

### アドバイス

「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されないとき

$\boxed{Ctrl}$  を押すタイミングが合わなかったことが考えられます。本パソコンを再起動して、手順3からやり直してください。

画面に何も表示されていない場合は、SUS/RESスイッチを4秒以上押して本パソコンの電源を切り、手順2から操作し直してください。それでも「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されるときは、本パソコンをSafeモードで起動できません。弊社パーソナルエコーセンターにご相談ください。

## Safe モードとは


Windows 98 を必要最低限の状態で起動する方法です。ディスプレイなどの設定に問題が起きた場合、一時的に使用します。

## Windows 98 が起動してしまっただけ

手順 4 の操作を行わないまま 30 秒経過すると、自動的に Windows 98 が起動してしまうことがあります。その場合は、本パソコンを再起動して、手順 3 からやり直してください。

## エラーメッセージについて

Windows 98 が起動してから、いろいろなエラーメッセージが表示される場合があります。すべて「OK」をクリックしてください。

- 8** 「設定」タブをクリックします。
- 9** 「詳細」をクリックします。  
「(不明なデバイス)のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 10** 「アダプタ」タブをクリックし、「変更」をクリックします。  
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 11** 「次へ」をクリックします。  
「検索方法を選択してください。」というウィンドウが表示されます。
- 12** 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」をクリックし、にします。
- 13** 「次へ」をクリックします。
- 14** 一覧から「ディスプレイアダプタ」を選び、「次へ」をクリックします。
- 15** 製造元とモデルを以下のように選びます。  
製造元 : 「(標準ディスプレイ)」  
モデル : 「標準ディスプレイアダプタ (VGA)」
- 16** 「次へ」をクリックします。  
「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示されます。表示されないときは、手順 18 へ進んでください。
- 17** 「はい」をクリックします。  
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」というウィンドウが表示されます。
- 18** 「次へ」をクリックします。  
「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」というウィンドウが表示されます。
- 19** 「完了」をクリックします。  
「(不明なデバイス)のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 20** 「閉じる」をクリックします。  
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。

## アドバイス

「コントロールパネル」ウィンドウに説明を表示させるには再起動後に「コントロールパネル」ウィンドウを表示すると、左端に説明が表示されないことがあります。このときは、「コントロールパネル」ウィンドウで「表示」メニューをクリックし、「Web ページ」をクリックして▼（チェックマーク）を付けてください。説明が表示されるようになります。

**21** 「閉じる」をクリックします。  
「続行しますか？」というメッセージが表示されます。

**22** 「はい」をクリックします。  
「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。

**23** 「はい」をクリックします。  
本パソコンが再起動します。

## 重要

### メッセージが表示されたとき

再起動後に「ディスプレイ設定に問題があります。」というメッセージが表示されたときは、「OK」をクリックし、「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「色」を「16色」に設定します。そのあと「OK」をクリックして「画面のプロパティ」ウィンドウを閉じ、本パソコンを再起動してください。

### ハードウェアウィザードが始まるメッセージが表示されたとき

ドライバを削除したり、間違ったドライバをインストールしたりすると、「OKをクリックするとハードウェアウィザードが始まります。」というメッセージが表示されることがあります。その場合は、必ず「キャンセル」をクリックしてください。


## ディスプレイドライバのインストール



け が CD-ROM をセットおよび取り出すときには、CD-ROM ドライブのトレイに指などを入れないでください。  
け がの原因となることがあります。


**1**  「アプリケーション CD」を CD-ROM ドライブにセットします。  
「セットする」(←P.35)



**2** 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。  
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

**3**  (画面) をクリックします。  
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

**4** 「設定」タブをクリックします。

**5** 「詳細」をクリックします。

- 6** 「アダプタ」タブをクリックし、「変更」をクリックします。  
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。  
「アダプタ」タブが表示されていないときは、「OK」をクリックし、もう一度「画面のプロパティ」ウィンドウで「詳細」をクリックしてください。「アダプタ」タブが表示されます。
- 7** 「次へ」をクリックします。  
「検索方法を選択してください。」というウィンドウが表示されます。
- 8** 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」をクリックし、にします。
- 9** 「次へ」をクリックします。  
「モデル」の一覧が表示されます。
- 10** 「ディスク使用」をクリックします。  
「ディスクからインストール」ウィンドウが表示されます。
- 11** 「配布ファイルのコピー元」の下の欄に、`e:¥atilt¥driver` と入力し、「OK」をクリックします。(e:には、お客様がお使いのCD-ROMドライブ名を入力してください。)
- 12** 「RAGE LT PRO AGP 2X (Japanese)」が選択されていることを確認し、「OK」をクリックします。  
「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示されます。表示されないときは、手順14へ進んでください。
- 13** 「はい」をクリックします。  
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウに戻ります。
- 14** 「次へ」をクリックします。  
ファイルがコピーされます。  
しばらくすると、「ハードウェア用に選択したドライバがインストールされました。」というウィンドウが表示されます。
- 15** 「完了」をクリックします。
- 16** 「RAGE LT PRO AGP 2X (Japanese)のプロパティ」ウィンドウで「モニタ」タブをクリックします。

- 17** 「ラップトップディスプレイパネル1024×768」と表示されているか、確認します。  
表示されているときは、手順27へ進んでください。
- 18** 「変更」をクリックします。
- 19** 「次へ」をクリックします。
- 20** 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」をクリックして  にし、「次へ」をクリックします。
- 21** 「すべてのハードウェアを表示」をクリックし、 にします。
- 22** 製造元とモデルを以下のように選びます。  
製造元：「標準モニタの種類」  
モデル：「ラップトップディスプレイパネル（1024x768）」
- 23** 「次へ」をクリックします。  
「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示されます。表示されないときは、手順25へ進んでください。
- 24** 「はい」をクリックします。  
ファイルがコピーされます。  
コピーが終わると、「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウに戻ります。
- 25** 「次へ」をクリックします。
- 26** 「完了」をクリックします。

## アドバイス

「続行しますか?」というメッセージが表示されたとき


「はい」をクリックしてください。


「リフレッシュレート」ウィンドウが表示されたとき


- 1 「OK」をクリックします。  
「この設定を保存しますか?」というメッセージが表示されます。
- 2 「はい」をクリックします。  
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 3 手順 28 へ進みます。

**27** 「閉じる」をクリックします。  
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。

**28** 「閉じる」をクリックします。  
「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。

**29** 「はい」をクリックします。  
本パソコンが再起動します。  
再起動しない場合は、「スタート」メニューから、「Windows の終了」を実行し、本パソコンを再起動してください。  
本パソコンの再起動後に「ATIデスクトップのヘルプ」ウィンドウが表示されたときは、右上の  (閉じるボタン) をクリックしてください。

**30**  「アプリケーションCD」をCD-ROMドライブから取り出します。  
「取り出す」(←P.37)

**31** 「コントロールパネル」ウィンドウの  (システム) をクリックします。

**32** 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

**33** 「ディスプレイアダプタ」の「標準ディスプレイアダプタ (VGA)」に「！」が表示されているときは、「標準ディスプレイアダプタ (VGA)」をクリックし、「削除」をクリックします。  
「！」が表示されないときは、手順 35 へ進んでください。  
「デバイス削除の確認」ウィンドウが表示されます。

**34** 「OK」をクリックします。

**35** 「閉じる」または「OK」をクリックします。

**36** 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。  
「Windows の終了」ウィンドウが表示されます。

**37** 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。

お使いの状況に合わせて、画面の解像度と発色数を変更してください。  
「画面の解像度と発色数を変える」(←P.41)  
ご購入時は、解像度が 1024 × 768 ドット、発色数は True Color (32 ビット) です。




## **アドバイス**

CD-ROM ドライブ  
ユニットを取り付け  
ておいてください

「マルチベイのユニットを  
交換する」(←P.24)

## サウンドドライバをインストールする

ゲームなどをインストールして音が正しく出なくなったときは、サウンドドライバをインストールします。

サウンドドライバのインストールは、「アプリケーションCD」から行います。インストールを始める前に、アプリケーションを終了し、開いているウィンドウを閉じてください。

「インストールのときに気をつけること」(←P.160)






**注意**






けが CD-ROMをセットおよび取り出すときには、CD-ROMドライブのトレイに指などを入れないでください。

けがの原因となることがあります。

- 1** 「アプリケーションCD」をCD-ROMドライブにセットします。  
「セットする」(←P.35)
- 2** 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。  
「ファイル名を指定して実行」ウィンドウが表示されます。
- 3** 名前の右の欄に `e:¥es1978s¥setup.exe` と入力し、「OK」をクリックします。(e:には、お客様がお使いのCD-ROMドライブ名を入力してください)  
「Welcome」ウィンドウが表示されます。
- 4** 「Next」をクリックします。  
「ESS Maestro2E」ウィンドウが表示されます。
- 5** 「Upgrade Drivers」をクリックしてにし、「Next」をクリックします。
- 6** 「No, I will restart my computer later.」をクリックしてにし、「Finish」をクリックします。
- 7** 「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。
- 8** 「電源を切れる状態にする」をクリックし、「OK」をクリックします。  
しばらくすると電源が切れます。

**6**

技術情報 (ドライバのインストール)

- 9** 10秒ほど待ってから、SUS/RESスイッチを押します。  
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 10** 「次へ」をクリックします。  
「検索方法を選択してください。」というウィンドウが表示されます。
- 11** 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」をクリックして  にし、「次へ」をクリックします。
- 12** 「検索場所の指定」をクリックして  を  にし、その下の欄に e:¥es1978s と入力して、「次へ」をクリックします。(e:には、お客様がお使いのCD-ROMドライブ名を入力してください)  
「検索場所の指定」以外の項目に  があるときは、クリックして  を  にします。  
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」というウィンドウが表示されます。
- 13** 「次へ」をクリックします。  
ファイルがコピーされます。  
コピーが終わると「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウに戻ります。
- 14** 「完了」をクリックします。
- 15**  「アプリケーションCD」をCD-ROMドライブから取り出します。  
「取り出す」(←P.37)
- 16** 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」, 「アクセサリ」, 「エンターテイメント」の順にマウスポインタを合わせ、「ボリュームコントロール」をクリックします。  
「Volume Control」ウィンドウが表示されます。
- 17** 「オプション」メニューの「プロパティ」をクリックします。
- 18** 「音量の調整」の一覧で「再生」が  になっていることを確認し、「表示するコントロール」の一覧で「PC Spkr」と「Zoom Video」をクリックして  を  にします。  
 になっている場合は、クリックする必要はありません。
- 19** 「OK」をクリックします。

**20** 「Volume Control」ウィンドウ右上の **X**(閉じるボタン) をクリックします。

## Logitech MouseWare をインストールする


### アドバイス

スクロールマウス機能とは

フラットポイントの右端を上下になぞると、アクティブウィンドウの中が上下にスクロールする機能です。CD-ROM ドライブユニットを取り付けておいてください

「マルチベイのユニットを交換する」(←P.24)

「Logitech MouseWare」をインストールすると、スクロールマウス機能を使用したり、フラットポイントの機能を拡張することができます。

「Logitech MouseWare」のインストールは、「アプリケーション CD」から行います。インストールを始める前に、アプリケーションを終了し、開いているウィンドウを閉じてください。

「インストールのときに気をつけること」(←P.160)



注意



けが CD-ROMをセットおよび取り出すときには、CD-ROMドライブのトレイに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

### 重要

#### 制限事項

「Logitech MouseWare」をインストールすると、以下の場合に正しく動作しないことがあります。


- ・ BIOS セットアップの「詳細」メニューの「キーボード/マウス設定」で、「内蔵ポインティングデバイス」(←P.126)を「自動」に設定しているとき(ご購入時は「自動」)
- ・ BIOS セットアップの「セキュリティ」メニューで、「レジューム時のパスワード」(←P.127)を「使用する」に設定しているとき(必ず「使用しない」に設定してください)
- ・ PS/2 規格以外のマウスを接続しているとき

**1** 「アプリケーション CD」を CD-ROM ドライブにセットします。「セットする」(←P.35)

**2** 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。「ファイル名を指定して実行」ウィンドウが表示されます。

**3** 「名前」の右の欄に `e:¥pointlog¥setup.exe` と入力し、「OK」をクリックします。(e:には、お客様がお使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください)「ようこそ」ウィンドウが表示されます。

**4** 「高速セットアップ」をクリックします。  
インストールが始まります。  
インストールが終了すると、「インストールが完了しました」というウィンドウが表示されます。

**5** 「すぐに Windows を再起動する。」がになっていることを確認し、「完了」をクリックします。  
本パソコンが再起動すると、「新規デバイス」ウィンドウが表示されます。

**6** 「はい」をクリックします。  
「デバイス設定ウィザード」ウィンドウが表示されます。

**7** 「次へ」をクリックします。


**8** 「クリックおよび選択に使用するボタン」というウィンドウで「次へ」をクリックします。

**9** 「中央ボタンの機能を選択」というウィンドウで「次へ」をクリックします。  
中央ボタンとは、本パソコンではフラットポイントの左ボタンと右ボタンをいっしょに押すことです。

**10** 「簡単なダブルクリック」というウィンドウで「次へ」をクリックします。

**11** 「以下のようにデバイスが設定されます。」というウィンドウで「完了」をクリックします。  
「マウスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

**12** 「OK」をクリックします。

**13**  「アプリケーションCD」をCD-ROMドライブから取り出します。  
「取り出す」(←P.37)

## アドバイス

設定を変更するには  
フラットポイントのボタンの機能を変更するときは、「マウスのプロパティ」ウィンドウで行ってください。

マウスポインタの動きがおかしいときは

次の手順で「マウスウェア」を削除してください。  
「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」を選択し、「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウの「インストールと削除」タブで「マウスウェア」をクリックし「追加と削除」をクリックしてください。メッセージが表示されたら「はい」をクリックし、「完了」をクリックしてください。本パソコンが再起動し「マウスウェア」が削除されます。

## 索引

## 記号

2DD フロッピーディスク .....	29
2HD フロッピーディスク .....	29

## A

AC アダプタ .....	50
- を取り付ける .....	50
- を取り外す .....	51
AC アダプタ表示 .....	11
Alt キー .....	16
Application キー .....	16

## B

Back Space キー .....	15
BIOS セットアップ .....	116
- 起動する .....	117
- ご購入時の設定に戻す .....	122
- 終了する .....	121
- 設定時に使用するキー一覧 .....	119
- 設定を変更する .....	118
- 操作のしかた .....	117
- パスワード機能 .....	132

## C

Caps Lock 英数キー .....	15
Caps Lock 表示 .....	13
CD-ROM .....	33
- が取り出せなくなったとき .....	38
- 注意事項 .....	34
- をセットする .....	35
- を取り出す .....	37
CD-ROM ドライブアクセス表示	
- の点滅を止めるには .....	12
CD-ROM ドライブユニット	
- を取り付ける .....	24
- を取り外す .....	24
CRT コネクタ .....	9, 149
CRT ディスプレイ .....	101
- 解像度と発色数 .....	106
- 解像度を変更する .....	107
- 発色数を変更する .....	107
- 表示を切り替える .....	103
- を接続する .....	102

Ctrl キー .....	16
---------------	----

## D

DC-IN コネクタ .....	7
Delete キー .....	15
DMA チャンネル .....	147
DOS/V .....	71
DVD .....	109

## E

EJECT ボタン .....	8
End キー .....	15
Enter キー .....	15
Esc キー .....	14

## F

FDD ユニット .....	17
- を外付けで接続する .....	26
- を取り付ける .....	24
- を取り外す .....	24
- を取り外す (外付け) .....	28
FDD ユニットコネクタ .....	7
Fn キー .....	16

## H

Home キー .....	15
---------------	----

## I

Insert キー .....	14
Intellisync .....	154
IRQ .....	147

## J

JEIDA .....	87
-------------	----

## L

LAN カード .....	85
LOW バッテリー状態 .....	56

## M

MO ドライブ .....	114
---------------	-----

<b>N</b>	
Num Lk ( Num Lock ) キー .....	14
Num Lock 表示 .....	13

<b>P</b>	
PC/AT 互換機 .....	71
PCMCIA .....	87
PC カード .....	85
- 注意事項 .....	86
- をセットする .....	88
- を取り出す .....	90
PC カードアクセス表示 .....	13
PC カードスロット .....	6
PC カード取り出しボタン .....	6
PC カードロック .....	6
PDC コネクタ .....	7
- に接続する .....	92
Pg Dn ( Page Down ) キー .....	15
Pg Up ( Page Up ) キー .....	15
PHS .....	
- を接続する .....	92
PHS 接続カード .....	85
PHS を接続する .....	95
PIAFS .....	94
PMSet98 .....	67
POST .....	116
Prt Sc ( Print Screen ) キー .....	14

<b>R</b>	
RAM .....	77

<b>S</b>	
Safe モード .....	161
Save To Disk 機能 .....	60, 64
Save To Disk 領域 .....	151
Scroll Lock 表示 .....	13
SCSI .....	113, 114
SCSI カード .....	85
Shift キー .....	15
SUS/RES スイッチ .....	4
SUS/RES 表示 .....	11

<b>U</b>	
USB .....	7
USB コネクタ .....	7, 149

<b>W</b>	
Windows キー .....	16

<b>イ</b>	
インストール .....	71
- サウンドドライバ .....	167
- ディスプレイドライバ .....	161
- フラットポイントのドライバ .....	169

<b>エ</b>	
液晶ディスプレイ .....	2
- 解像度と発色数 .....	41
- 解像度を変更する .....	41
- 注意事項 .....	19
- 廃棄 .....	19
- 発色数を変更する .....	41
エラーメッセージ .....	138

<b>オ</b>	
お手入れ .....	43
オプション機器 .....	70
音量 .....	
- を設定する .....	40
- を調節する .....	39
音量つまみ .....	39
音量ボリューム .....	5, 39

<b>カ</b>	
カーソルキー .....	15
解像度 .....	
- CRT ディスプレイ .....	106
- 液晶ディスプレイ .....	41
解像度を変更する .....	
- CRT ディスプレイ .....	107
- 液晶ディスプレイ .....	41
拡張 RAM モジュール .....	77
拡張 RAM モジュールスロット .....	10
拡張キーボードコネクタ .....	9, 149

拡張コネクタ	17
拡張コネクタカバー	9
カバークローズスイッチ	2
画面	101
- 解像度を変更する	41
- 発色数を変更する	41

## キ

キーボード	3, 14
- のお手入れ	43
起動時の自己診断テスト	116
起動メニュー	130

## ク

空冷用ファン	7
クリーニングフロッピー	43

## ケ

ケーブル	73, 92, 101
携帯電話	
- を接続する	92
携帯電話接続カード	85
携帯電話接続ケーブル	92
携帯電話で通信する	96

## コ

コネクタのピン配列と信号名	148
---------------	-----

## サ

サウンドドライバ	167
サスペンド/レジュームスイッチ	4
サスペンド機能	60, 61

## シ

充電	52
充電時間	53
終了メニュー	47
終了メニュー (BIOS)	131
仕様一覧	144
詳細メニュー	125
状態表示 LCD	4
省電力	60, 66

省電力メニュー	128
情報メニュー	131
シリアルコネクタ	9, 148

## ス

スーパーディスクドライブユニット	111
スピーカー	3

## セ

赤外線通信	154
赤外線通信ポート	7
セキュリティメニュー	127
接続・セット	

- AC アダプタ	50
- CD-ROM	35
- CRT ディスプレイ	102
- FDD ユニット (外付け)	26
- PC カード	88
- PDC コネクタ	92
- PHS	92
- 携帯電話	92
- テンキーボード	84
- 内蔵 DVD-ROM ドライブユニット	110
- 内蔵スーパーディスクドライブユニット	112
- バッテリー	57
- バッテリー (増設用)	83
- プリンタ	74
- フロッピーディスク	31
- マウス	84
- メモリ	78

### 接続・セット・取り付け

- CD-ROM ドライブユニット	24
- FDD ユニット	24
- 内蔵 DVD-ROM ドライブユニット	24
- 内蔵スーパーディスクドライブユニット	24
- 内蔵バッテリーユニット	24
- マルチベイ用カバー	24
- ユニット	24

節電	60
- ご購入時の設定	66
- の設定を変更する	66

## ソ

走査周波数 .....	150
増設する	
- バッテリ .....	83
- メモリ .....	77

## チ

チルトフット .....	10
--------------	----

## テ

ディスプレイ	
- CRT .....	101
- CRT ディスプレイに表示を切り替える ...	103
- 解像度を変更する .....	41
- のお手入れ .....	43
- 発色数を変更する .....	41
ディスプレイドライバ .....	161
テンキーボード	
- を接続する .....	84
テンキーモード .....	16
電源	
- 注意事項 .....	46, 47
- の管理 .....	66
- を入れる .....	46
- を切る .....	47
電話回線 .....	158
- 接続口 .....	158

## ト

盗難防止用ロック .....	9
ドライバ .....	71
ドライバのインストール .....	160
- サウンドドライバ .....	167
- ディスプレイドライバ .....	161
- フラットポイントのドライバ .....	169
取り付け	
- AC アダプタ .....	50
- CD-ROM ドライブユニット .....	24
- CRT ディスプレイ .....	102
- FDD ユニット .....	24
- FDD ユニット (外付け) .....	26
- PC カード .....	88
- PDC コネクタ .....	92

- PHS .....	92
- 携帯電話 .....	92
- テンキーボード .....	84
- 内蔵 DVD-ROM ドライブユニット .....	24
- 内蔵スーパーディスクドライブユニット ...	24
- 内蔵バッテリーユニット .....	24
- バッテリ .....	57
- バッテリ (増設用) .....	83
- プリンタ .....	74
- マウス .....	84
- マルチベイ用カバー .....	24
- メモリ .....	78
- ユニット .....	24
取り付ける	
- 内蔵 DVD-ROM ドライブユニット .....	110
- 内蔵スーパーディスクドライブユニット ...	112
取り外し・取り出し	
- AC アダプタ .....	51
- CD-ROM .....	37
- CD-ROM ドライブユニット .....	24
- FDD ユニット .....	24, 28
- PC カード .....	90
- 内蔵 DVD-ROM ドライブユニット .....	24
- 内蔵スーパーディスクドライブユニット ..	24
- 内蔵バッテリーユニット .....	24
- バッテリ .....	57
- プリンタ .....	75
- フロッピーディスク .....	31
- マルチベイ用カバー .....	24
- メモリ .....	78
- ユニット .....	24

## ナ

内蔵 DVD-ROM ドライブユニット .....	109
- を取り付ける .....	24, 110
- を取り外す .....	24
内蔵スーパーディスクドライブユニット .....	111
- を取り付ける .....	24, 112
- を取り外す .....	24
内蔵バッテリーパックスロット .....	10
内蔵バッテリーユニット .....	83
- を取り付ける .....	24
- を取り外す .....	24



内蔵マイク .....	5
- 注意事項 .....	19
内蔵モデム .....	157
- 仕様 .....	146
- 注意事項 .....	157

## 二

認証番号 .....	159
------------	-----

## 八

ハードディスク .....	113
ハードディスク (増設用) .....	113
ハードディスクアクセス表示 .....	12
廃棄 .....	19
パスワード .....	132
- 設定する .....	133
- 入力する .....	135
- 変更 / 削除する .....	135
パソコン本体	
- 注意事項 .....	18
- のお手入れ .....	43
発色数	
- CRT ディスプレイ .....	106
- 液晶ディスプレイ .....	41
発色数を変更する	
- CRT ディスプレイ .....	107
- 液晶ディスプレイ .....	41
バッテリー .....	52
- 注意事項 .....	57
- の異常表示 .....	56
- の稼働時間 .....	54
- の残量を確認する .....	54
- の充電時間 .....	53
- 廃棄 .....	19
- を交換する .....	57
- を充電する .....	52
バッテリー (増設用) .....	83
- を取り付ける .....	83
バッテリー残量表示 .....	11
バッテリー充電表示 .....	11
バッテリーパック装着表示 .....	11
パラレルコネクタ .....	9, 148
半角 / 全角キー .....	15

## ヒ

光磁気ディスクドライブ .....	114
-------------------	-----

## フ

ファンクションキー .....	14
ブライツネスボリューム .....	2
フラットポイント .....	5
- 注意事項 .....	18
- のドライバ .....	169
プリンタ .....	73
- を接続する .....	74
- を取り外す .....	75
フロッピーディスク .....	26
- 注意事項 .....	30
- データを守る .....	32
- をセットする .....	31
- を取り出す .....	31
フロッピーディスクアクセス表示 .....	12
フロッピーディスクドライブ	
- のお手入れ .....	43
フロッピーディスク取り出しボタン .....	17

## へ

ヘッドホン・ジャック .....	5
------------------	---

## マ

マイクイン・ジャック .....	5
マウス	
- を接続する .....	84
マウスコネクタ .....	9, 149
マルチベイ .....	8
- に取り付けられるユニット .....	23
マルチベイ用カバー	
- を取り付ける .....	24
- を取り外す .....	24

## メ

メインメニュー .....	123
メッセージ一覧 .....	137
メモリ .....	77
- 容量の確認 .....	80
- を取り付ける .....	78
- を取り外す .....	78

## モ

モジュラーコネクタ .....	9, 149
モデム .....	157
- 仕様 .....	146

## ユ

ユニット .....	22
- を交換する .....	24

## ラ

ラインイン・ジャック .....	5
ラッチ .....	3

## リ

リセットスイッチ .....	10
リソース一覧 .....	147

## レ

レジューム .....	63, 65
-------------	--------

## ロ

ロックボタン .....	10
--------------	----

## ワ

パスワード	
- 設定する .....	133
割り込み番号 .....	147





Microsoft および Windows、MS、MS-DOS、WindowsNT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Intel は、米国インテル社の登録商標です。

Celeron は、米国インテル社の商標です。

3D RAGE は、ATI Technologies, Inc. の商標です。

K56flex は、Lucent Technologies 社、Rockwell International 社の商標です。

MNP は、Microcom 社の登録商標です。

ZAURUS は、シャープ株式会社の登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 1999

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

---

FMV-BIBLO NR/33X

使いこなす本 ハード編

B3FH-5281-01-01

発行日 1999年5月

発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

---

本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。

本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。

無断転載を禁じます。

落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。

㊦ 9906-4



# 箱を開けたら...

箱の中身を確認してください。  
ご購入後、できるだけ早く添付品を確認  
しましょう。

## はじめに読む本

まず最初に...

### 1 取扱説明書



パソコンが初めてなら...

### 2 かるがるパソコン入門



CD-ROMが  
付いています。

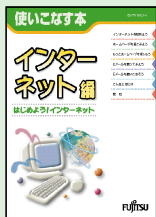


FMVを知ろう!

### 3 FMV総合案内



## 使いこなす本



### インターネット編

- ・インターネットをはじめる
- ・ホームページを見る
- ・Eメールで手紙を出す



### ソフト編

- ・地図で調べる
- ・電車の経路を調べる
- ・はがきを作る
- ・写真でカレンダーを作る

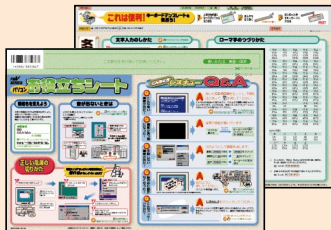
この本は次の機種には  
添付されません。  
FMV-DESKPOWER  
ME/355  
FMV-BIBLO  
NE/33, MF/33



### ハード編

- ・各部の名称を知る
- ・プリンタをつなぐ
- ・メモリを増やす

## 困ったときの本



### お役立ちシート

お手元に置いてお使いください。  
・ありがちなトラブルの解決  
・文字入力早わかり



### トラブル解決Q&A

- ・困ったときの画面集
- ・トラブル解決の道のり
- ・サポート情報
- ・パソコンをふりだしにもどす
- ・アプリケーションのインストール



このマニュアルはエコマーク認定の再生紙を使用しています。



T4988618873208